デジタルビデオレコーダー

ユーザーマニュアル

法的情報

この文書について

- 本ドキュメントには、製品の使用および管理に関する指示が含まれています。以下に記載されている写真、図表、画像、およびその他すべての情報は、説明および解説のみを目的としています。
- 本ドキュメントに記載されている情報は、ファームウェアのアップデートその他の理由により、予告なく変更される場合があります。最新バージョンのドキュメントは、Hikvision ウェブサイト (***https://www.hikvision.com***) でご覧いただけます。別段の合意がない限り、杭州 Hikvision デジタルテクノロジー株式会社またはその関連会社（以下「Hikvision」）は、明示または黙示を問わず、いかなる保証も行いません。
- 本ドキュメントは、本製品のサポートに関する訓練を受けた専門家の指導および支援のもとでご使用ください。

本製品について

- 本製品は、購入された国または地域でのみアフターサービスサポートを受けることができます。
- お選びいただいた製品がビデオ製品の場合は、以下のQRコードをスキャンして「ビデオ製品の使用に関する取り組み」を入手し、よくお読みください。

知的財産権に関する承認

- Hikvisionは、本ドキュメントに記載された製品に組み込まれた技術に関連する著作権および／または特許権を所有しており、これには第三者から取得したライセンスが含まれる場合があります。
- 本文書のテキスト、画像、グラフィックなど、その一部はすべて Hikvision に帰属します。書面による許可なく、本文書のいかなる部分も、その全部または一部を、いかなる手段によっても抜粋、複製、翻訳、または改変することはできません。
- HIKVISIONおよびその他の Hikvision の商標およびロゴは、さまざまな法域における Hikvision の所有物です。
- 記載されているその他の商標およびロゴは、それぞれの所有者に帰属します。
- HDMIおよびHDMI High-Definition Multimedia インターフェース、ならびにHDMIロゴは、米国およびその他の国におけるHDMI Licensing Administrator, Inc.の商標または登録商標です。

法的免責事項

- 適用される法律で認められる最大限の範囲において、本書および記載されている製品（そのハードウェア、ソフトウェア、およびファームウェアを含む）は、「現状有姿のまま」かつ「すべての欠陥およびエラーを含む」状態で提供されます。HIKVISION は、明示的または

商品性、満足のいく品質、特定目的への適合性を含むがこれらに限定されない。本製品のご利用はお客様ご自身の責任において行ってください。いかなるイベントにおいても、HIKVISIONは、事業利益の損失、事業中断、データの損失、システムの破損、文書の紛失を含む（ただしこれらに限定されない）特別損害、結果的損害、付随的損害、間接損害について、お客様に対し一切の責任を負いません。システムの破損、または文書の損失を含むがこれらに限定されない損害について、契約違反、不法行為（過失を含む）、製造物責任その他のいかなる法的根拠に基づくものであっても、本製品の使用に関連して生じた場合、たとえHIKVISIONがそのような損害または損失の可能性について事前に通知を受けていた場合であっても、一切の責任を負いません。

- お客様は、インターネットの性質上、固有のセキュリティリスクが存在することを認識し、サイバー攻撃、ハッカー攻撃、ウイルス感染、その他のインターネットセキュリティリスクに起因する異常動作、プライバシー漏洩、その他の損害について一切の責任を負いません。ただし、必要に応じてタイムリーな技術サポートを提供します。
- お客様は、適用されるすべての法律を遵守して本製品を使用することに同意し、お客様の使用が適用される法律に準拠していることを確認する責任はお客様のみにあるものとします。特に、本製品の使用が、パブリシティ権、知的財産権、データ保護およびその他のプライバシー権を含むがこれらに限定されない、第三者の権利を侵害しない方法で行われることを保証する責任を負います。お客様は、大量破壊兵器の開発または製造、化学兵器または生物兵器の開発または製造、核爆発装置または安全でない核燃料サイクルに関連する文脈におけるあらゆる活動、または人権侵害を支援する目的での使用を含みますがこれらに限定されません。
- 本文書と適用される法律との間に、イベントとして矛盾が生じた場合は、後者が優先する。

©杭州海康威視デジタル技術有限公司。無断複写・転載を禁じます。

規制情報

FCC 情報

コンプライアンスの責任者が明示的に認証規格していない変更または改造は、ユーザーによる本機器の操作の権限を無効にする可能性があることにご留意ください。
FCC 準拠：本機器は、FCC 規則第 15 部の規定に基づく試験を実施し、その制限に準拠していることが確認されています。これらの制限は、住宅環境での設置において有害な干渉から合理的な保護を提供するように設計されています。本機器は、無線周波エネルギーを発生、使用、および放射するものであり、指示に従って設置および使用されない場合、無線通信に有害な干渉を引き起こす可能性があります。ただし、特定の設置環境において干渉が発生しない保証はありません。本機器がラジオやテレビの受信に有害な干渉を引き起こしている場合（機器の電源をオフにしてからオンにすることで確認可能）、ユーザーは以下の対策のいずれかまたは複数を試み、干渉の解消を図るよう推奨します：

- 受信アンテナの方向や設置場所を変更する。
- 本機器と受信機の間隔を広げる。
- 受信機が接続されている回路とは異なる回路のコンセントに機器を接続してください。
- 販売店または経験豊富なラジオ／テレビ技術者に相談してください。

FCC条件
本装置はFCC規則第15部に準拠しています。動作は以下の2条件に従います：

- 本装置は有害な干渉を引き起こしてはなりません。
- 本装置は、受信したあらゆる妨害（意図しない動作を引き起こす可能性のある妨害を含む）を受け入れなければなりません。

EU適合宣言

CE

本製品およびアクセサリー（該当する場合）には「CE」マークが付けられており、「CE」マークが付与されており、EMC指令2014/30/EU、LVD指令2014/35/EU、RoHS指令2011/65/EUに列挙された適用される欧州調和規格に準拠しています。

2012/19/EU（WEEE指令）：この記号が付された製品は、欧州連合域内で一般廃棄物として無分別に廃棄できません。適切なリサイクルのため、同等の新品機器購入時に販売店へ返却するか、指定回収拠点で処分してください。詳細は以下を参照：
http***://www.recyclethis.info***

規則 (EU) 2023/1542（電池規制）：本製品には電池が含まれており、規則 (EU) 2023/1542 に準拠しています。
電池を含み、規則（EU）2023/1542に準拠しています。この電池は欧州連合（EU）域内で一般廃棄物として廃棄できません。電池の詳細情報は製品説明書をご参照ください。電池にはこのマークが記載されており、カドミウム（Cd）または鉛（Pb）を示す文字が含まれる場合があります。適切なリサイクルのため、電池は販売店または指定回収拠点へ返却してください。
詳細は以下を参照：www.recyclethis.info

適用モデル

本マニュアルは下記のモデルに適用されます。

シリーズ	モデル
iDS-7200HUHI-M1/E	iDS-7208HUHI-M1/E
iDS-7200HUHI-M/PXT	iDS-7204HUHI-M1/PXT
	iDS-7208HUHI-M2/PXT
	iDS-7216HUHI-M2/PXT
iDS-7100HUHI-M1/S (E)	iDS-7108HUHI-M1/S (E)
iDS-7200HUHI-M1/X	iDS-7204HUHI-M1/X
	iDS-7208HUHI-M1/X
iDS-7200HUHI-M2/X	iDS-7204HUHI-M2/X
	iDS-7216HUHI-M2/X
	iDS-7208HUHI-M2/X
iDS-7100HQHI-M1/S (E)	iDS-7116HQHI-M1/S (E)
iDS-7200HQHI-M1/E	iDS-7216HQHI-M1/E
iDS-7200HQHI-M1/XT	iDS-7204HQHI-M1/XT
	iDS-7208HQHI-M1/XT
	iDS-7216HQHI-M1/XT
iDS-7200HQHI-M2/XT	iDS-7208HQHI-M2/XT
	iDS-7216HQHI-M2/XT
	iDS-7232HQHI-M2/XT
iDS-7208HTHI-M2/XT	iDS-7204HTHI-M1/XT
	iDS-7204HTHI-M2/XT
	iDS-7208HTHI-M2/XT

記号の規則

この文書で使用される記号は、以下のように定義されています。

記号	説明
危険	回避しなければ死亡または重傷を負う危険な状況があることを示す。
注意	回避しなければ、機器の損傷、データの損失、性能の低下、または予期しない結果をもたらす可能性のある潜在的な危険な状況を示します。
注記	本文の重要な点を強調または補足するための追加情報を提供します。

安全に関する指示

- すべてのパスワードおよびその他のセキュリティ設定の適切な構成は、設置者および／またはエンドユーザーの責任です。
- 製品の使用にあたっては、国および地域の電気安全規制を厳守してください。
- プラグを電源コンセントにしっかりと差し込んでください。1 つの電源アダプタに複数の機器を接続しないでください。アクセサリーや周辺機器を接続または取り外す前に、デバイスの電源をオフにしてください。
- 感電の危険！ メンテナンス前にはすべての電源を切ってください。
- 本機器は接地された電源コンセントに接続してください。
- コンセントは機器の近くに設置し、容易にアクセスできるものとする。
- 危険な通電を示す表示がある装置の場合、端子に接続される外部配線は、指示を受けた者 ϟ 危険な通電状態を示す表示がある装置の場合、端子に接続される外部配線は、指示を受けた者による設置が必要です。
- 装置を不安定な場所に設置しないでください。装置が落下し、重大な人身事故や死亡事故を引き起こす恐れがあります。
- 入力電圧は、IEC62368 に準拠した SELV（安全超低電圧）および LPS（限定電源）を満たす必要があります。
- 高接触電流！ 電源に接続する前にアースに接続してください。
- 煙、異臭、または異音が装置から発生した場合は、直ちに電源を切り、電源ケーブルを抜いてください。その後、サービスセンターまでご連絡ください。
- 本装置はUPSと併用し、可能な限りメーカー推奨のHDDをご使用ください。
- 本機器は、子供がいる可能性のある場所での使用には適していません。
- 注意：誤った種類の電池と交換すると爆発の危険があります。
- 電池を飲み込まないでください。化学火傷の危険性があります！
- 本製品にはコイン型電池が含まれています。コイン型電池を飲み込むと、わずか2時間で深刻な内部やけどを引き起こし、死に至る可能性があります。
- 誤った種類の電池で不適切に交換すると、安全装置が機能しなくなる可能性があります（例：一部のリチウム電池タイプの場合）。
- 電池を火中や高温のオーブンに廃棄したり、機械的に押しつぶしたり切断したりしないでください。爆発の原因となる可能性があります。
- 電池を極端に高温の環境に放置しないでください。爆発や可燃性液体・ガスの漏出を引き起こす恐れがあります。
- 電池を極端に低い気圧にさらさないでください。爆発や可燃性液体・ガスの漏出を引き起こす可能性があります。
- 使用済み電池は指示に従って廃棄してください。
- ファンブレードやモーターに身体の一部が接触しないようにしてください。メンテナンス中は電源を切断してください。
- 身体の一部をモーターから遠ざけてください。メンテナンス中は電源を切ってください。
- 純正モデルと同じ電源、または同じ電圧・電流のLPS電源のみを使用してください。
- データ漏洩を防ぐため、SSD デバイスを廃棄する前に、Secure Erase 機能を使用してデータを消去してください。

予防および注意事項

本機器の接続および操作前に、以下の注意事項をご確認ください：

- 本装置は屋内専用です。換気の良い、ほこりのない、液体のない環境に設置してください。
- レコーダーはラックや棚に適切なセキュリティで固定してください。落下による強い衝撃や振動は、レコーダー内部の精密電子部品を損傷する恐れがあります。
- 本装置は水滴や水しぶきにさらさないでください。また、花瓶などの液体入りの容器を装置の上に置かないでください。
- 点火されたろうそくなどの裸火を本装置の上に置かないでください。
- 換気口を新聞紙、テーブルクロス、カーテンなどの物品で覆い、換気を妨げてはいけません。また、ベッド、ソファ、ラグその他の類似の表面に機器を設置して開口部を塞いではなりません。
- 特定のモデルでは、AC電源への接続用端子に正しい配線が行われていることを確認してください。
- 特定のモデルでは、必要に応じてIT電源配電システムへの接続用に設計・改造されています。
- はバッテリーホルダー本体を示し、はバッテリーホルダー内部のセル配置を示します。
- + は、直流を使用または発生する機器のプラス端子を示します。- は、直流を使用または発生する機器のマイナス端子を示します。
- 本機が電源オフ状態または長期間放置された場合、コイン型電池の電源が消耗する可能性があります。
- コイン型電池の電源が切れると、システム時刻が不正確になります。電池交換については、アフターサービスまでご連絡ください。
- 十分な換気のために、機器の周囲には最低200mm（7.87インチ）の距離を保ってください。
- 特定のモデルでは、AC 電源に接続する端子の配線が正しいことを確認してください。
- 鋭利な縁や角には触れないでください。
- 本装置の動作温度が45℃（113°F）を超える場合、またはS.M.A.R.T.におけるHDD温度が規定値を超えた場合は、装置を冷却環境での動作か、HDDの交換によりS.M.A.R.T.のHDD温度を規定値以下に保ってください。
- 山頂、鉄塔、森林などの特殊な条件下では、装置の吸気口にサージサプレッサを設置してください。
- 電源を切った後も電気が残っている可能性があるため、むき出しの部品（入力端子の金属接点など）には触れないでください。また、少なくとも5分間は待機してください。
- 本装置のUSBポートは、マウス、キーボード、USBフラッシュドライブ、Wi-Fiドングル接続専用です。接続機器の電流は0.1A以下であること。
- 本装置のシリアルポートはデバッグ専用です。
- 本装置の電源出力ポートが限定電源に準拠しない場合、当該ポートから給電される接続機器には防火エンクロージャーを装備すること。
- 本装置のパッケージに電源アダプタが同梱されている場合は、同梱のアダプタのみを使用してください。
- または のステッカーが貼られている機器については、以下の注意事項に注意してください。注意：部品が高温になります！触れないでください。部品を取り扱う際に指を火傷する恐れがあります。電源を切ってから30分待ってから部品を取り扱ってください

部品！触れないでください。部品を扱う際に指を火傷する恐れがあります。電源を切ってから30分待ってから部品を扱ってください。

- 壁や天井に設置する必要がある場合は、本マニュアルの指示に従って設置してください。
- 怪我を防ぐため、本装置は設置説明書に従い、設置面にセキュリティをもって固定してください。

- 高温環境下（40°C（104°F）～55°C（131°F））では、一部の電源アダプターの出力が低下する場合があります。本装置の配線、設置、分解を行う前に、必ず電源を切断してください。
- 本装置を自身で配線する場合は、装置に表示されている電気的パラメータに基づき、対応する電線を選択して電源を供給してください。標準的なワイヤーストリッパーで、対応する位置の電線の被覆を剥いてください。深刻な結果を避けるため、被覆を剥いた電線の長さは適切であり、導体が露出しないようにしてください。
- 装置から煙、異臭、異音が発生した場合は、直ちに電源を切り、電源ケーブルを抜いてサービスセンターに連絡してください。

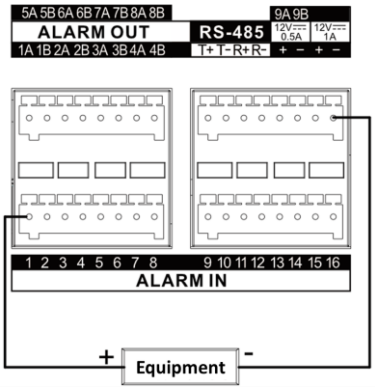
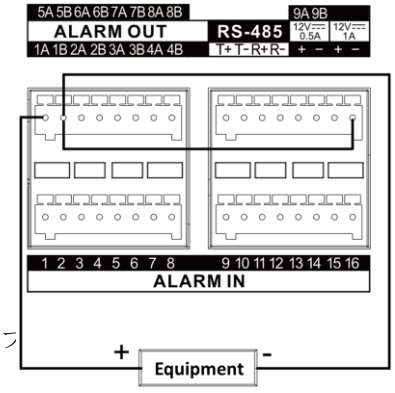
インジケーターとインターフェースの説明

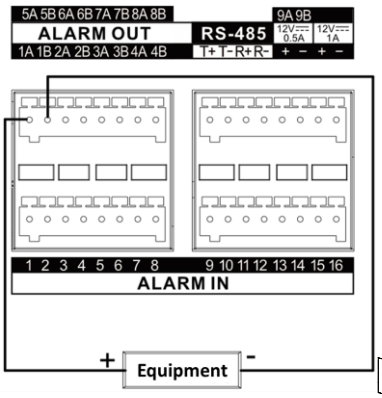
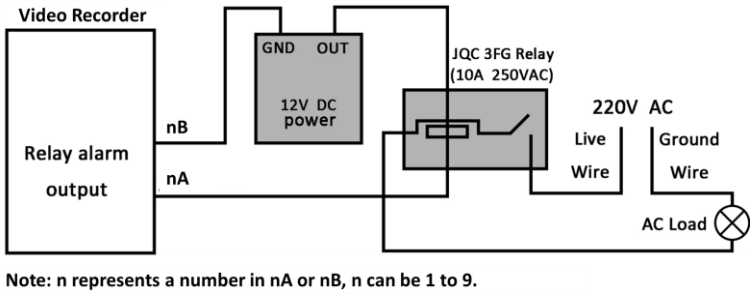
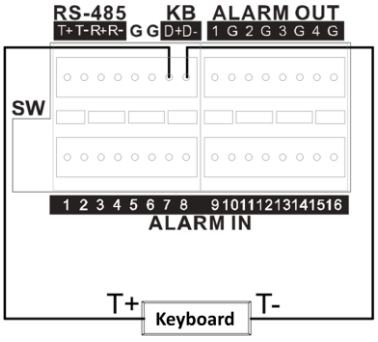
インターフェース説明

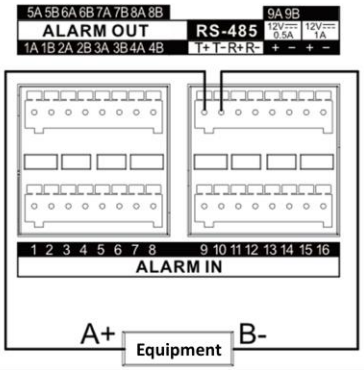
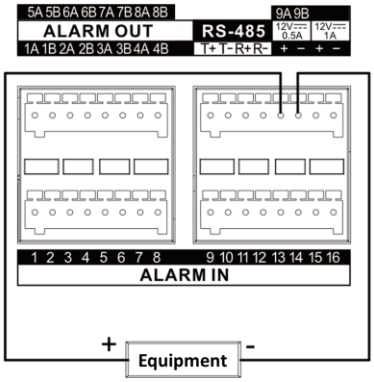
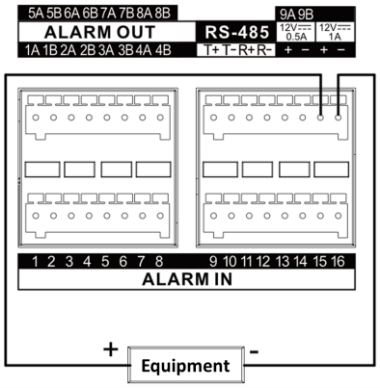
パネルインターフェースはモデルによって異なります。一般的なインターフェースの説明については、以下の表を参照してください。

表 1-2 共通インジケータの説明

項目	説明
ビデオ IN	Turbo HDおよびアナログビデオ入力用BNCインターフェース。
ビデオ OUT	ビデオ出力用 BNC コネクタ。
オーディオ入力	オーディオ入力用RCAコネクタ。
オーディオ出力	オーディオ出力用RCAコネクタ。
ライン入力	双方向オーディオ入力用RCAコネクタ。
USB	追加デバイス用ユニバーサルシリアルバス（USB）インターフェース。
VGA	ローカルビデオ出力およびメニュー表示用DB15コネクタ。
HDMI	HDMIインターフェースによるビデオ出力。
RS-485	パン/チルトユニット、スピードドーム型等用 RS-485 シリアルインターフェース
RS-232	パラメータ設定用、または透過チャネル用 RS-232 インターフェース。
LAN	RJ-45 自己適応型イーサネット端子。
eSATA	記録またはバックアップ用のストレージおよび拡張インターフェース。
GND	接地。
電源スイッチ	デバイスの電源をオン/オフするスイッチ。
電源	100～240 VAC、48 VDC、または 12 VDC 電源。
USIMカード	UIM/SIMカードスロット。
⍑	SMAアンテナインターフェース。
アラーム	アラーム入力はアラーム入力信号を受信します。機器のプラス端子（+）は「+」に接続し、機器のマイナス端子（-）は「-」または「G」に接続してください。 アラーム入力の接続例として、以下の図を参照してください。

項目	説明
	
アラーム OUT	アラーム出力はアラーム信号を出力します。 機器が直流電源を使用する場合、そのプラス端子（+）は「A」の付いた番号に接続し、マイナス端子（-）は「B」の付いた対応する番号に接続した後、「-」または「G」に接続してください。直流機器のアラーム出力接続例として、以下の図を参照してください。  機器が交流電源を使用する場合、その ア 番号に接続し、マイナス端子（-）は対応する「B」の付番号に接続してください。 以下の図を、AC機器のアラーム出力接続例として使用してください。

項目	説明
	 注記 AC負荷電圧が高くなる可能性があるため、安全のため外部リレーをご使用ください。参考として以下の図を使用してください。  Note: n represents a number in nA or nB, n can be 1 to 9.
KB	KB はキーボードを表します。D+ と D- をそれぞれ T+ と T- に接続してください。以下の図を参照してください。 
RS-485	RS-485 は、2 線式、半二重、多点シリアル接続の電気的仕様です。「T+」と「T-」をそれぞれ「A+」と「B-」に接続してください。 以下の図を参照してください。

項目	説明
	
Ctrl 12V/$^{12V⎓}_{0.5A}$	外部アラーム装置用の制御可能な12VDCおよび0.5/1A電源出力。対応するアラーム出力がトリガーされると電源がオンになります。 以下の図を参照してください。 
DC 12V/$^{12V⎓}_{1A}$	12 VDC、1 Aの電源出力を提供します。以下の図を 参照してください。 

HDDの取り付け

お使いのデバイスがHDDのホットスワップに対応していない場合、ハードディスクドライブ（HDD）を取り付ける前にデバイスの電源を切ってください。この取り付けには、メーカー推奨のHDDを使用してください。HDD取り付けビデオを見るには、以下のQRコードをスキャンしてください。

- **図1-1 HDDの取り付け**

ブラケットの取り付け

ブラケットの取り付けは、デバイスカバーを取り外し、HDDを内部ブラケットに設置する必要がある場合に適用されます。

手順

1. 背面にあるネジを緩め、カバーを後方に押して取り外します。

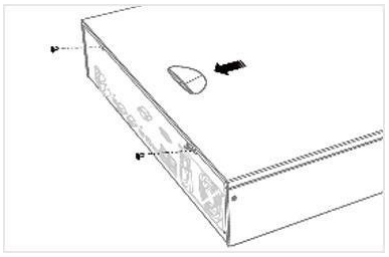


図1-2 カバーの取り外し

2. HDDをブラケットにネジで固定します。

注記

下層ブラケットにHDDを取り付ける前に、上層ブラケットを必ず取り外してください。

•

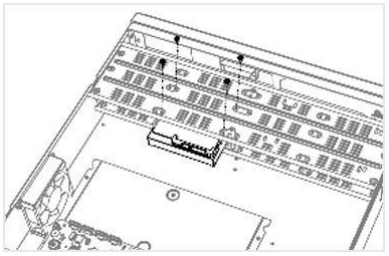


図 1-3 HDD の固定

3. データケーブルと電源ケーブルを接続します。

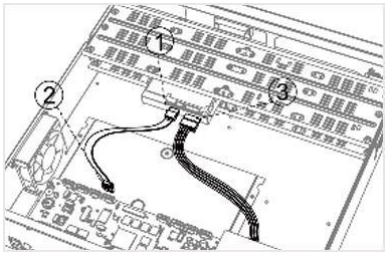


図 1-4 ケーブルの接続

注記

上記の手順を繰り返して他のHDDを取り付けることができます。

•

4. デバイスカバーを再取り付けし、ネジを締めて固定します。

フロントパネルの差し込み・引き抜き式取り付け

フロントパネルのプラグプル取り付けは、

キーでデバイスのフロントパネルを開けてHDDを取り付ける場合に適用されます。

手順

1. 取り付け耳をネジで HDD に固定します。

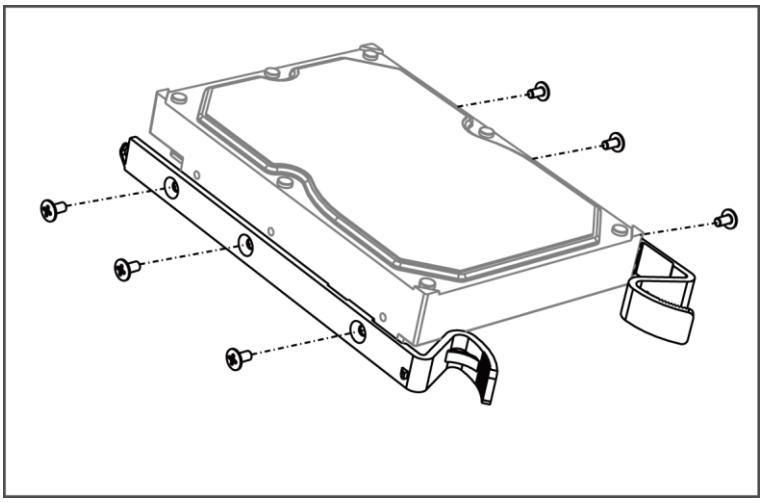


図 1-5 HDD への取り付け耳の固定

2. 付属のキーでフロントパネルのロックを解除し、フロントパネルの両側にあるボタンを押して開きます。

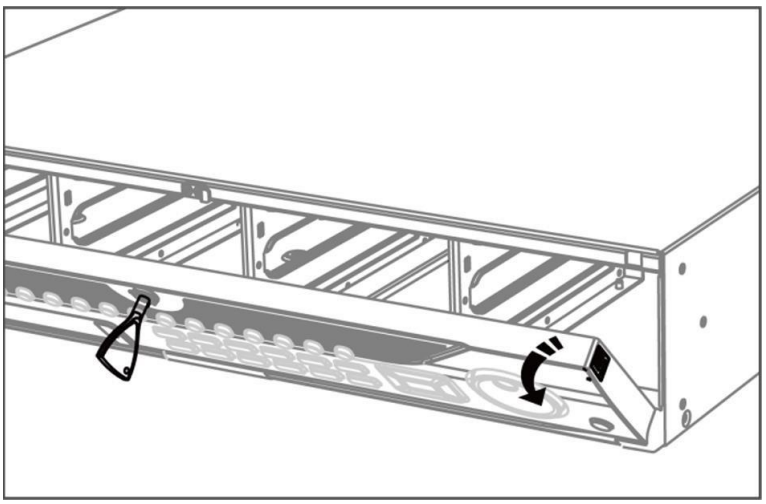


図1-6 フロントパネルを開く

3. HDDがしっかりと固定されるまで挿入してください。

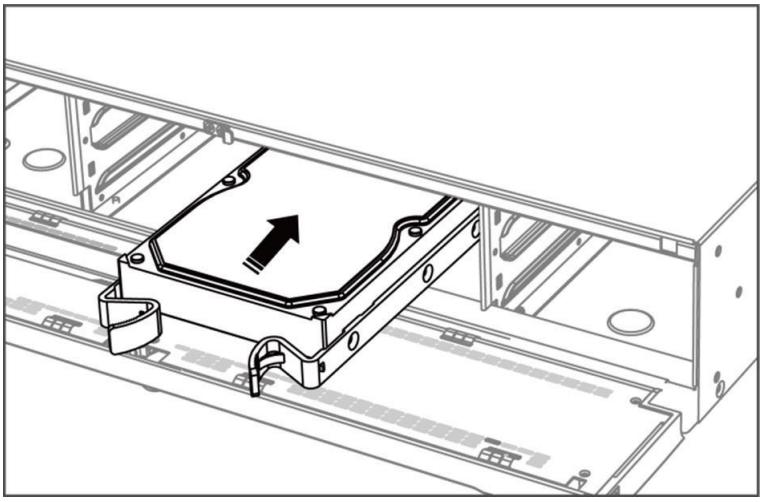


図 1-7 HDD の挿入

4. オプション：他のHDDを取り付ける場合は上記の手順を繰り返します。
5. フロントパネルを閉め、キーでロックします。

HDDケースの取り付け

HDD ケースの取り付けとは、HDD をケースに取り付けてから、HDD ケースをスロットに差し込む方法です。

手順

1. パネルキーでフロントパネルのロックを解除します。
2. 前面パネルをデバイスから引き出し、左ハンドルより少し上に位置させます。

注意

フロントパネルと本体の間の角度は10°以内にしてください。

•

3. 青いボタンを押してハンドルをポップアップさせ、ハンドルを保持しながらHDDケースをスロットから引き出します。
4. ハードディスクをHDDケースに固定します。

1) ケースにハードディスクを取り付けます。SATAインターフェースはケースの底面に向くようにしてください。
2) HDDの位置を調整します。ハードディスクの背面がHDD底面と揃っていることを確認してください。
3) ドライバーを使用して、両側のネジ穴に4本のネジを締め付けます。

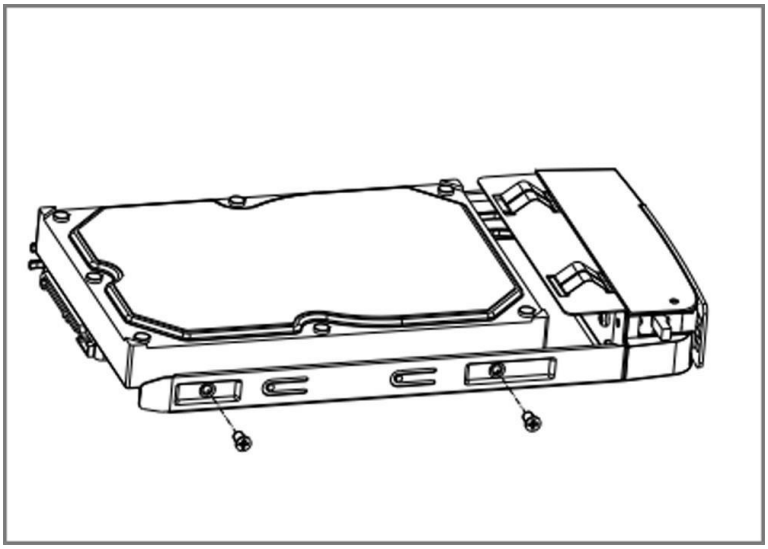


図1-8 HDDの固定

5. HDDケースをスロットに押し戻します。

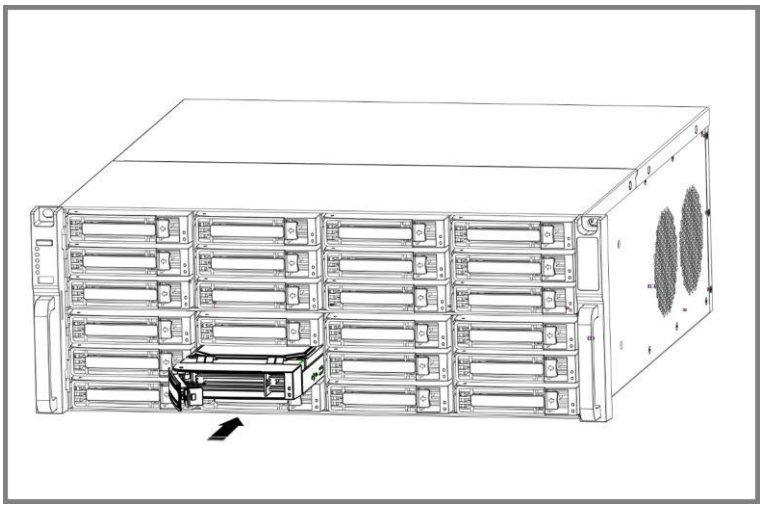


図 1-9 HDDケースをスロットに押し込む

6. ハンドルをカチッと音がするまで押し込みます。これでHDDケースが固定されます。残りのハードディスクボックスを取り付けるには、上記の手順を繰り返します。
7. フロントパネルを閉め、パネルキーでロックします。

底面固定設置

底面固定設置は、HDDをデバイスの底面に取り付けて固定する必要がある場合に適用されます。

手順

1. パネルのネジを外して、デバイスのカバーを取り外します。

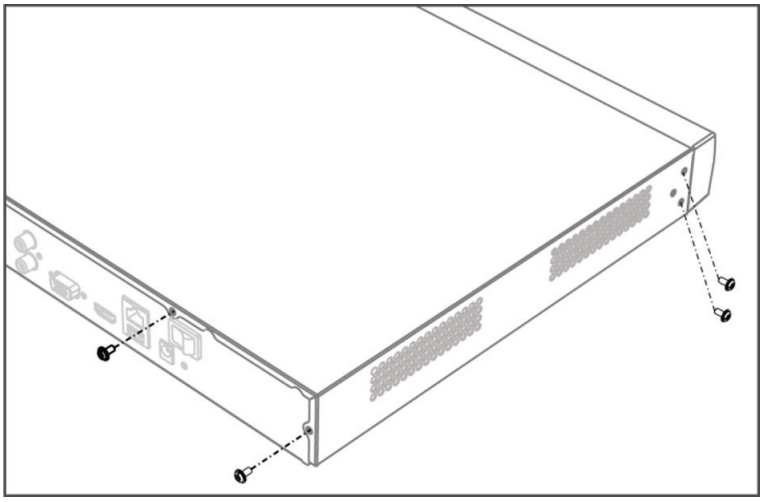


図 1-10 カバーの取り外し

2. データケーブルと電源ケーブルを接続します。

1) データケーブルの一端をデバイスのマザーボードに接続します。

2) データケーブルのもう一方の端を HDD に接続します。

3) 電源ケーブルの一端を HDD に接続します。

4) 電源ケーブルのもう一方の端をデバイスのマザーボードに接続します。

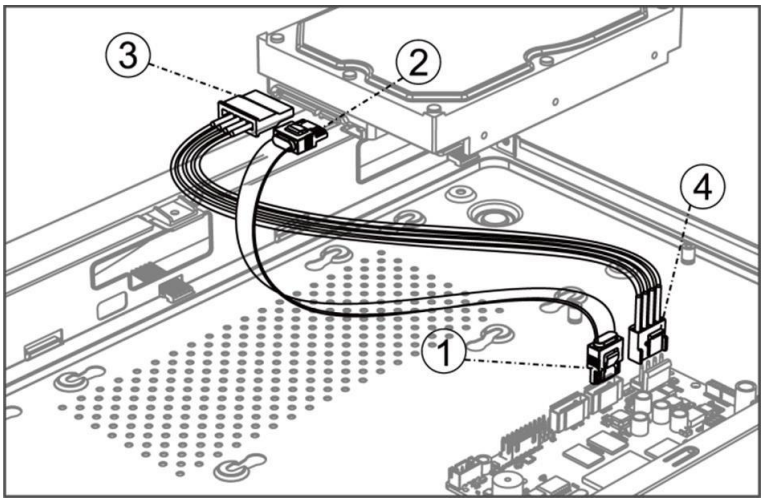


図1-11 ケーブルの接続

3. デバイスを設置し、HDDのネジ山をデバイス底面の予約穴に合わせ、ネジでHDDを固定します。

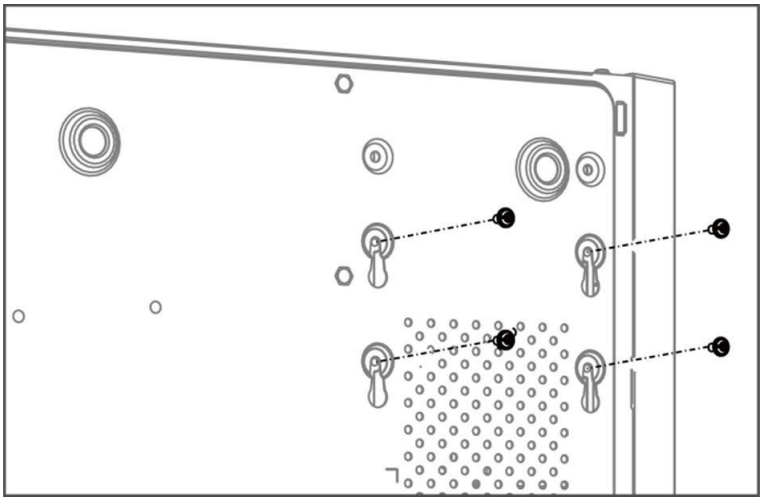


図 1-12 HDD をデバイス底面に固定する

4. オプション：他のHDDを取り付ける場合は上記の手順を繰り返します。
5. デバイスカバーを再取り付けし、ネジを締めます。

コイン型/ボタン型電池の交換

コイン型/ボタン型電池は、デバイスの電源がオフになった場合、または長期間放置した場合、システム時刻が不正確になった場合に交換する必要があります。

作業開始前にデバイスの

電源を切ってください。

手順

1. デバイスのシャーシカバーを取り外します。
2. マザーボード上のコイン型/ボタン型電池を探してください。
3. 親指を電池スロットの外側に置き、人差し指でプラス接点スプリングを優しく外側に押します。電池が自動的に飛び出します。

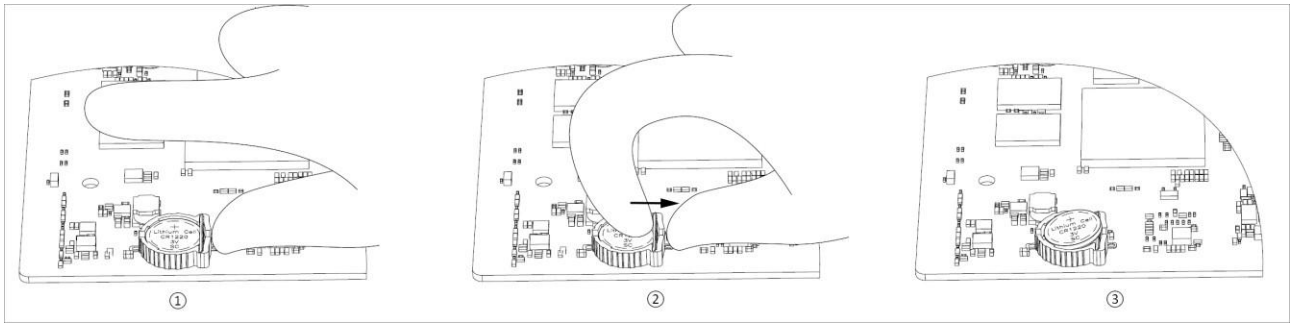


図1-1 電池の取り外し

注意

電池を取り外す際は、静電気防止手袋を着用してください。
押し出す際に力を入れすぎてスプリングが変形した場合は、バッテリーを挿入する前にスプリングを元の位置に調整する必要があります。

•

4. バッテリーを斜めに入れ、プラスチックのスナップポイントがバッテリースロット側に向くようにし、その後、バッテリーのプラス接点スプリング付近を押してスプリングの下にスナップさせます。

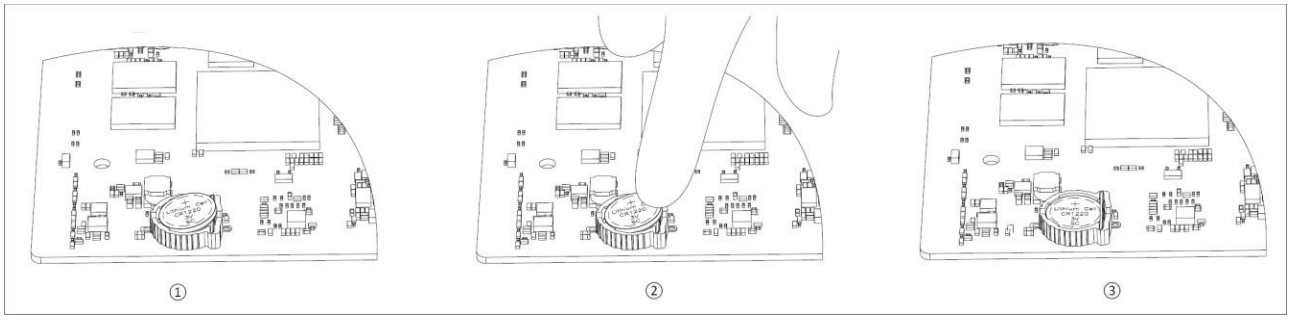


図 1-2 バッテリーの交換

注記

バッテリー交換時には静電気防止手袋を着用してください。

5. デバイスのシャーシカバーを再取り付けしてください。

次の操作

システム時刻が正しくない場合は、時刻の設定にGoしてください。

目次

第 1 章 起動 **1**
1.1 デバイスのアクティベート 1
1.2 ログイン 3
1.2.1 ロック解除パターンでログイン 3
1.2.2 パスワードでログイン 3
第2章 ライブビュー **5**
2.1 GUI 概要 5
2.1.1 ウィンドウ分割のカスタマイズ 6
2.2 PTZ制御 7
2.2.1 PTZパラメータの設定 7
2.2.2 PTZ コントロールパネルの紹介 8
2.2.3 プリセットのカスタマイズ 8
2.2.4 パトロールのカスタマイズ 8
2.2.5 パターンをカスタマイズ 9
第3章 再生 **10**
3.1 GUI 紹介 10
3.2 通常再生 11
3.3 イベント再生 13
3.4 スライス再生 14
3.5 クリップのバックアップ 15
第4章 ファイル検索 **17**
4.1 顔写真による人物検索 17
4.2 クイックバックアップ 19
第5章 設定（簡易モード） **20**
5.1 システム設定 20
5.1.1 全般 20
5.1.2 ユーザー 20
5.1.3 例外 22
5.2 ネットワーク構成 23
5.2.1 全般 23

5.2.2 Hik-Connect 23
5.2.3 メール 25
5.3 カメラ 27
5.3.1 ネットワークカメラ 27
5.3.2 OSD設定 29
5.3.3 動体検知 30
5.4 アラームリンク方法アクションの設定 31
5.5 武装スケジュールの設定 31
5.6 録画管理 32
5.6.1 ストレージデバイス 32
5.6.2 録画スケジュールの設定 33
5.6.3 録画パラメータの設定 35
第6章 設定（エキスパートモード） 37
6.1 システム設定 37
6.1.1 全般 37
6.1.2 ライブビュー 38
6.1.3 ユーザー 40
6.2 ネットワーク設定 40
6.2.1 全般 40
6.2.2 プラットフォームアクセス 47
6.2.3 電子メール 50
6.3 カメラ管理 50
6.3.1 信号入力の設定 50
6.3.2 ネットワークカメラ 50
6.3.3 表示設定 56
6.3.4 プライバシーマスク 58
6.4 イベント設定 59
6.4.1 マルチ機能インテリジェンス 59
6.4.2 通常イベント 61
6.4.3 境界保護 67
6.4.4 顔認識 70
6.4.5 警備スケジュール設定 73

6.4.6 アラームリンク方法アクションの設定 73
6.5 インテリジェント検索 76
6.5.1 AcuSearch 76
6.6 記録管理 76
6.6.1 録画スケジュールの設定 76
6.6.2 録画パラメータの設定 78
6.6.3 ストレージデバイス 80
6.6.4 ストレージモードの設定 81
6.6.5 詳細設定 83
6.7 顔写真ライブラリ管理 84
6.7.1 顔写真ライブラリを追加 84
6.7.2 ライブラリへの顔写真のアップロード 84
第7章 メンテナンス **86**
7.1 デフォルトを復元 86
7.2 検索ログ 86
7.3 システムサービス 86
7.4 ブザースイッチ 87
7.5 デバイスメンテナンス 88
7.5.1 再起動スケジュール 88
7.5.2 デバイスのステータス 88
7.5.3 時刻同期診断 88
7.6 アップグレード 89
7.6.1 ローカルアップグレード 89
7.6.2 オンラインアップグレード 89
第8章 アラーム **90**
8.1 イベントヒントの設定 90
8.2 アラームセンターでアラームを表示 90
第9章 Web操作 **91**
9.1 はじめに 91
9.2 ログイン 91
9.3 ライブビュー 92
9.4 再生 93

9.5 設定 94
9.6 ログ 94
第10章 付録 96
10.1 用語集 96

第1章 起動

1.1 デバイスのアクティベーション

初回アクセス時には、管理者パスワードを設定してビデオレコーダーをアクティベートする必要があります。アクティベート前は操作できません。ウェブブラウザー、SADP、またはクライアントソフトウェア経由でもビデオレコーダーをアクティベートできます。

開始前に

- デバイスの電源を入れます。

初回アクセス時、インターフェース上で1分間マウスを動かさない場合、解像度は自動的に1280*720/60Hz（720P）に設定されます。

手順

1. 言語を選択します。
2. **適用**をクリックします。
3. **パスワード**と**パスワード確認**に同じパスワードを入力してください。

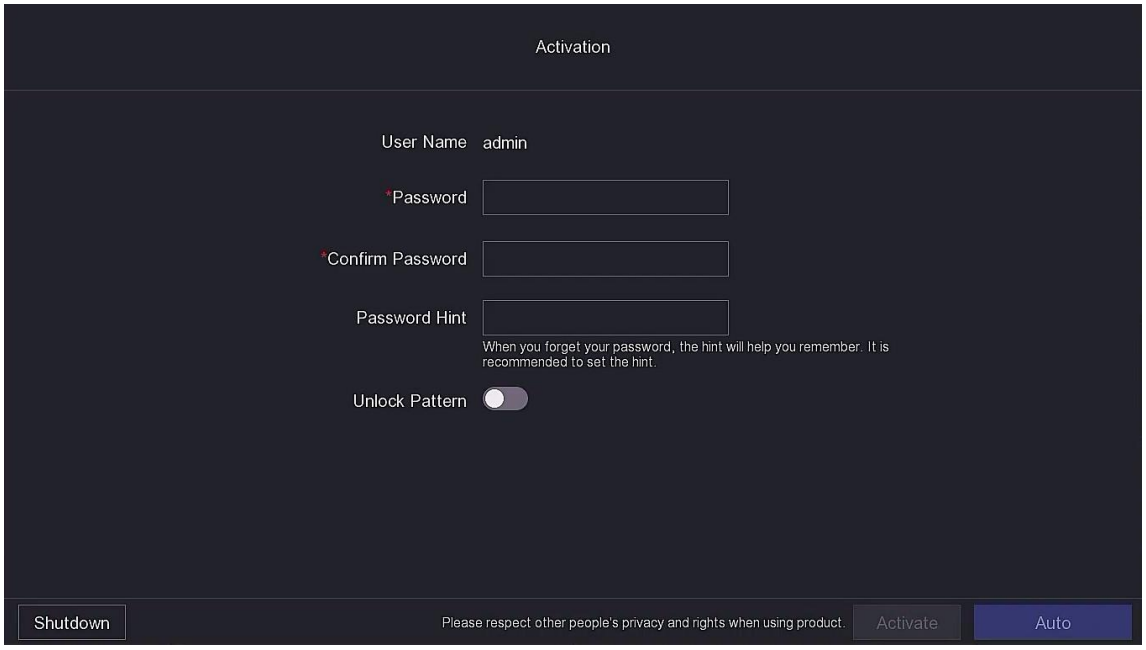


図1-1 アクティベーション

警告

強力なパスワードの使用を推奨-製品のセキュリティを強化するため、以下のルールに従いご自身で強力なパスワードを作成することを強く推奨します：

8～16文字。パスワードに以下の文字を含めないでください：ユーザー名、123、admin、4桁以上の連続した昇順または降順の数字、または4桁以上の

連続した同一文字。以下の種類の文字を少なくとも2種類以上含むこと：数字、大文字、小文字、特殊文字。危険なパスワードは使用できません。
特に高セキュリティシステムでは、パスワードを定期的にリセットすることを推奨します。月次または週次でのリセットにより、製品をより効果的に保護できます。

4. オプション：**パスワードヒント**の設定

注意

パスワードを忘れた場合、ヒントが思い出せる手助けになります。パスワードのヒントを設定することをお勧めします。

5. オプション：**ロック解除パターン**を設定する。
   1) **ロック解除パターンを**有効にする。
   2) 画面上の9つの点の間でマウスを使ってパターンを描きます。パターンを描き終えたらマウスを離してください。

注意

パターンは最低4つの点で構成され、各点は1回のみ接続できます。

   3) 同じパターンを再度描画して確認します。2つのパターンが一致した場合、パターン設定は成功します。
6. **「有効化」**をクリックしてください。
7. オプション: **[自動]** をクリックすると、ウィザード内のすべてのパラメータが自動的に設定されます。

次にすべきこと

ウィザードに従って基本パラメータを設定します。

- 基本システムパラメータについて。詳細は*「全般」*を参照してください。
- 一般的なネットワークパラメータについては、「*全般」*を参照してください。
- ストレージデバイスの設定については、「*ストレージデバイス」*を参照してください。
- ネットワークカメラの追加については、「*ネットワークカメラ*」を参照してください。
- プラットフォーム設定については、***Hik-Connect*** を参照してください。
- パスワードを忘れた場合、パスワードリセットメール、Hik-Connect、セキュリティ質問の3つの方法で再設定できます。パスワードリセット方法を設定可能です。詳細は「*パスワードリセットメールの設定」*および*「Hik-Connectの設定*」を参照してください。いずれの方法も設定していない場合、自動ログインウィンドウが表示されます。**「対応」**をクリックすると、パスワードなしでログインできます。

1.2 ログイン

1.2.1 アンロックパターンによるログイン

手順

1. マウス右クリックで**メニュー**を選択、またはライブビュー上でマウス左クリック。

図1-2 ロック解除パターンを描画

2. メニュー操作に入るには、あらかじめ定義されたパターンを描画してください。

注記

- パターンを忘れた場合は、**「パターンを忘れた」**または**「ユーザーを切り替える」**をクリックし、パスワードでログインしてください。
- 間違ったパターンを5回以上入力した場合、システムは自動的に通常ログインモードに切り替わります。

1.2.2 パスワードによるログイン

ビデオレコーダーがログアウトしている場合、メニューやその他の機能を操作する前にログインする必要があります。

手順

1. **ユーザー名**を選択します。

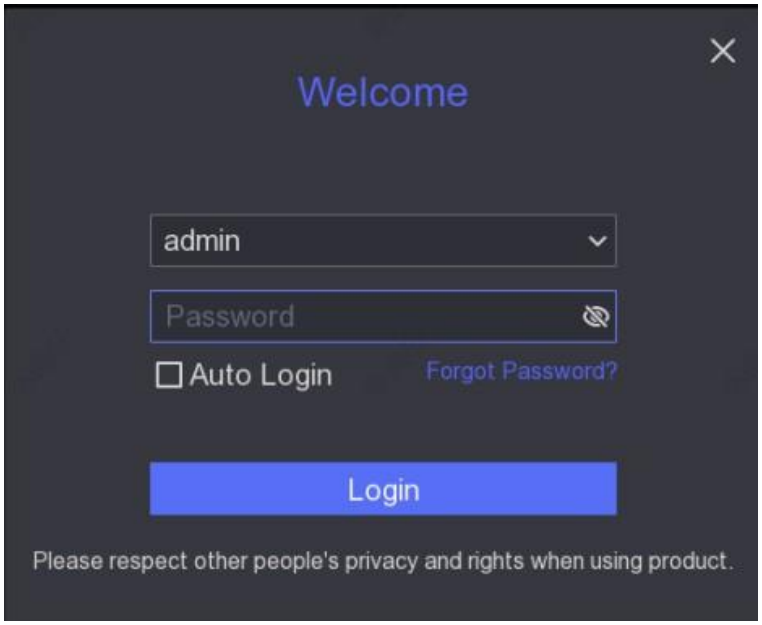


図 1-3 ログインインターフェース

2. パスワードを入力します。
3. **ログイン**をクリックします。

注記

- 管理者パスワードを忘れた場合、**「パスワードを忘れた場合」**をクリックしてパスワードをリセットできます。
- パスワードを7回間違えて入力すると、現在のユーザーアカウントは60秒間ロックされます。

自動ログインにチェックを入れると、パスワードなしでログインできます。

第2章 ライブビュー

2.1 GUI 概要

- 左上の「**Target Detection**」をクリックし、「 」または「 」を選択すると、指定したライブターゲット検出結果が表示されます。結果の詳細については、「**View More**」をクリックしてください。

注記

- **ターゲット検出**は特定のモデルでのみ利用可能です。
- **ターゲット検出は**HDDが設置されている場合に有効です。
- 動体検知、ラインクロス検知、侵入検知、顔キャプチャに有効です。

- をクリックして自動切り替えを開始/停止します。画面は自動的に次の画面に切り替わります。
- ライブビューウィンドウの分割を選択するには、 / / / / / / / / / をクリックします。フルスクリーンモードに入るには、 をクリックします。
- カメラをダブルクリックするとシングルスクリーンモードで表示されます。再度ダブルクリックするとシングルスクリーンモードを終了します。
  モードを終了します。
- カメラのライブビュー画面を変更するには、その画面から目的の画面へドラッグします。
- 上下にスクロールすると最大／次の画面に切り替わります。
- カメラにカーソルを合わせるとショートカットメニューが表示されます。

図 2-1 ショートカットメニュー

表 2-1 ショートカットメニューの説明

ボタン	説明
	最新の5分間に録画されたビデオの再生を開始します。
	デジタルズーム。ズームインの倍率を調整し、目的の領域を表示できます。
	クリックすると PTZ 制御モードに入ります。
	ライブビューのオーディオのオン/オフを切り替えます。
	ビデオストリームを切り替える。

- ライブビューインターフェースでは、画面右上に各カメラのアイコンが表示され、カメラの録画およびアラームステータスを示します。

表 2-2 ライブビューアイコンの説明

アイコン	説明
	アラーム（通常イベントおよびスマートイベント）
	録画中。

- マウスを右クリックすると、ショートカットメニューが表示されます。

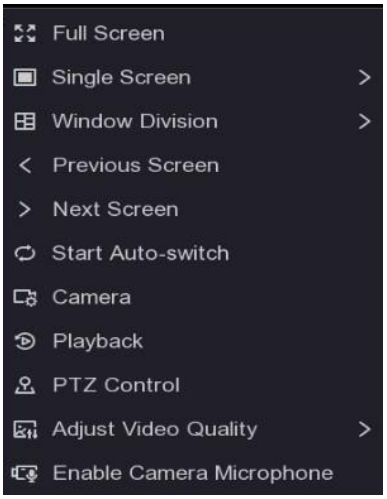


図 2-2 右クリックショートカットメニュー

2.1.1 ウィンドウ分割のカスタマイズ

ウィンドウ分割は、必要に応じてカスタマイズすることもできます。

手順

1. **ライブ**ビューページを開きます。
2. **ライブビュー→ ウィンドウ分割→ shezhi** に移動し、ウィンドウ分割パネルを開きます。
3. **編集**名をクリックしてレイアウト名を編集します。
4. オプション：マウスをドラッグして隣接するウィンドウを選択し、**「結合」**をクリックすると、それらを1つのウィンドウとして結合します。
5. オプション：結合ウィンドウを選択し、**「復元」**をクリックして結合を解除します。
6. **保存**をクリックします。
7. オプション：分割モードをクリックまたはドラッグして表示ウィンドウに適用し、表示モードを設定します。

2.2 PTZ コントロール

2.2.1 PTZ パラメータの設定

PTZカメラを制御する前に、PTZパラメータを設定する必要があります。

手順

1. ライブビューでカメラをプレビューし、ショートカットメニューの [ ] をクリックします。

図 2-3 PTZ 設定

2. をクリックします。
3. PTZ カメラのパラメータを設定します。

> **注記**
> すべてのパラメータは PTZ カメラと同じである必要があります。

4. **[OK]** をクリックします。

2.2.2 PTZ コントロールパネルの概要

表 2-3 PTZ パネルの説明

アイコン	説明
	方向ボタン、および自動循環ボタン。
	PTZ 動作速度。
	ズーム -/+。
	フォーカス -/+。
	アイリス -/+.

2.2.3 プリセットのカスタマイズ

イベント発生時に PTZ カメラが向くプリセット位置を設定します。

手順

1. ライブビューでカメラをプレビューし、ショートカットメニューの「 」 をクリックします。
2. プリセットリストから目的のプリセットを選択します。
3. 方向ボタンを使用してカメラを必要な位置に移動させます。ズームとフォーカスを任意に調整します。
4. 「」をクリックします。

次にすべきこと

プリセットリストでプリセットをダブルクリックして呼び出します。

2.2.4 パトロールのカスタマイズ

パトロールとは、一連のプリセットを指定された順序で構成する経路を指します。複数のプリセットを監視するための動的なライブ画像を提供します。

手順

1. ライブビューでカメラをプレビューし、 ショートカットメニューをクリックします。
2. **「パトロール」**をクリックします。
3. 目的のパトロールの「 」 をクリックします。

4. 「」をクリックします。
5. キーポイントNo.、各キーポイントでの滞在時間、パトロール速度などのキーポイントパラメータを設定します。キーポイントはプリセットに対応します。プリセットNo.は、パトロールを循環する際にPTZが追従する順序を決定します。**滞在時間は、**対応するキーポイントに留まる時間間隔を指します。**速度は、**PTZが1つのキーポイントから次のキーポイントへ移動する速度を定義します。

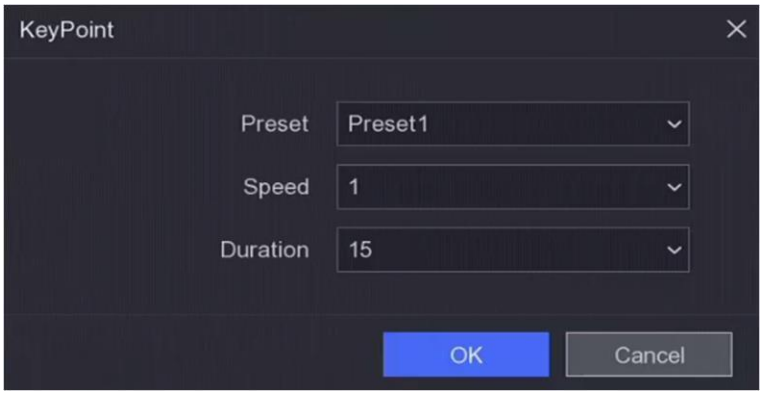


図2-4 パトロール設定

6. **[OK]**をクリックします。
7. **[保存]**をクリッ

クします。**次の操**

作

パトロールを選択し、 を選択し、呼び出します。PTZカメラは事前に定義されたパトロール経路に従って移動します。
経路に沿って移動します。

2.2.5 パターンをカスタマイズ

パターンは、移動経路と特定の位置での滞留時間を記録します。パターンを呼び出すと、PTZカメラは記録された経路に従って移動します。

手順

1. ライブビューでカメラをプレビューし、ショートカットメニューの「 」 をクリックします。
2. **[パターン]**をクリックします。
3. パターンを選択します。
4. をクリックします。
5. 方向ボタンでカメラを必要な位置に回転させます。ズームとフォーカスを任意に調整します。
6. をクリックしてください。以前のPTZカメラの移動経路がパターンとして記録されます。

次にすべきこと

パターンを選択し、 をクリックして呼び出します。PTZカメラは事前定義されたパターンに従って移動します。

第3章 再生

3.1 GUI 概要

再生に移動します（Go）。

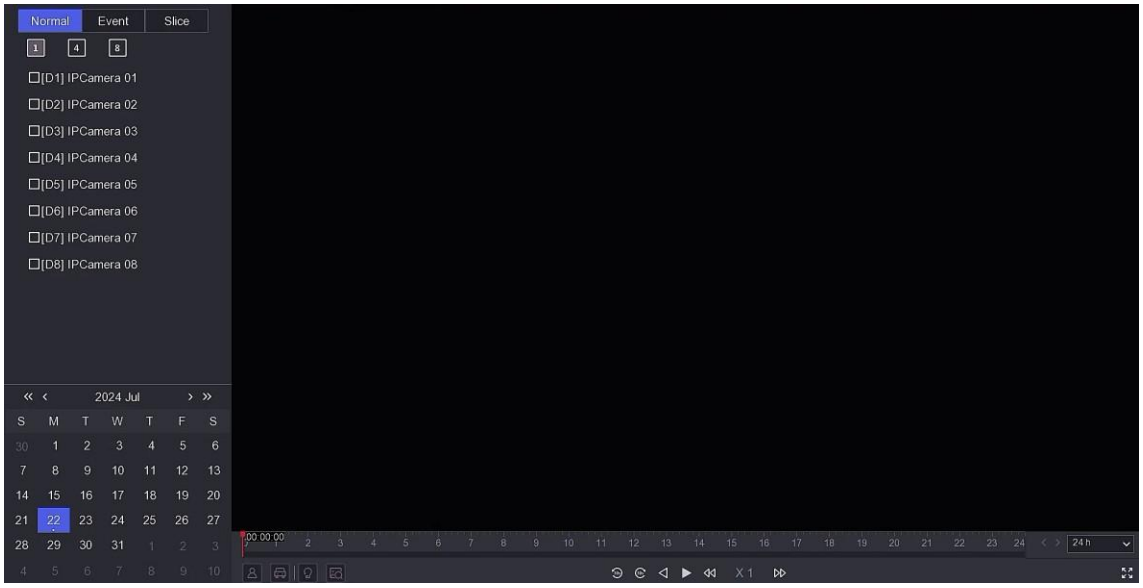


図3-1 再生

表 3-1 再生インターフェースの説明

ボタン	操作	ボタン	操作
	30秒巻き戻し。		30秒間 早送り
	全画面表示。		再生開始。
	速度を落とす。		スピードアップ（最大）。
X 1	速度。		逆再生。

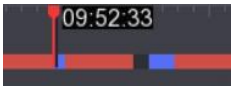


図3-2 タイムライン

- タイムライン上でカーソルを配置し、タイムラインをドラッグして特定の時間位置に移動します。
- 青色のバーでマークされた期間にはビデオが含まれます。赤色のバーは、その期間内のビデオがイベントビデオであることを示します。
- タイムラインを上下にスクロールすると、タイムラインを縮小/拡大表示します。

3.2 通常再生

通常のビデオを再生します。

手順

1. **再生**に移動します（Go）。
2. カメラリストからカメラを選択します。
3. 再生する日付をカレンダーで選択します。

> **注記**
>
> カレンダー日付コーナーの青い三角は、利用可能なビデオがあることを示します。例えば、10 はビデオが利用可能であることを意味します。11 はビデオがないことを意味します。

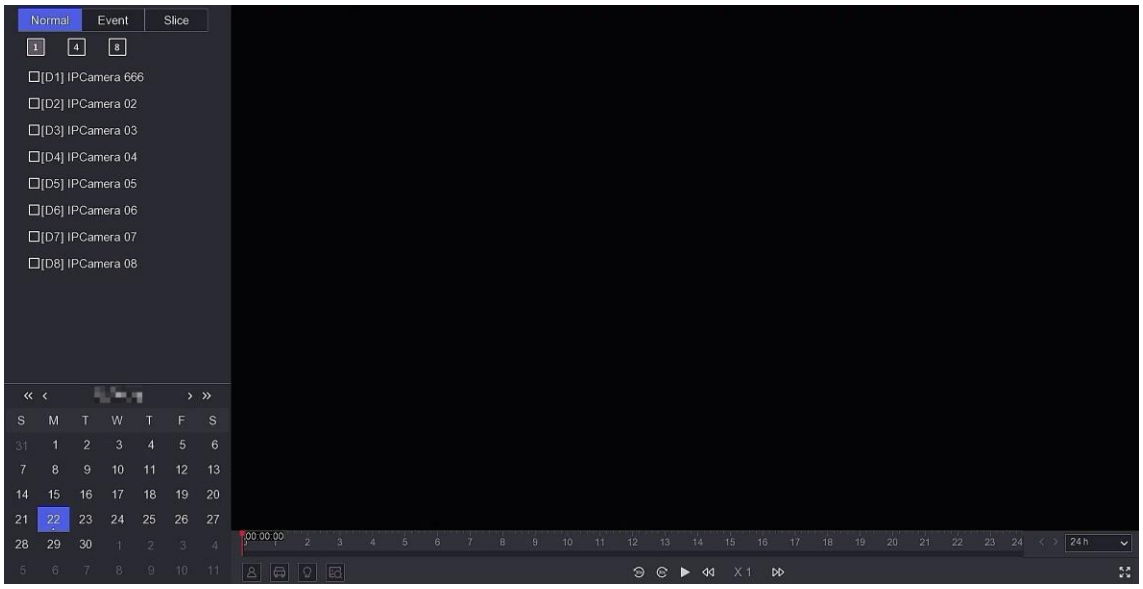


図3-3 再生

4. オプション：再生ウィンドウにカーソルを合わせるとコントロールバーが表示されます。

図 3-4 コントロールバー表 3-2

ボタンの説明

ボタン	説明	ボタン	説明
	ウィンドウ分割、チャンネルをグループ化して再生。		再生画像を拡大／縮小します。

ボタン	説明	ボタン	説明
	オーディオのオン/オフを切り替えます。		タグを追加します。
	ビデオをロック/ロック解除します。		ビデオのクリップ。
	人物が写っているビデオを表示する。		車両を含むビデオを表示する。
通常のビデオをスキップ	/ xml-ph-0000@deepl.internal をクリックすると、再生中にデバイスは他の動画を非表示にし、人間 をクリックした場合、再生中に他のビデオは非表示となり、人物または車両を含むビデオのみが表示・再生されます。		ルールフレームとターゲットフレームを表示します。
	画面サイズに応じて画像表示効果を調整します。	**スマート検索 ( )**	/ xml-ph-0000@deepl.internal をクリックした場合、 をクリックした 場合、検出エリアをクリックして設定し検出エリアをクリックして設定すると、このエリア内の人物/車両情報を素早く検索できます。
	ボタンをクリックすると、ターゲットが画面上に表示されます。ターゲットをクリックすると、そのターゲットを含む写真を検索します。写真をクリックすると、その瞬間の前後のビデオを再生します。		マルチウィンドウ分割再生。

ボタン	説明	ボタン	説明
	注 この機能を使用する前に、現在のチャンネルで AcuSearch アルゴリズムを有効にする必要があります。		

3.3 イベント再生

イベント再生モードを選択すると、システムは動体検知、ラインクロス検知、または侵入検知情報を含むビデオを分析しマークします。

開始前に

- カメラで**デュアルVCAが**有効になっていることを確認してください。カメラのウェブブラウザーインターフェースで設定できます。**設定→ ビデオ/オーディオ→ ストリーム上の情報を表示**。
- ビデオレコーダーで「**VCAデータ保存**」が有効になっていることを確認してください。**設定で**有効にできます。→ **記録→ 詳細設定 で有効にできます**。

手順

1. **再生**に移動します（Go）。
2. **[イベント]**をクリックします。
3. カメラを選択します。
4. 再生ウィンドウにカーソルを合わせてコントロールバーを表示します。

表 3-3 ボタン説明

ボタン	説明	ボタン	説明
	タグを追加		再生画像を拡大/縮小します。
	ビデオをクリップ。		ビデオをロック/ロック解除。
	検出エリアを設定する。		オーディオのオン/オフを切り替えます。

5. をクリックして、ラインクロス検知、侵入検知、または動体検知の検知エリアを設定します。
6. クリッ をクリックしてビデオを検索します。検知ルールの条件を満たすビデオは赤色でマークされます。
7. クリッ をクリックして再生戦略を設定します。

通常のビデオをスキップ

有効にすると、スマート情報のないビデオは再生されません。

通常ビデオ

通常のビデオ再生速度を設定します。このオプションは「**通常のビデオを再生しない**」がオフの場合にのみ有効です。

スマート/カスタムビデオの再生速度

スマート情報を持つビデオの再生速度を設定します。このオプションは「**通常動画を再生しない**」が有効な場合のみ有効です。

3.4 スライス再生

ビデオをスライスに分割して再生します。

手順

1. **再生→ スライス再生** に Go します。

図3-5 スライス再生

2. カメラリストからカメラを選択します。
3. 再生するには、カレンダーで月、日付、時間を選択してください。

注記

カレンダーの日付コーナーにある青い三角形は、利用可能なビデオがあることを示します。例えば、10 はビデオが利用可能であることを意味します。11 はビデオがないことを意味します。

取得したビデオは1時間単位で分割再生されます。

4. オプション：1時間単位のスライスを選択し、「 」 をクリックすると、1分単位のスライスに分割して再生できます。
5. スライスをクリックすると、右側でビデオを再生します。

表3-4 スライス再生アイコンの説明

アイコン	名前	説明
	AcuSearch	ボタンをクリックすると、ターゲットが画面に表示されます。ターゲットをクリックすると、そのターゲットを含む画像を検索します。画像をクリックすると、その時点の前後のビデオを再生します。
	ビデオエクスポート	クリックするとビデオをエクスポートします。
	VCA情報表示	ルールフレームとターゲットフレームを表示します。 **注意** 前提条件：チャンネルが追加され、プレビュー可能であること。カメラまたはデバイスでVCA設定が完了していること。
	自己適応解像度を有効にする	画面サイズに応じて画像表示効果を調整します。
	オーディオコントロール	オーディオのオン/オフを切り替え、音量を調整します。

3.5 クリップのバックアップ

再生中にビデオをクリップできます。クリップしたビデオはバックアップデバイス（USBフラッシュドライブなど）にエクスポートできます。

開始前に

ビデオレコーダーにバックアップデバイスを接続してください。

手順

1. 再生を開始します。詳細は「***通常再生***」を参照してください。
2. をクリックします。

3. 開始時間と終了時間を設定します。タイムバー上のカーソルを調整して期間を設定することもできます。
4. **[保存]**をクリックします。
5. バックアップデバイスとフォルダを選択します。
6. **[保存]**をクリックしてクリップをバックアップデバイスにエクスポートします。

第4章 ファイルの検索

手順

1. **検索**に移動します（Go）。
2. 検索タイプ（ビデオ、画像、イベントなど）を選択する。
3. 検索条件を設定します。
4. オプション：**「クイックバックアップ」**をクリックすると、ビデオをデバイスに素早くエクスポートできます。

注意

クイックバックアップは、ビデオおよびイベント検索で使用できます。

5. **検索**をクリックします。
   - クリッ をクリックしてビデオを再生します。
   - クリッ をクリックしてファイルをロックします。ロックされたファイルは上書きされません。
   - ファイルを選択し、**「エクスポート」**をクリックしてバックアップデバイスにファイルをエクスポートします。

4.1 顔写真で人物を検索

提供された顔写真で人物記録を検索できます。

開始前に

顔写真比較機能を有効にしていることを確認してください。

手順

1. →「**Human**」**検索に**Goします。

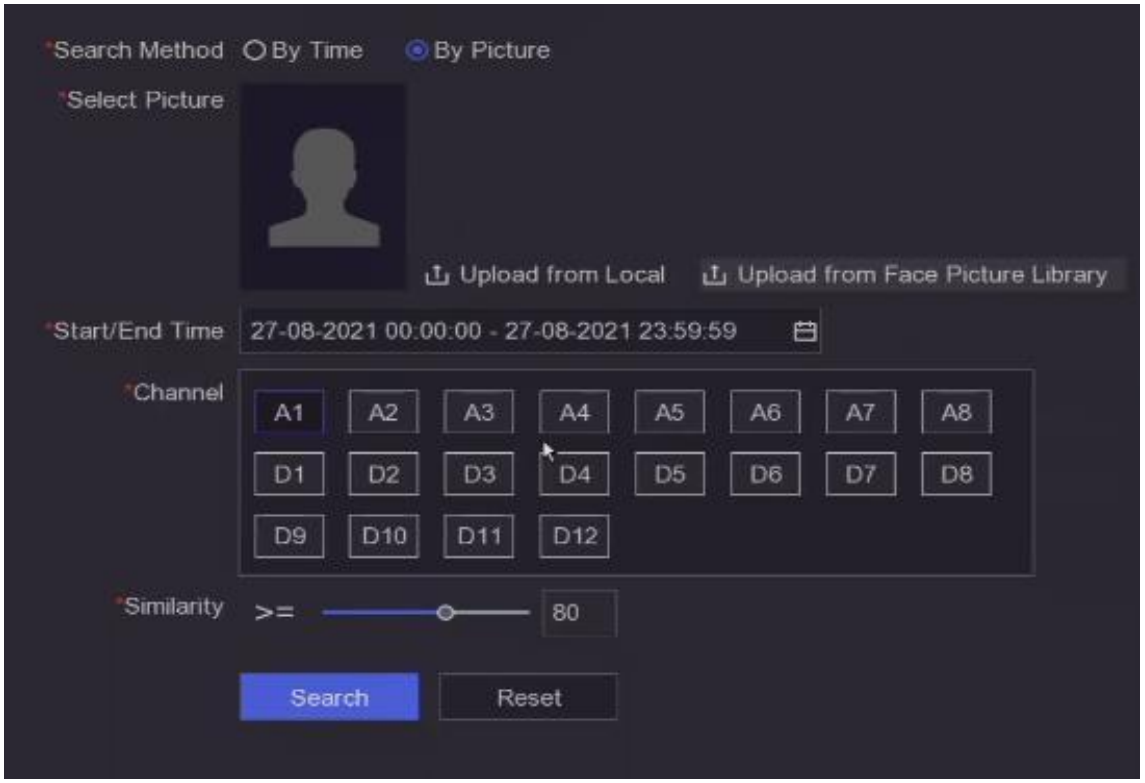


図 4-1 顔写真による人物検索

2. **検索方法を「写真による検索」**に設定してください。
3. 顔写真をアップロードします。
   - USB フラッシュドライブなどのローカルストレージデバイスから顔写真をアップロードするには、**[ローカルからアップロード]** をクリックします。
   - **顔写真ライブラリからアップロード**をクリックして、顔写真ライブラリから顔写真をアップロードします。

注記

- JPGおよびJPEG形式のみがサポートされています。
- 各画像のサイズは1MB未満である必要があります。
- 画像の解像度は 80× 80 から 1920× 1080 の間でなければなりません。

4. 開始時間と終了時間を設定します。
5. **類似度**を設定し

   ます。**類似度**

   類似性の値は 0 から 100 までの範囲です。デバイスは、検出された
   顔画像とライブラリ内の顔画像の類似性を分析します。類似性がしきい値に達した場合、顔画像の比較は成功し、顔画像が認識されます。
6. **検索**をクリックします。

4.2 クイックバックアップ

開始前に

ビデオレコーダーにバックアップデバイスを接続してください。

手順

1. **検索**に移動します（Go）。
2. 検索条件を設定します。
3. **クイックエクスポート**をクリックします。
4. バックアップデバイスとパスを選択します。
5. **[OK]** をクリックしてエクスポートを開始します。

第5章 設定（簡易モード）

イージーモードには基本設定が含まれます。**設定**にGoし、**イージーモード**をクリックします。

5.1 システム設定

5.1.1 全般

出力解像度、システム時刻などを設定できます。

手順

1. **設定→ システム→ 全般** にGoします。
2. パラメータを任意に設定します。

ウィザード

デバイス起動後にウィザードが表示されます。

パスワード不要のログイン

パスワードなしでログインできます。

NTPによる時刻同期

ネットワークタイムプロトコル（NTP）は、時刻同期のためのネットワークプロトコルです。デバイスはNTP（ネットワークタイムプロトコル）サーバーに接続して時刻を同期することができます。

間隔（分）

NTPサーバーとの2回の時刻同期の間隔時間。

NTPサーバー

NTPサーバーのIPアドレス。

3. **適用**をクリックします。

5.1.2 ユーザー

ユーザーを追加

デフォルトアカウントとして「Administrator」が存在します。管理者ユーザー名は「**admin**」です。管理者はユーザーの追加、削除、編集権限を有します。ゲストユーザーはライブビュー、再生、ログ検索の権限のみを有します。

手順

1. **設定→ システム→ ユーザー** に GO します。
2. **「追加」**をクリックし、管理者パスワードを確認します。

3. ユーザー名を入力します。
4. ユーザーレベルを選択します。
5. **パスワード作成**と**確認**に同じパスワードを入力します。

警告

製品のセキュリティを強化するため、ご自身で選択した強力なパスワードを作成することを強く推奨します。パスワードは8〜16文字とします。パスワードに以下の文字を含めないでください：ユーザー名、123、admin、4桁以上の連続した昇順または降順の数字、または4文字以上の連続した同一文字。以下の種類の文字を少なくとも2種類含める必要があります：数字、大文字、小文字、特殊文字。危険なパスワードは使用できません。
特に高セキュリティシステムでは、パスワードを定期的にリセットすることを推奨します。月次または週次でのリセットにより、製品をより効果的に保護できます。

6. ユーザー権限を設定します。
7. **[OK]**をクリックします。
   – ユーザー編集/削除には / をクリックしてください。

パスワードリセット用メールアドレスの設定

ログインパターンとパスワードを忘れた場合、デバイスはパスワードリセット用の確認コードを含むメールを登録メールアドレスに送信します。

手順

1. **設定→ システム→ ユーザー** に GO します。
2. **パスワードリセットメール**をクリックします。
3. 認証のため管理者パスワードを入力してください。
4. メールアドレスを入力してください。
5. **OK**をクリックしてください。

パスワードのリセット

ログインパターンとパスワードを忘れた場合、パスワードをリセットできます。

手順

1. パスワードログインインターフェースで「**パスワードを忘れた場合**」をクリックしてください。
2. プライバシーポリシーに同意する場合は「**次へ**」をクリックし、QRコードをスキャンして内容を確認できます。
3. ウィザードに従ってパスワードをリセットしてください。

5.1.3 例外

アラームセンターで例外イベントのヒントを受け取り、例外リンク方法のアクションを設定できます。

手順

1. **設定→ システム→ 例外** に Go します。
2. オプション: イベントヒントを設定します。設定したイベントが発生すると、アラームセンターで通知を受け取ります。
   1) **イベントヒントを**有効にする。
   2) ローカルメニューの右上にある「 」 をクリックしてアラームセンターに入ります。
   3) イベントタイプを選択します。
   4) **[設定]** をクリックして通知対象のイベントを選択します。
3. **例外タイプ**を設定
4. 例外リンク方法アクションには「**通常リンク方法**」タイプを選択します。

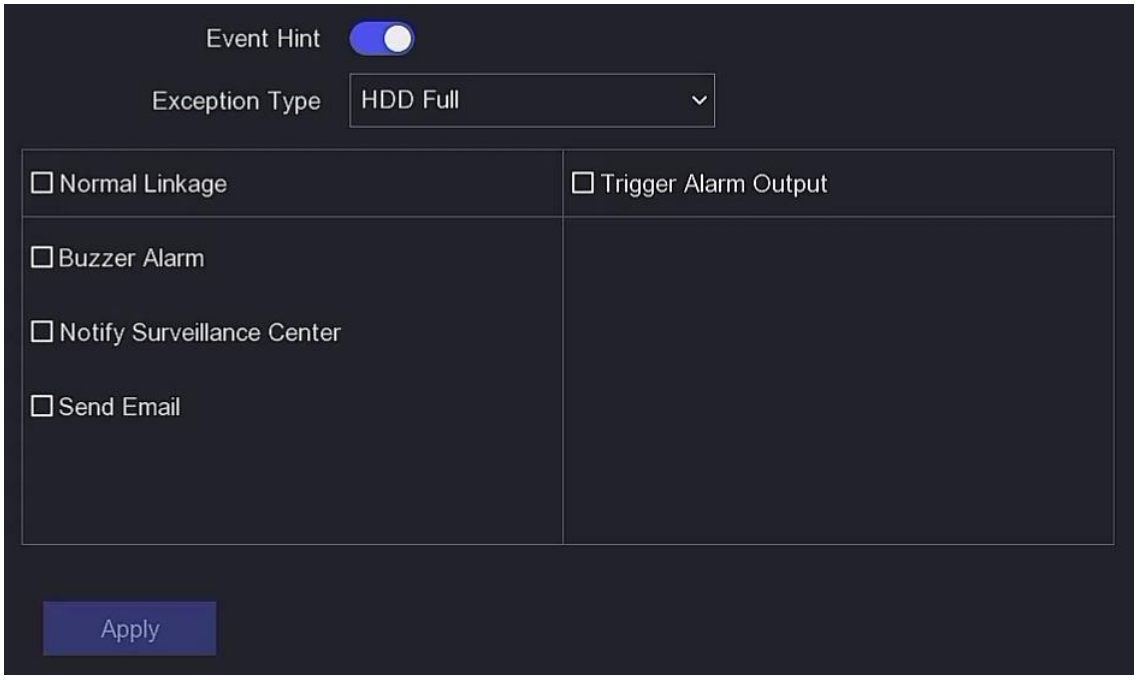


図 5-1 例外

5. **適用**をクリックします。

5.2 ネットワーク構成

5.2.1 全般

ネットワーク経由でデバイスを操作する前に、ネットワーク設定を適切に構成してください。

手順

1. **設定→ ネットワーク→ 全般** にGoします。

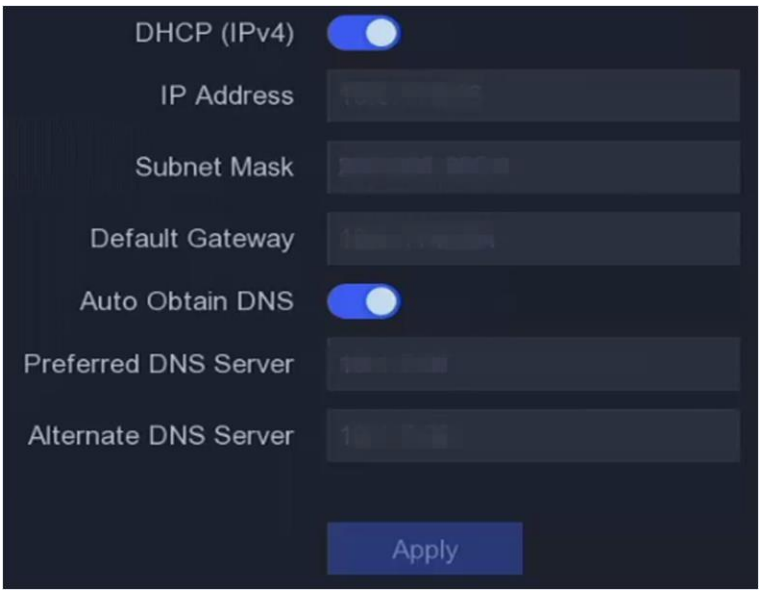


図5-2 ネットワーク

2. ネットワークパラメータを設定します。

DHCP

DHCP サーバーが利用可能な場合、**DHCP を**有効にして、そのサーバーから IP アドレスやその他のネットワーク設定を自動的に取得することができます。

DNSの自動取得

DHCPが有効な場合。**優先DNS**サーバーと**代替DNSサーバーを**自動的に取得するには、**自動取得DNSを**有効にできます。

3. **適用**をクリックします。

5.2.2 Hik-Connect

Hik-Connect は、接続されたデバイスにアクセスして管理するための携帯電話アプリケーションおよびプラットフォームサービスを提供し、ビデオセキュリティシステムへの便利なリモートアクセスを実現します。

手順

1. **設定→ ネットワーク→ Hik-Connect** に Go します。

2. **「有効にする」**をオンにします。サービス利用規約が表示されます。
   1) 利用規約とプライバシーポリシーをお読みください。
   2) **サービス利用規約とプライバシーポリシー**に同意する場合は、**「サービス利用規約とプライバシーポリシーを読み、同意します」にチェックを入れてください。**
   3) **「OK」**をクリックしてください。
3. 「 」 をクリックして認証コードを設定します。
4. オプション：**プラットフォーム時間同期を**有効にすると、デバイスはNTPサーバーではなくプラットフォームサーバーと時間を同期します。
5. オプション：**ストリーム暗号化を**有効にします。この機能を有効にした後、リモートアクセスおよびライブビューで認証コードの入力が必要になります。
6. オプション：**サーバーIPを**編集します。
7. オプション：**サブストリームの自己適応ビットレートを**有効にする。ネットワーク環境が悪い場合、デバイスは自動的にビデオビットレートを調整し、再生の滑らかさを確保します。
8. デバイスをHik-Connectアカウントに紐付けます。
   1) スマートフォンでQRコードをスキャンし、Hik-Connectアプリをダウンロードしてください。
   https://appstore.hikvision.comまたは下記のQRコードからもダウンロード可能です。詳細は*Hik-Connectモバイルクライアントユーザーマニュアル*を参照してください。

図5-3 Hik-Connectのダウンロード

2) Hik-ConnectでデバイスのQRコードをスキャンし、デバイスを紐付けます。

注意

- デバイスが既にアカウントと紐付けされている場合、**「紐付け解除」**をクリックすると現在のアカウントとの紐付けを解除できます。
- 左上隅にあるQRコードを使用して、Hik-Connectをダウンロードし、デバイスを紐付けることもできます。

9. **適用**をクリック。**結果**

- デバイスがHik-Connectプラットフォームに接続されている場合、**接続状態は「オンライン」**となります。
- デバイスがHik-Connectアカウントに紐付けられている場合、**紐付け状態は「対応」**となります。

次の操作

Hik-Connectからビデオレコーダーにアクセスできます。

5.2.3 メール

イベント通知を受信するメールアカウントを設定します。

開始前に

- メールのSMTPサービスが利用可能であることを確認してください。
- ネットワークパラメータを設定してください。詳細は*「全般」*を参照してください。

手順

1. **設定→ ネットワーク→ メール** に Go します。

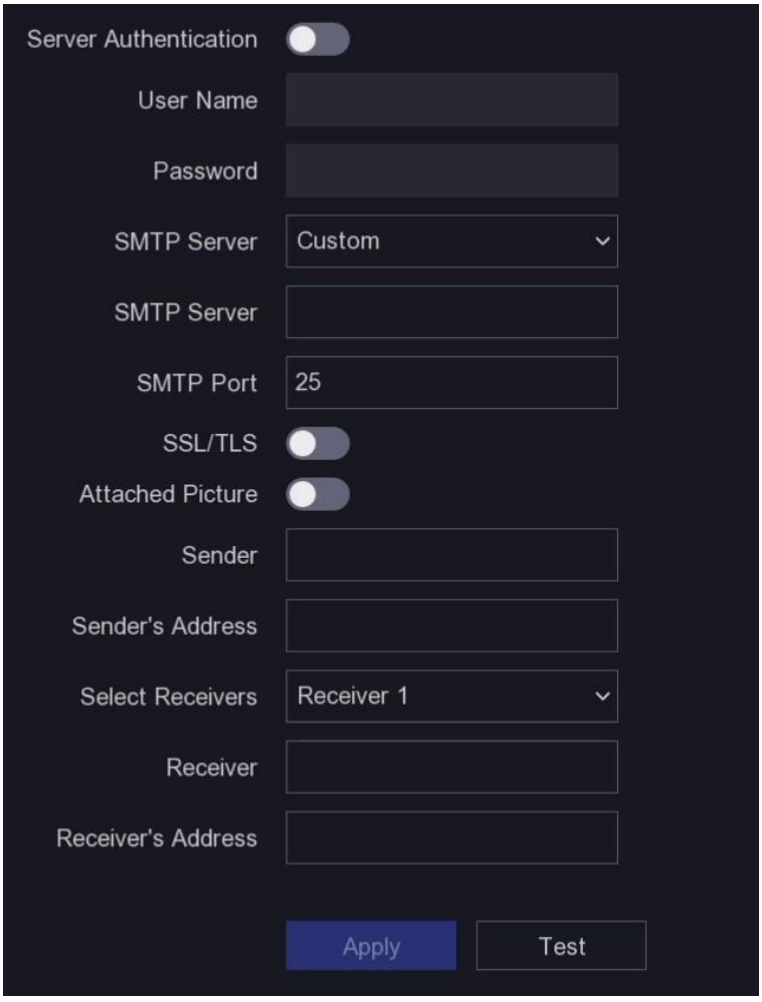


図5-4 メール

2. メールパラメータの設定

サーバー認証

サーバー認証機能を有効にするには、チェックを入れます。

ユーザー名

SMTP サーバー認証用の電子メール送信者のユーザーアカウント。

パスワード

SMTP サーバー認証用のメール送信者のパスワード。

SMTPサーバー/SMTPポート

SMTPサーバーを選択すると、そのアドレスとポートが自動的に表示されます。実際の必要に応じて編集することも可能です。

SSL/TLS

(オプション) SMTPサーバーで必要とされる場合、SSL/TLSを有効にしてください。

添付画像

(オプション) イベントが発生した場合、画像をメール添付として送信します。

送信者

送信者名。

送信者アドレス

送信者のメールアドレス。

受信者を選択

受信者を選択してください。最大3名まで選択可能です。

受信者

受信者名。

受信者の住所

受信者のメールアドレス。

注記

ネットワークカメラの場合、イベント画像はメールの添付ファイルとして直接送信されます。1台のネットワークカメラから送信される画像は1枚のみです。

3. オプション：**テスト**をクリックするとテストメールを送信します。
4. **適用**をクリックしてください。

5.3 カメラ

5.3.1 ネットワークカメラ

信号入力の設定

特定のデジタルビデオレコーダーモデルでは、アナログおよび IP 信号入力タイプを設定できます。

手順

1. **設定→ カメラ→ アナログ→ アナログ** に移動します。
2. 各チャンネルの信号入力タイプを **HD/CVBS** または **IP** から選択します。

HD/CVBS

チャンネルには、Turbo HD、AHD、HDCVI、CVBS の 4 種類のアナログ信号入力を任意に接続できます。

IP

ネットワークカメラをチャンネルに接続できます。

図 5-5 信号入力タイプ

3. **適用**をクリックします。**最大IPカメラ数**でアクセス可能なネットワークカメラの**最大**数を確認できます。

デバイスパスワードによるネットワークカメラの追加

ビデオレコーダーと同じパスワードを持つネットワークカメラを追加します。

開始前に

- ネットワークカメラがビデオレコーダーと同じネットワークセグメントにあることを確認してください。
- ネットワーク接続が有効かつ正しいことを確認してください。詳細は*「全般」*を参照してください。
- ネットワークカメラのパスワードがビデオレコーダーと同じであることを確認してください。

手順

1. **設定→ カメラ→ IPカメラ** に移動します。ビデオレコーダーと同じネットワークセグメント上のオンラインカメラは、**オンラインデバイスリストに**表示されます。
2. 目的のネットワークカメラを選択します。
3. ＋ をクリックしてカメラを追加します。

注記

カメラが非アクティブの場合、デバイスはデバイス起動時に設定したパスワードを使用して自動的にカメラを起動します。

4. オプション：ネットワークカメラが DVR と同じネットワークセグメントにない場合、ONVIF プロトコルをサポートしている場合は、**[詳細検索]** をクリックし、カメラの IP アドレスの最初の 3 オクテットを入力してカメラを追加します。

ネットワークカメラを手動で追加

開始する前に

- ネットワークカメラがビデオレコーダーと同じネットワークセグメントにあることを確認してください。
- ネットワーク接続が有効かつ正しいことを確認してください。
- ネットワークカメラが起動していることを確認してください。

手順

1. **設定→ カメラ→ IP カメラ** に Go します。
2. **追加されたデバイスリスト**で「＋」をクリックします。
3. IP アドレス、プロトコル、管理ポートなど、ネットワークカメラのパラメータを設定します。
4. オプション：**カメラ名を**ダブルクリックして名前を編集します。

注記

カメラ名は、カメラのステータスがオンラインの場合にのみ編集できます。

5. オプション:「**カメラ起動パスワードを使用**」を有効にすると、デバイスのパスワードを使用してネットワークカメラを追加できます。
6. オプション：**「さらに追加」**をクリックして別のネットワークカメラを追加します。
7. **[追加]**をクリックします。

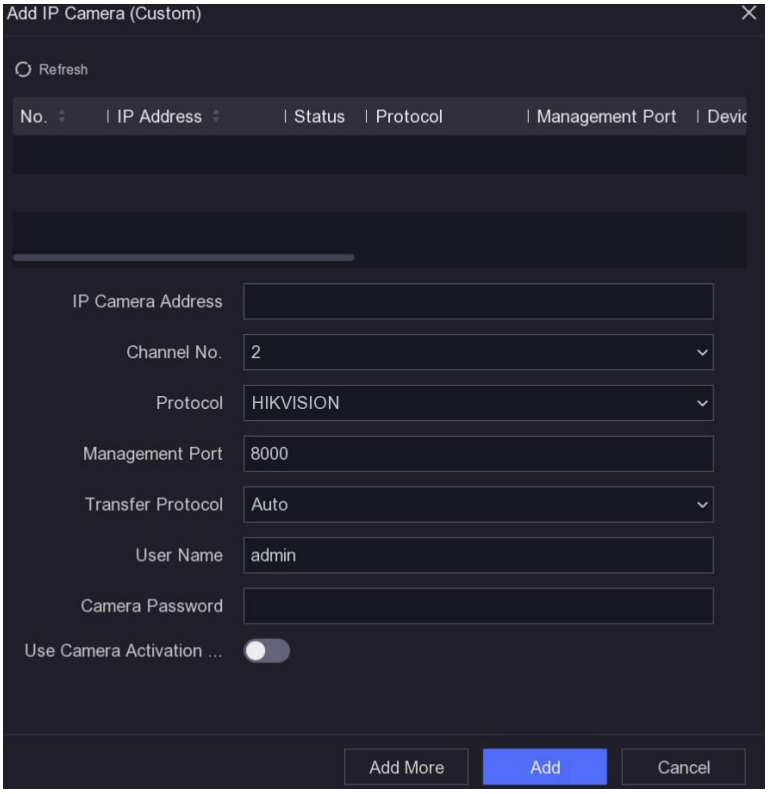


図5-6 ネットワークカメラの追加

接続済みネットワークカメラの編集

追加したネットワークカメラの IP アドレス、プロトコル、その他のパラメータを編集できます。

手順

1. **設定→ カメラ→ IP カメラ** に Go します。
2. をクリックして、選択したカメラを編集します。

チャンネルポート

接続されたデバイスが複数チャンネルのエンコーディングデバイスである場合、接続するチャンネルを選択するためにチャンネルポートNo.を選択できます。

3. **OK**をクリックしてください。

5.3.2 OSD設定

日付形式、カメラ名など、カメラの OSD (オンスクリーンディスプレイ) 設定を構成します。

手順

1. **設定→ カメラ→ OSD** に Go します。
2. カメラを選択します。

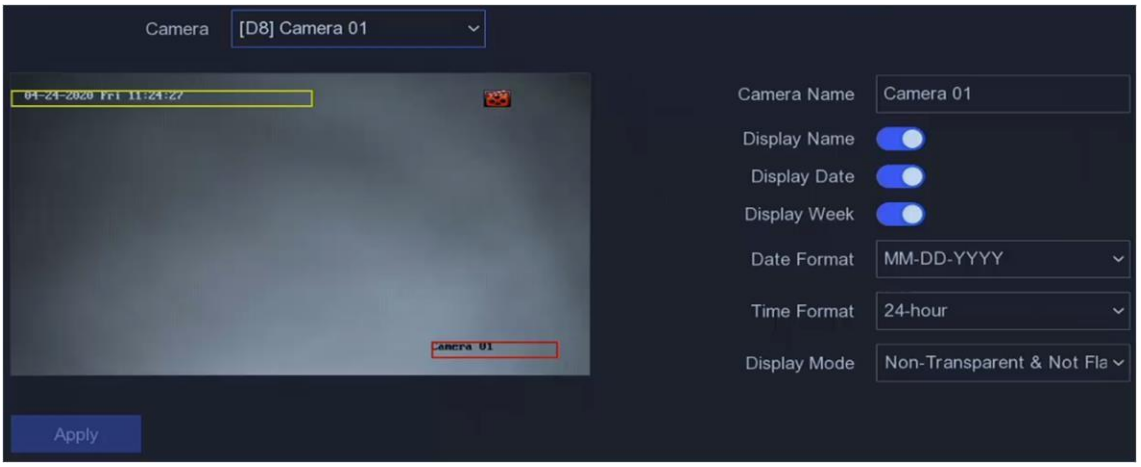


図 5-7 OSD

3. パラメータを任意に設定します。
4. プレビューウィンドウ上のテキストフレームをドラッグして、OSD の位置を調整します。
5. **適用**をクリックします。

5.3.3 動体検知

動体検知により、ビデオレコーダーは監視エリア内の移動物体を検知し、アラームを発動します。

手順

1. **設定→ カメラ→ 動体検知** に GO します。
2. カメラを選択します。
3. **「有効」**にチェック**を入れます**。
4. 動き検出エリアの設定：**「エリアを描画」**または**「クリア」**をクリックしてエリアを描画またはクリアします。

> **注記**
>
> 操作は機種によって異なる場合があります。

5. **感度**を調整します。感度により、動きがアラームをトリガーする容易さを調整できます。値が高いほど、動きがトリガーされやすくなります。
6. **AI** または **PIR** として分析モードを

   設定します。**AI**

   モーションイベントはデバイスによって分析されます。

   PIR

   モーションイベントは特定のアナログPIRカメラによって分析されます。
7. オプション：**検知対象を「人」**または**「車両」**に設定し、人または車両によって引き起こされないアラームを排除します。
8. 武装スケジュールを設定します。詳細は*「武装スケジュールの設定」*を参照してください。
9. リンク方法のアクションを設定します。詳細は「*アラームリンク方法のアクションの設定」*を参照してください。

10. **適用**をクリックします。

5.4 アラームリンク方法動作の設定

アラームまたは例外が発生した場合、アラームリンク方法アクションが起動されます。

手順

1. **リンク方法を**クリックします。
2. 通常リンク方法動作、アラーム出力リンク方法動作、トリガチャネルなどを設定します。

   アラームポップアップウィンドウ

   アラームがトリガーされると、ローカルモニターにアラーム発生チャンネルの画像がポップアップ表示されます。**トリガーチャンネル**でアラーム発生チャンネルを選択する必要があります。

   ブザーアラーム

   アラームがトリガーされるとブザー音が鳴ります。

   監視センターへの通知

   アラーム発生時に、本装置はリモートクライアントソフトウェアへ例外またはアラーム信号を送信します。

   メールを送信

   アラームがトリガーされた際に、アラーム情報を含むメールを送信します。

   トリガーチャンネル

   選択したチャンネルの録画を開始します。**設定→ Record→ Schedule** で、チャンネルの録画スケジュールを設定する必要があります。
3. **適用**をクリックします。

5.5 設定

手順

1. **「アーミングスケジュール」**を選択します。
2. 週の1日を選択し、時間帯を設定します。1日あたり最大8つの時間帯を設定できます。

注意

時間帯は重複または重ならないように設定してください。

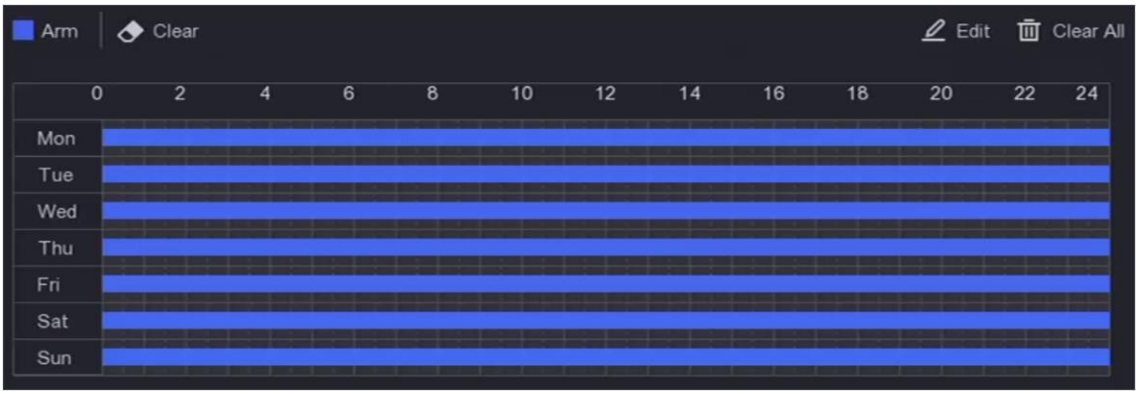


図5-8 セット武装スケジュール

3. **適用**をクリックします。

5.6 録画管理

5.6.1 ストレージデバイス

HDDの初期化

新しく取り付けたハードディスクドライブ (HDD) は、ビデオや情報を保存するために使用できるようになる前に、初期化する必要があります。

ご使用の前に

ビデオレコーダーに少なくとも1台のHDDを取り付けてください。詳細な手順については、クイックスタートガイドを参照してください。

手順

1. **設定→ 記録→ ストレージ** に Go します。
2. HDD を選択します。
3. **初期化**をクリックします。

データベースの修復

データベースにエラーが発生したHDDを修復してください。専門の技術サポートの助けを借りて操作してください。

ネットワークディスクの追加

割り当てられたNASまたはIP SANディスクをビデオレコーダーに追加し、ネットワークHDDとして使用できます。

手順

1. **設定→ 記録→ ストレージ** に Go します。
2. **[追加]**をクリックします。
3. **NetHDD**を選択します。

4. **タイプを NAS** または **IP SAN** に設定します。
5. **NetHDD IP** アドレスを入力します。
6. 利用可能なディスクを検索するには、[ ] をクリックします。

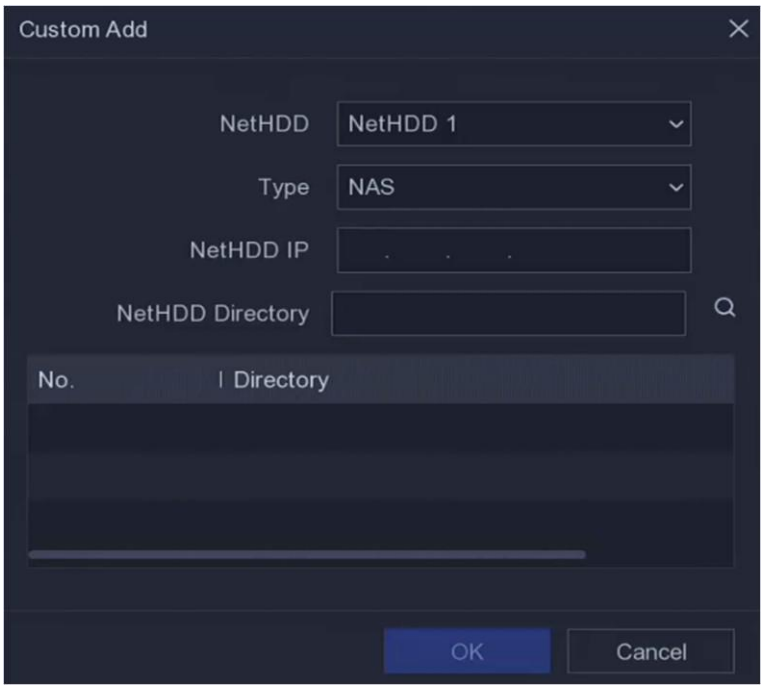


図5-9 NetHDDの追加

7. リストからNASディスクを選択するか、**NetHDDディレクトリ**に手動でディレクトリを入力してください。
8. **[OK]**をクリックします。追加されたNetHDDがストレージデバイスリストに表示されます。

5.6.2 録画スケジュールの設定

ビデオレコーダーは、設定されたスケジュールに従って自動的に録画を開始/停止します。

連続録画の設定

手順

1. **設定→ 記録→ パラメータ**に移動します。
2. カメラの連続メインストリーム/サブストリーム録画パラメータを設定します。詳細は ***録画パラメータ***の設定
3. **設定→ 記録→ スケジュール** に移動します。
4. 録画タイプを「**連続**」に設定してください。詳細は「***スケジュール編集***」を参照してください。

イベント録画の設定

動体検知によってトリガーされる録画を設定できます。

手順

1. **設定→ カメラ→ モーション** に Go します。
2. イベント検出を設定し、イベント発生時に録画をトリガーするチャンネルを選択します。
3. **設定→ 記録→ パラメータ** に Go します。
4. カメラの連続メインストリーム/サブストリーム録画パラメータを設定します。詳細は ***録画パラメータの設定***を参照してください。
5. **設定に**Go**→ レコード→ スケジュール**。
6. 録画タイプを「**イベント**」に設定します。詳細は「***スケジュール編集***」を参照してください。

スケジュール編集

手順

1. **設定→ 記録→ スケジュール** に移動します。

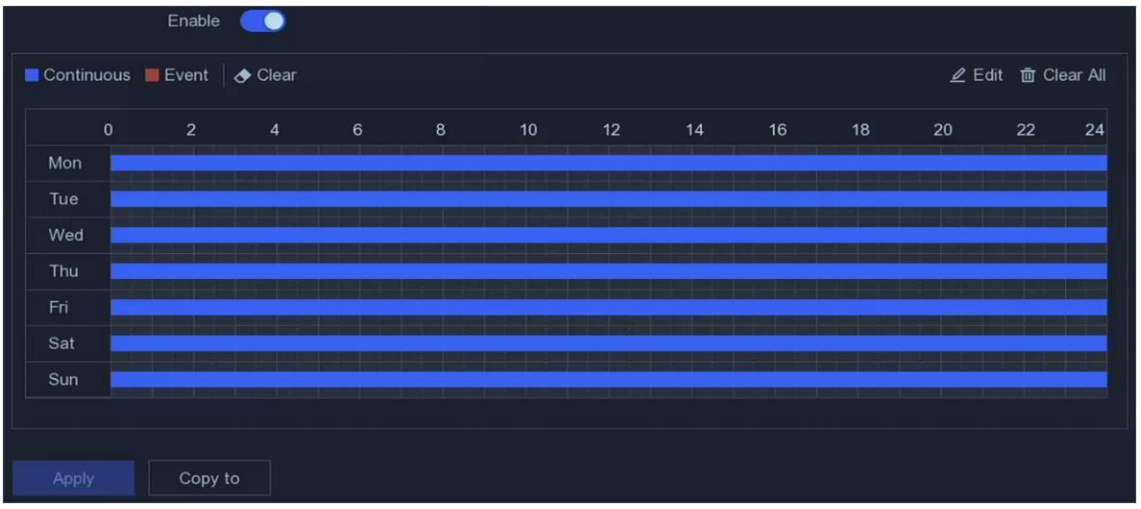


図 5-10 録画スケジュール

連続

連続録画。

イベント

イベントによって録画がトリガーされます。

2. **カメラNo.**でカメラを選択
3. **有効化を**オンにする。
4. 録画スケジュールを設定します。

スケジュールを編集

1. **編集**をクリックします。
2. 「曜日」で設定する曜日を選択します。

3. 終日録画スケジュールを設定するには、「**終日**」にチェックを入れ、スケジュールタイプを選択してください。
4. その他のスケジュールを設定するには、「**終日**」のチェックを外し、**開始時間/終了時間**とスケジュールタイプを設定します。

> **注**
> 1日あたり最大8つの時間帯を設定できます。また、時間帯同士が重複することはできません。

5. 設定を保存して上位レベルのメニューに戻るには、**[OK]**をクリックします。

スケジュールを描画

1. スケジュールタイプを「**連続**」または「**イベント**」から選択してください。
2. テーブル上で、目的の期間にマウスをドラッグして色付きのバーを描画します。

5. **適用**をクリックします。

5.6.3 記録パラメータの設定

手順

1. 設定→ **記録**→ **パラメータ**に移動します。
2. 録画パラメータを設定します。

メインストリーム

メインストリームとは、ハードディスクドライブに記録されるデータに影響を与える主要なストリームを指し、ビデオの品質と画像サイズを直接決定します。サブストリームと比較して、メインストリームはより高い解像度とフレームレートで高品質なビデオを提供します。

サブストリーム

サブストリームはメインストリームと並行して動作する第二のコーデックです。直接録画品質を損なうことなく、インターネット送信帯域幅を削減できます。サブストリームは主にスマートフォンアプリがライブビデオを視聴するために使用されます。インターネット速度が制限されているユーザーはこの設定から最も恩恵を受けられます。

解像度

画像解像度は、デジタル画像が保持できる詳細度の尺度です。解像度が高いほど、詳細レベルも高くなります。解像度は、ピクセル列数（幅）×ピクセル行数（高さ）で指定できます。例：1024×768。

フレームレート

フレームレートとは、1秒間にキャプチャされるフレーム数を指します。ビデオストリームに動きがある場合、フレームレートが高いほど有利です。なぜなら、画像全体を通して画像の質を維持できるからです。

。

最大ビットレート

最大ビットレートを設定します。ビットレート（Kbit/s または Mbit/s）は速度と呼ばれることが多いですが、実際には距離/時間単位ではなく、時間単位あたりのビット数を定義します。

エンコーディングタイプ

ビデオエンコーディングタイプを設定します。

H.265+を有効にする

H.265+を有効または無効にします。

注

解像度、フレームレート、ビットレートが高いほどビデオ品質は向上しますが、より多くのインターネット帯域幅を必要とし、ハードディスクドライブのストレージ容量もより多く消費します。

3. **適用**をクリックします。

第6章 設定（エキスパートモード）

設定にGoし、左下隅にある「**エキスパートモード**」をクリックします。

6.1 システム設定

6.1.1 全般

基本設定の構成

ビデオ品質モード、出力解像度、マウスポインタの速度、ウィザードなどを設定できます。**設定**に移動→ **システム**→ **全般**→ **基本設定**、必要に応じてパラメータを設定し、**適用**をクリックします。

VGA/HDMI 解像度

出力解像度を選択します。これは VGA/HDMI ディスプレイの解像度と同じである必要があります。

ビデオ品質モード

デフォルトのモードは標準です。

マウスポインタ速度

マウスポインタの速度を設定します。4つのレベルの設定が可能です。

パスワード不要ログイン

パスワードなしでログインできます。

ウィザード

デバイス起動後にウィザードが表示されます。

地域と時刻の設定

言語、システム時刻、地域などを設定できます。

詳細設定

デバイスの名前、ロック画面の時間、出力モードなどを設定できます。
設定に移動 Go→ **システム**→ **全般**→ **詳細設定で**、お好みのパラメータを設定し、**適用**をクリックします。

デバイス名

ビデオレコーダーの名前を編集します。

デバイスNo.

この番号は、リモートコントロール、ネットワークキーボードなどとの接続に必要です。ビデオレコーダーのシリアル番号を編集します。デバイス番号の範囲は 1 から 255 までで、デフォルト値は 255 です。

画面ロック

画面ロックのタイムアウト時間を設定します。

メニュー出力モード

ローカルメニューを表示する出力を選択します。

CVBS出力輝度

CVBS出力の輝度を設定します。

出力規格

NTSCまたは**PAL**に設定してください。ビデオ入力規格と同じである必要があります。

1080P Liteモード

1080P Liteモードが有効の場合、1080P Lite（リアルタイム）でのエンコード解像度がサポートされます。無効の場合、最大1080P（非リアルタイム）がサポートされます。

6.1.2 ライブビュー

全般パラメータの設定

出力インターフェース、オーディオのミュートまたはオン、イベント出力インターフェースなどを設定できます。

手順

1. **設定→ システム→ ライブビュー→ 全般 に** Go します。

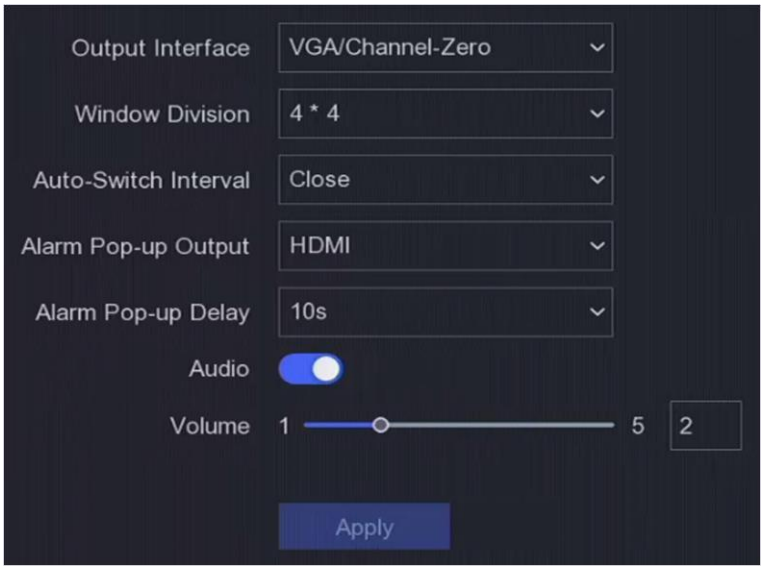


図 6-1 ライブビュー - 全般

2. ライブビューのパラメータを設定します。

ウィンドウ分割

ライブビューウィンドウの分割を選択してください。

自動切り替え間隔

ライブビューの自動切り替えが有効な場合、カメラに滞在する時間（次のカメラに切り替えるまでの時間）。

アラームポップアップ出力

アラームビデオを表示する出力を選択します。

アラームポップアップ遅延

アラームイベント画像を表示する時間を設定します。

オーディオ

選択したビデオ出力のオーディオ出力をオン/オフにします。

音量

選択したビデオ出力インターフェースのライブビュー、再生、双方向オーディオの音量を調整します。

3. **適用**をクリックします。

ライブビューレイアウトの設定

手順

1. Go **設定→ システム→ ライブビュー→ ビュー**
2. **出力インターフェース**を設定します。
3. ウィンドウを選択し、表示したいカメラをリストでダブルクリックします。✚ はウィンドウにカメラが表示されないことを意味します。
4. オプション：すべてのカメラのライブビューを開始または停止するには、[ ] または [ ] をクリックします。
5. **適用**をクリックします。

Channel-Zero エンコーディングの設定

ウェブブラウザーや CMS (クライアント管理システム) ソフトウェアから、多くのチャンネルをリアルタイムでリモート表示する必要がある場合に、画像の品質に影響を与えずに帯域幅の要件を削減するために、チャンネルゼロエンコーディングを有効にします。

手順

1. Go **設定→ システム→ ライブビュー→ 全般**
2. **ビデオ出力インターフェースを Channel-Zero** に設定します。
3. **設定→ システム→ ライブビュー→ Channel-Zero** にGoします。

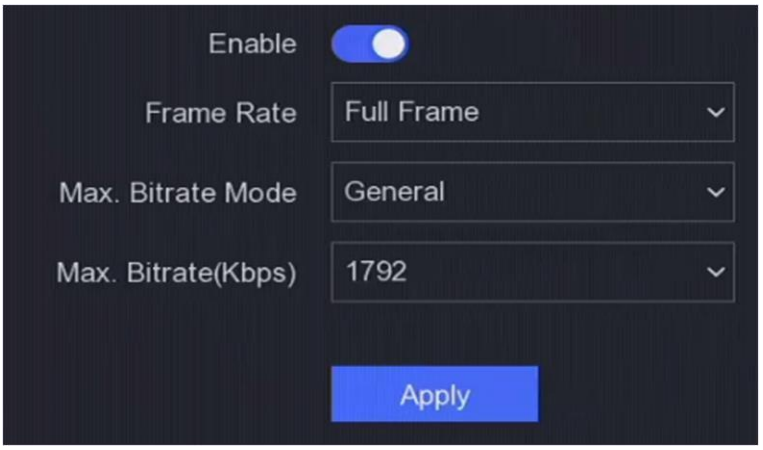


図 6-2 Channel-Zero

4. **Enable** をオンにします。
5. **フレームレート、最大ビットレートモード、最大ビットレートを設定します**。フレームレートとビットレートが高いほど、より高い帯域幅要件が必要となります。
6. **適用**をクリックします。

6.1.3 ユーザー

詳細については、***ユーザー***を参照してください。

6.2 ネットワーク設定

6.2.1 全般

TCP/IP

ネットワーク経由でビデオレコーダーを操作する前に、TCP/IP を適切に設定する必要があります。

手順

1. **設定→ ネットワーク→ 全般→ TCP/IP** に Go します。
2. ネットワークパラメータを設定します。

動作モード

マルチアドレスモード

2枚のNICカードのパラメータは個別に設定可能です。パラメータ設定では、NICタイプフィールドで LAN1またはLAN2を選択できます。1枚のNICカードをデフォルトルートとして選択できます。これにより、システムはエクストラネットに接続され、データはデフォルトルートを経由して転送されます。

ネットワーク障害耐性モード

2枚のNICカードは同一のIPアドレスを使用し、メインNICをLAN1またはLAN2に選択できます。これにより、1枚のNICカードに障害が発生した場合、ビデオレコーダーは自動的に別のスタンバイNICカードを有効化し、システム全体の正常な稼働を確保します。

負荷分散モード

同一IPアドレスを使用し、2枚のNICカードが総帯域幅の負荷を分担することで、システムは2つのギガビットネットワーク容量を提供します。

注記

動作モードは特定のモデルでのみ利用可能です。

NICタイプ

お好みの NIC タイプを選択してください。お使いのデバイスが Wi-Fi ドングル機能をサポートしている場合、適切な Wi-Fi ドングルがインストールされると、Wi-Fi ドングルの NIC が選択可能になります。

DHCP

DHCP サーバーが利用可能な場合は、**[DHCP を有効にする]** をチェックして、そのサーバーから IP アドレスやその他のネットワーク設定を自動的に取得することができます。

MTU

最大伝送単位（MTU）とは、単一のネットワークトランザクションで通信可能な最大サイズのネットワーク層プロトコルデータ単位です。

デフォルトルート

ご希望のルートを選択してください。お使いのデバイスが Wi-Fi ドングル機能をサポートしている場合、適切な Wi-Fi ドングルがインストールされると、Wi-Fi ドングルのルートが選択可能になります。

自動でDNSを取得

DHCPがチェックされている場合、**優先DNS**サーバーと**代替DNSサーバー**を取得するには「**DNSを自動的に取得する**」を選択できます。

3. **適用**をクリックします。

DDNS

ダイナミックドメインネームサーバー（DDNS）は、動的なユーザー IP アドレスを固定のドメインネームサーバーにマッピングします。

開始前に

DynDNS、PeanutHull、NO-IP サービスを ISP に登録してください。

手順

1. **設定→ ネットワーク→ 全般→ DDNS** に移動します。

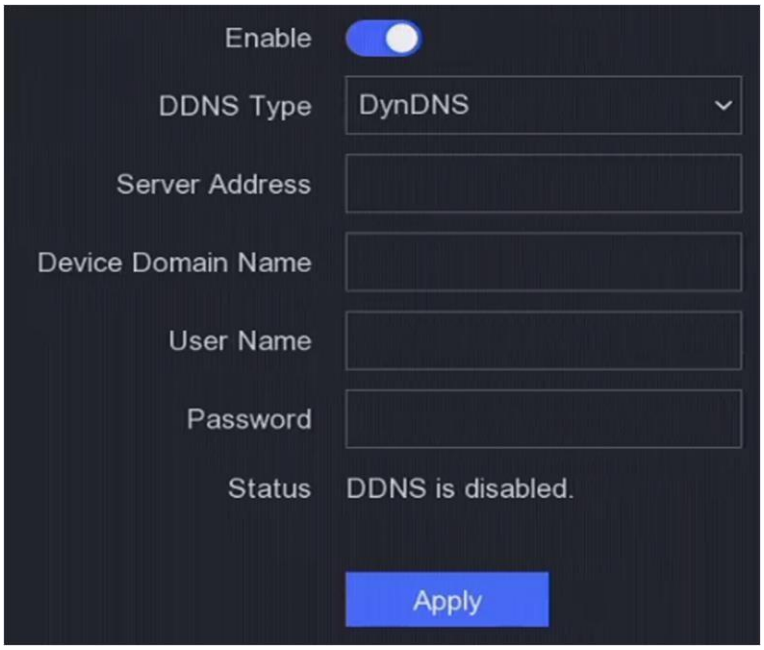


図 6-3 DDNS

2. **有効化を**オンにします。
3. DDNS タイプを選択します。
4. サービスアドレス、ドメイン名などのパラメータを入力します。
5. **適用**をクリック

してください。**次**

にすべきこと

ステータスでDDNSの状態を確認できます。

NAT

クロスセグメントネットワーク経由のリモートアクセスを実現するためのポートマッピングには、UPnP™ と手動マッピングの 2 つの方法があります。

開始前に

UPnP™ が必要な場合は、お使いのルーターの UPnP™ 機能を有効にしてください。デバイスのネットワーク動作モードがマルチアドレスの場合、デフォルトのデバイスルートは、ルーターの LAN IP アドレスと同じネットワークセグメント上にある必要があります。

手順

1. **設定→ ネットワーク→ 全般→ NAT** に移動します。

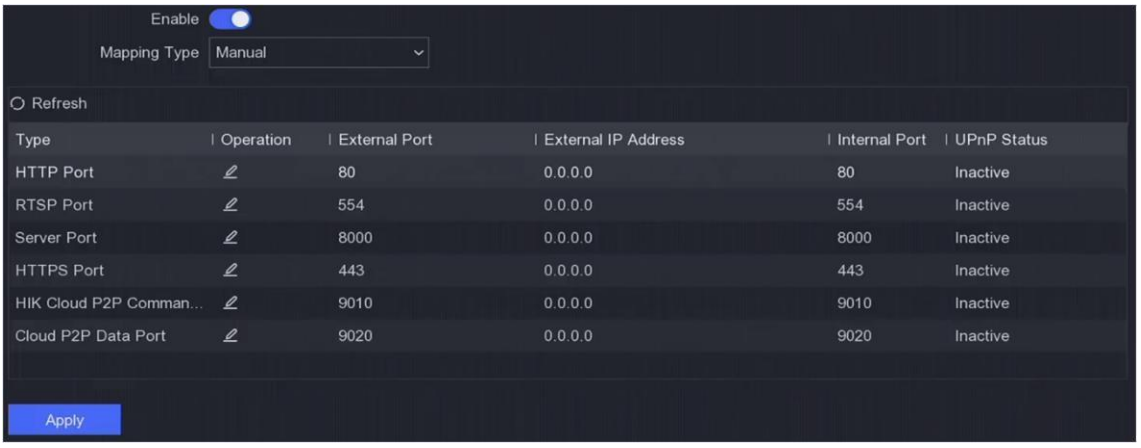


図 6-4 NAT

2. **[有効化]** をオンにします。
3. **マッピングタイプを「手動」**または「**自動**」に選択

自動

ポートマッピング項目は読み取り専用であり、外部ポートはルーターによって自動的に設定されます。ポートマッピングの最新ステータスを取得するには、**[更新]**をクリックできます。

手動

外部ポートタイプを選択します。**外部ポートを**編集するには「 」 をクリックします。デフォルトの外部ポートNo.を使用するか、実際の要件に応じて変更できます。**外部ポートは**ルーター内のポートマッピングに使用するポートNo.を示します。

RTSPポートNo.は554または1024～65535の範囲で設定してください。その他のポートNo.は1～65535の範囲で設定し、各ポートNo.は重複しないようにしてください。複数の

同じルーター下のUPnP™設定でデバイスが構成されている場合、各デバイスのポートNo.は一意である必要があります。

4. ルーターの仮想サーバーを設定します（内部送信元ポート、外部送信元ポートなど）。仮想サーバーのパラメータは、お使いのデバイスのポートに対応している必要があります。

Wi-Fi

特定のモデルでは、Wi-Fi ドングルをデバイスにインストールすると、デバイスはワイヤレスネットワークに接続できるようになり、デバイス内のチャンネルを Wi-Fi 経由で閲覧できるようになります。たとえば、デバイスが複数のネットワークカメラまたはアナログカメラ（Wi-Fi ネットワークカメラは現在接続不可）に接続されている場合、デバイスがワイヤレスネットワークに接続されると、Wi-Fi 経由でデバイスにアクセスし、接続されたチャンネルを閲覧できるようになります。

開始前に

- 適切なWi-Fiドングルを準備し、背面パネルのUSBインターフェースに挿入してください。
- お使いのデバイスがこの機能をサポートしていることを確認してください。

手順

1. **設定→ ネットワーク→ 全般→ Wi-Fi** に移動します。

注記

Wi-Fi ドングルを初めて挿入すると、Wi-Fi 設定インターフェースが自動的にポップアップ表示されます。

2. ワイヤレスネットワークに接続します。

ワイヤレスネットワークに接続します。 自動的に検索された無線ネットワーク	1. リストから目的の無線ネットワークをダブルクリックします。 2. ワイヤレスネットワークのパラメータを設定します。 3. **OK**をクリックします。
カスタム無線ネットワークに接続	1. **カスタム追加**をクリックします。 2. ワイヤレスネットワークのパラメータを設定します。 3. **[OK]** をクリックします。
Connect to a Wireless Network with WPS (Wi-Fi 保護設定) を使用してワイヤレスネットワークに接続する	1. **WPS 設定**をクリックします。 2. **WPSを有効にするに**チェックを入れます。 3. ワイヤレスネットワークのパラメータを設定します。 4. **適用**をクリックします。

注記

ネットワークを編集または削除する必要がある場合は、接続済みのネットワークをダブルクリックし、必要に応じて編集してください。

利用可能なワイヤレスネットワークに接続すると、接続結果を
接続ステータスで確認できます。

3. **設定→ ネットワーク→ 全般→ TCP/IP** に Go します。
4. **NIC 選択**と**デフォルトルートを WLAN0** に設定します。
5. **Wi-Fiを有効にするに**チェックを入れます。
6. その他のネットワークパラメータを設定します。
7. **適用**をクリックします。

NTP

お使いのデバイスは、システム時刻を正確に保つためにネットワーク時刻プロトコル（NTP）サーバーに接続できます。

手順

1. **設定→ ネットワーク→ 全般→ NTP** に移動します。

2. **[有効化]**をオンにします。
3. パラメータを入力します。

間隔

NTP サーバーとの 2 回の時刻同期間の時間間隔。

NTP サーバー

NTPサーバーのIPアドレス。

4. **適用**をクリックしてください。

ログサーバー設定サーバーへ

のログアップロード

システムログをサーバーにアップロードしてバックアップできます。

手順

1. **設定→ ネットワーク→ 全般→ ログサーバー設定** に Go します。

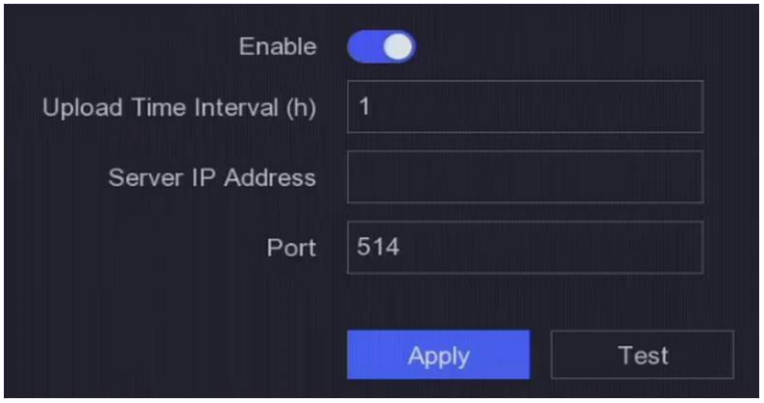


図6-5 ログサーバー設定

2. 有効**にする**
3. **アップロード間隔、サーバーIPアドレス、ポート**を設定します。
4. オプション: **[テスト]** をクリックしてパラメータが有効かどうかをテストします。
5. **適用**をクリックします。

ポート（詳細設定）

異なるポートタイプを設定して、必要に応じて関連機能を有効にします。**設定**

→ ネットワーク→ 全般→ 詳細設定 に Go します。

アラームホスト IP/ポート

アラームがトリガーされると、デバイスはアラームイベントまたは例外メッセージをアラームホストに送信します。リモートアラームホストには、クライアント管理システム（CMS）ソフトウェアがインストールされている必要があります。

アラームホストIPとは、CMSソフトウェア（例：iVMS-4200）がインストールされているリモートPCのIPアドレスを指し、アラームホストポート（デフォルト7200）はソフトウェアで設定されたアラーム監視ポートと同一である必要があります。

4200）がインストールされているリモートPCのIPアドレスを指し、アラームホストポート（デフォルト7200）はソフトウェアで設定されたアラーム監視ポートと同一である必要があります。

サーバーポート

リモートクライアントソフトウェアアクセス用。2000～65535の範囲。デフォルト値は8000。

HTTPポート

リモートウェブブラウザーアクセス用。デフォルト値は80。

マルチキャストIP

マルチキャストを設定することで、ネットワーク経由で許可される最大台数を超えるカメラのライブビューを有効にできます。マルチキャスト IP アドレスは、224.0.0.0 から 239.255.255.255 までのクラス D IP をカバーしており、239.252.0.0 から 239.255.255.255 までの IP アドレスを使用することをお勧めします。
CMS ソフトウェアにデバイスを追加する場合、マルチキャストアドレスはデバイスのアドレスと同じである必要があります。

RTSPポート

RTSP（リアルタイムストリーミングプロトコル）は、ストリーミングメディアサーバーを制御するために、エンターテイメントおよび通信システムで使用するために設計されたネットワーク制御プロトコルです。デフォルトのポートは 554 です。

出力帯域幅制限

チェックボックスをオンにすると、出力帯域幅制限を有効にできます。

IP アドレスの自動適応

有効化後、デバイスのIPアドレスが競合した場合、自動的に変更されます。ネットワークカメラとLANが同一のIPアドレスセグメントにない場合、接続されたネットワークカメラのIPアドレスは現在のIPアドレスセグメントに自動的に編集されます。

出力帯域幅

出力帯域幅制限を有効にした後、出力帯域幅を入力してください。

注記

- 出力帯域幅制限は、リモートライブビューおよび再生に使用されます。
- デフォルトの出力帯域幅は最大制限値です。

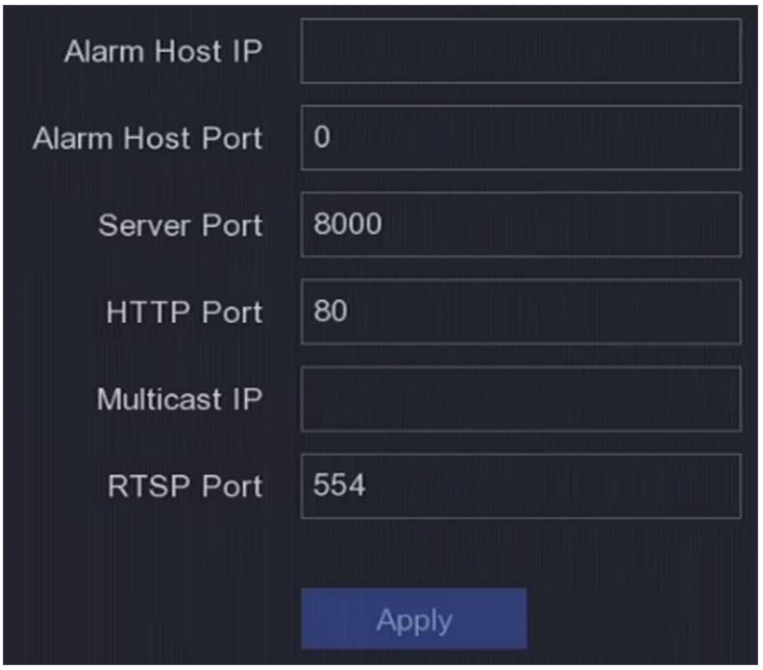


図 6-6 ポート設定

6.2.2 プラットフォームアクセス

Hik-Connect

設定→ ネットワーク→ プラットフォームアクセス に Go します。詳細については、***Hik-Connect*** を参照してください。

ISUP

SDKはインテリジェントセキュリティアップリンクプロトコル（ISUP）に基づいています。サードパーティプラットフォームがNVR、スピードドーム型、DVR、ネットワークカメラ、モバイルNVR、モバイルデバイス、デコードデバイスなどのデバイスにアクセスするためのAPI、ライブラリファイル、コマンドを提供します。このプロトコルにより、サードパーティプラットフォームはライブビュー、再生、双方向オーディオ、PTZ制御などの機能を実現できます。

手順

1. **設定→ ネットワーク→ プラットフォームアクセス** に GO します。
2. **タイプ**を**ISUP**に設定します。

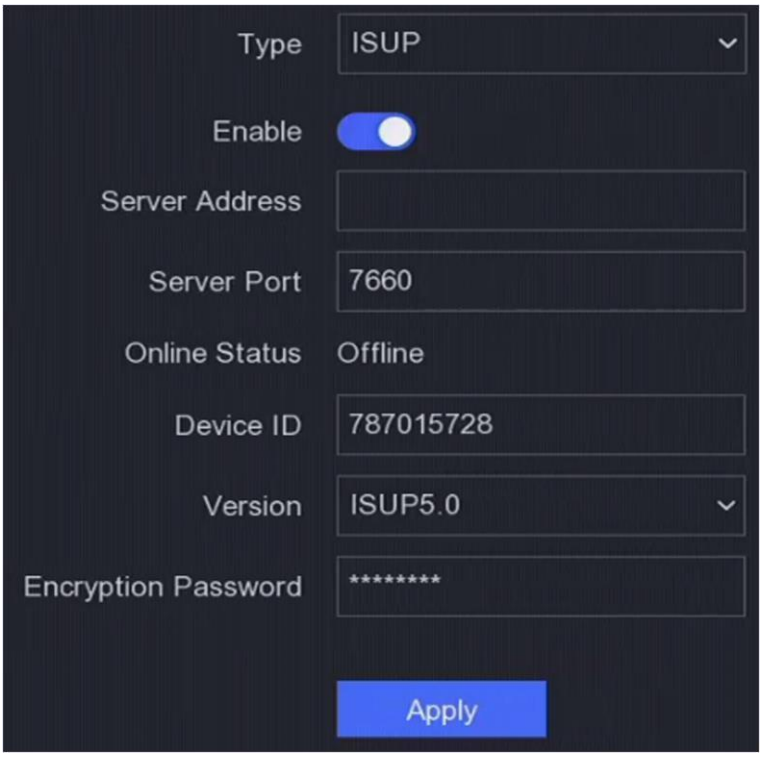


図 6-7 ISUP

3. **有効化を**オンにします。

注記

ISUPを有効にすると、他のプラットフォームへのアクセスは無効になります。

4. 関連するパラメータを設定します。

サーバーアドレス

プラットフォームサーバーの IP アドレス。

サーバーポート

プラットフォームサーバーのポート。1024 から 65535 の範囲。実際のポートはプラットフォームによって提供されます。

デバイスID

デバイスIDはプラットフォームによって提供されるものとする。

バージョン

ISUPプロトコルバージョン、V5.0のみ利用可能。

暗号化パスワード

ISUP V5.0バージョンを使用する場合、暗号化パスワードが必要です。これにより、デバイスとプラットフォーム間の通信のセキュリティが向上します。デバイスがISUPプラットフォームに登録された後、確認のため入力してください。

5. 設定を保存し、デバイスを再起動するには**「適用」**をクリックしてください。

次の操作

デバイスの再起動後、オンライン状態（オンラインまたはオフライン）を確認できます。

OTAPサービス

手順

1. **設定→ ネットワーク→ プラットフォームアクセスに**Goします。
2. **タイプ**を**OTAPサービス**に設定します。
3. **有効化を**オンにしてください。

> **注記**
>
> OTAPサービスを有効にすると、他のプラットフォームへのアクセスは無効になります。

4. 関連するパラメータを設定します。

   サーバーアドレス

   プラットフォームサーバーの IP アドレス。

   ポート

   プラットフォームサーバーのポートは 1 から 65535 までの範囲です。デフォルト値は 7800 です。実際のポートはプラットフォームによって提供されます。

   デバイスID

   デバイスIDはデバイスによって提供される。

   キー

   キーは、サーバーが登録情報を受信した際の検証に使用されます。キーは6～12文字まで許可されます。デフォルトのキーはabc12345です。

5. **「適用」**をクリックして設定を保存し、デバイスを再起動してください。

次にすべきこと

デバイスの再起動後、登録ステータス（オンラインまたはオフライン）を確認できます。

6.2.3 Eメール

設定→ ネットワーク→ メール に Go します。詳細は「*メール*」を参照してください。

6.3 カメラ管理

6.3.1 信号入力の設定

特定のデジタルビデオレコーダーモデルでは、アナログおよび IP 信号入力タイプを設定できます。

手順

1. **設定→ カメラ→ アナログ** に移動するか、右上の**編集をクリック**してください
   設定→ カメラ→ カメラ。
2. 信号入力タイプを**HD/CVBS**または**IP**として選択。

   HD/CVBS

   ターボHD、AHD、HDCVI、CVBSを含む4種類のアナログ信号入力が
   チャンネルに任意に接続できます。

   IP

   ネットワークカメラを接続できます。

図 6-8 信号入力タイプ

3. **適用**をクリックします。**最大IPカメラ数**で、アクセス可能なネットワークカメラの最大数を確認できます。

6.3.2 ネットワークカメラ

自動検出されたオンラインネットワークカメラを追加

ネットワークカメラをビデオレコーダーに追加します。

開始前に

- ネットワークカメラがビデオレコーダーと同じネットワークセグメントにあることを確認してください。
- ネットワーク接続が有効かつ正しいことを確認してください。

- ネットワークカメラのパスワードがビデオレコーダーと同じであることを確認してください。

手順

1. **設定→ カメラ→ カメラ** に Go します。
2. **オンラインデバイスリスト**をクリックします。同じネットワークセグメント上のオンラインカメラがリストに表示されます。

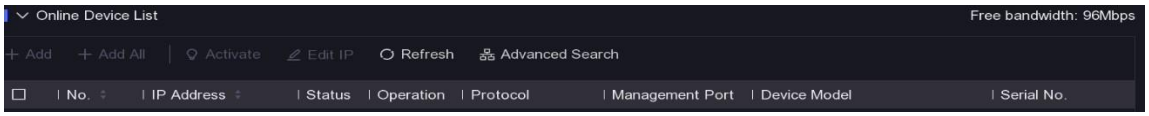


図6-9 オンラインデバイス

3. オプション：一括編集するには**「IP編集」**をクリックします。システムは選択されたカメラに順番にIPアドレスを割り当てます。

注記

- 選択したカメラが有効化されていることを確認してください。
- ネットワークカメラがオンラインの場合、カメラ名をダブルクリックして編集できます。

4. ネットワークカメラを選択し、**「追加」**をクリックして追加します。

ネットワークカメラを手動で追加

ネットワークカメラをビデオレコーダーに追加してください。

開始前に

- ネットワークカメラがビデオレコーダーと同じネットワークセグメントにあることを確認してください。
- ネットワーク接続が有効かつ正しいことを確認してください。
- ネットワークカメラが起動していることを確認してください。

手順

1. **設定→ カメラ→ カメラ** に Go します。
2. 「」をクリックします。

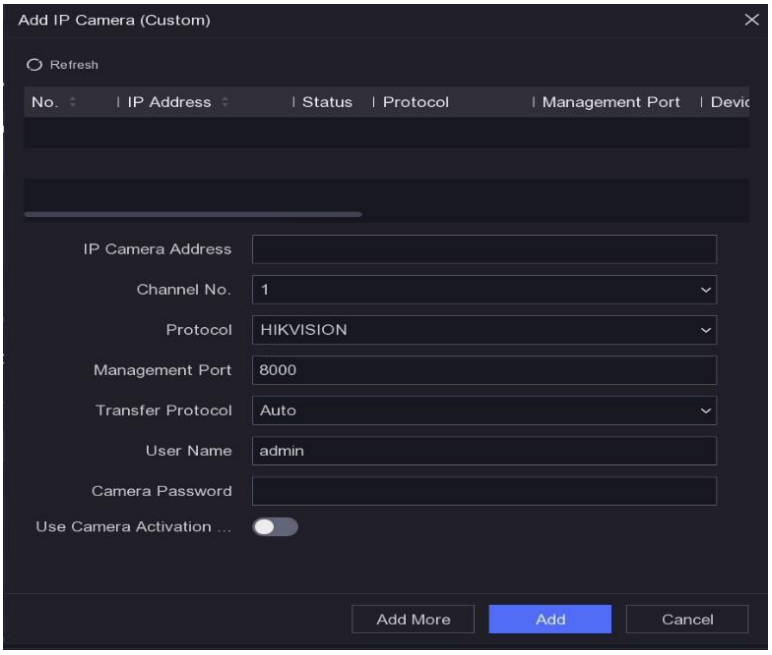


図 6-10 IP カメラの追加

3. ネットワークカメラのパラメータを入力します。

カメラ有効化パスワードを使用する

有効にすると、ビデオレコーダーは設定されたチャンネルのデフォルトパスワードでカメラを追加します。

4. **[追加]**をクリックします。

別のネットワークセグメント上のネットワークカメラを追加

ネットワークカメラが別のネットワークセグメントにある場合、デバイスはその IP アドレスを IP アドレスの範囲内で検索し、追加することができます。

開始前に

- ネットワーク接続が有効かつ正しいことを確認してください。
- ネットワークカメラのパスワードがビデオレコーダーと同じであることを確認してください。

手順

1. **設定→ カメラ→ カメラ** に Go します。
2. **詳細検索**をクリックします。
3. **ネットワークセグメント**を入力します。

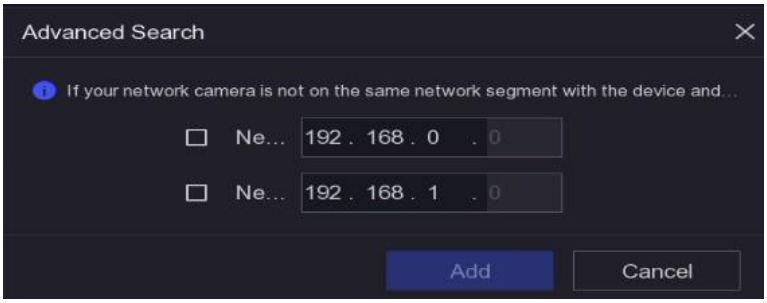


図6-11 ネットワークセグメントの入力

4. **[追加]**をクリックします。

プラグアンドプレイによるネットワークカメラの追加

非アクティブなネットワークカメラまたはサードパーティ製 ONVIF カメラがネットワークに接続されている場合、ビデオレコーダーが自動的にカメラを検出して追加するか、手動で追加するよう通知します。

手順

1. **設定→ カメラ→ カメラ** に Go します。
2. **詳細**をクリックします。
3. **[プラグアンドプレイ]** を選択します。
4. オプション：**ネットワークカメラの自動追加を**有効にします。ビデオレコーダーは、非アクティブなネットワークカメラまたはサードパーティ製 ONVIF カメラを自動的に検出して追加します。

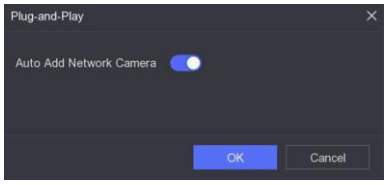


図 6-12 ネットワークカメラの自動追加

注記

[自動追加ネットワークカメラ] をオフにした場合、非アクティブなネットワークカメラまたはサードパーティ製 ONVIF カメラがネットワークに接続されると、ビデオレコーダーはそれを自動的に検出し、追加するよう通知します。

ネットワークカメラの編集

ネットワークカメラのIPアドレス、プロトコル、その他のパラメータを編集できます。

手順

1. **設定→ カメラ→ カメラ** に Go します。
2. 追加済みのネットワークカメラの「 」 をクリックします。

チャンネルポート

接続されたデバイスが複数チャンネルのエンコーディングデバイスである場合、ドロップダウンリストからチャンネルポートNo.を選択して接続するチャンネルを選択できます。

3. オプション：**[IPの編集]**をクリックすると、カメラのIPアドレスを一括編集できます。システムは選択したカメラに順番にIPアドレスを割り当てます。
4. **[OK]** をクリックします。

ネットワークカメラのアップグレード

ネットワークカメラは、デバイスを通じてリモートでアップグレードできます。

開始前に

- USBフラッシュドライブがデバイスに挿入されていることを確認し、ネットワークカメラのアップグレードファームウェアが含まれていることを確認してください。
- ネットワークカメラがビデオレコーダーと同じネットワークセグメントにあることを確認してください。
- ネットワーク接続が有効かつ正しいことを確認してください。

手順

1. **設定→ カメラ→ カメラ** に Go します。
2. 「」をクリックします。
3. 確認のため**「対応」**をクリックします。
4. ストレージデバイスからカメラのアップグレードファームウェアを選択します。
5. **アップグレード**をクリックしてアップグレードを開始します。アップグレード完了後、カメラは自動的に再起動します。

詳細なカメラパラメータの設定

カメラのIPアドレスやパスワードなどの詳細なカメラパラメータを設定できます。

開始前に

- ネットワークカメラがビデオレコーダーと同じネットワークセグメントにあることを確認してください。
- ネットワーク接続が有効かつ正しいことを確認してください。

手順

1. **設定→ カメラ→ カメラ** に Go します。
2. をクリックします。
3. IP アドレス、カメラパスワードなどのカメラパラメータを設定します。
4. **適用**をクリックします。

カメラ設定ファイルのインポート/エクスポート

追加されたネットワークカメラの情報は、IPアドレス、ポート、管理者パスワードなどを含むエクセルファイルとして生成され、バックアップのためにローカルデバイスにエクスポートできます。エクスポートされたファイルは、内容の追加や削除など、コンピューター上で編集可能です。設定を他のデバイスにコピーするには、そのエクセルファイルをデバイスにインポートします。

他のデバイスにエクセルファイルをインポートすることで設定をコピーできます。

開始前に

ビデオレコーダーにUSBフラッシュドライブなどのバックアップデバイスを接続してください。

手順

1. **設定→ カメラ→ カメラ** に Go します。
2. **その他**をクリックします。
3. **「エクスポート/インポート」**をクリックし、設定ファイルを接続されたバックアップデバイスにエクスポート/インポートします。
4. ストレージデバイスとフォルダパスを設定します。
5. **エクスポート/インポート**をクリックします。**次にすべきこと**

インポート処理が完了したら、ビデオレコーダーを再起動する必要があります。

詳細設定

手順

1. **設定→ カメラ→ カメラ** に Go します。
2. **詳細設定**をクリックします。
3. 必要に応じてパラメータを設定します。

H.265 自動切り替え設定

このオプションを有効にすると、デバイスは初回アクセス時にネットワークカメラ（H.265 ビデオ形式をサポート）のストリームを自動的に H.265 に切り替えます。

アップグレード

追加したネットワークカメラをアップグレードします。

エクスポート/インポート

追加されたネットワークカメラの情報は、IPアドレス、ポート、管理者パスワードなどを含むExcelファイルとして生成され、バックアップのためにローカルデバイスにエクスポートできます。エクスポートされたファイルは、内容の追加や削除など、コンピューター上で編集可能です。また、Excelファイルを他のデバイスにインポートすることで、設定をコピーできます。

カメラ有効化パスワード設定

ネットワークカメラの起動および追加用のデフォルトパスワードを変更します。既に接続済みのネットワークカメラについては、以下のポップアップウィンドウでパスワードをこの値に変更する選択が可能です。

一括設定

本デバイスは、選択したネットワークカメラのSVC機能を有効化、または時刻を自動同期させることができます。

プラグアンドプレイ

プラグアンドプレイページで「**ネットワーク**カメラの**自動追加を**有効にする」を選択します。ビデオレコーダーは自動的に非アクティブなネットワークカメラまたはサードパーティ製ONVIFカメラを検出し追加します。

6.3.3 表示設定

OSD（オンスクリーンディスプレイ）、画像設定、露出設定、デイ&ナイト切り替え設定などを設定します。

手順

1. **設定→ カメラ→ 表示** に Go します。
2. **カメラ**を設定します。
3. パラメータを任意に設定します。

OSD設定

カメラの OSD (オンスクリーンディスプレイ) 設定（日付、時刻、カメラ名など）を構成します。

画像設定

ライブビューと録画効果の明るさ、コントラスト、彩度などの画像パラメータをカスタマイズします。

露出

カメラの露光時間を設定します（1/10000～1秒）。露光値が大きいほど画像は明るくなります。

デイ&ナイト切り替え

周囲の照度や時間スケジュールに応じて、カメラをデイ、ナイト、自動、スケジュールに切り替えられます。

逆光

カメラのワイドダイナミックレンジ(WDR)（0～100）を設定します。周囲の照度と被写体の明るさに大きな差がある場合、WDR値を設定する必要があります。

画像処理

画像のコントラストを最適化して強調します。

カメラパラメータ設定

カメラパラメータ（昼夜モード、補助照明モードなど）を設定できます。詳細は「*カメラパラメ*ータ設定の構成」を参照してください。

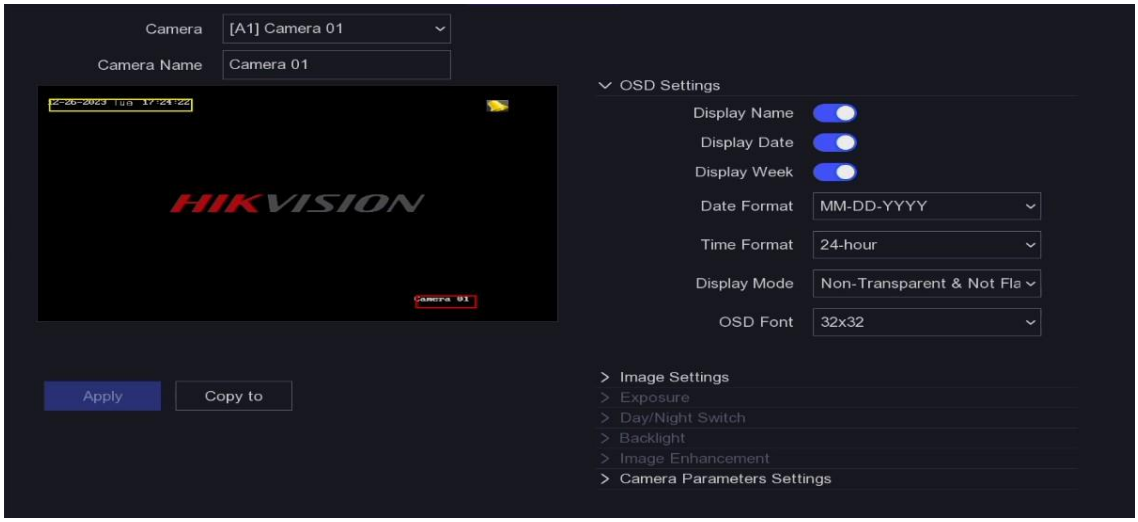


図6-13 OSD

4. プレビューウィンドウ上のテキストフレームをドラッグしてOSDの位置を調整します。
5. **適用**をクリックします。

カメラパラメータ設定

デイ/ナイトモード、補助照明モードなどのカメラパラメータを設定できます。

手順

1. **カメラ設定**にGoします。→**表示**。
2. お好みのカメラを選択してください。
3. **カメラ名で**名前を編集します。
4. パラメータを設定します。

信号切替

シグナルスイッチから4MPまたは5MPの信号を切り替えます。4MP 25/30 fpsと5MP 20 fpsが選択可能です。4MP 25 fpsおよび4MP 30 fps信号はカメラに自動適応します。

デフォグを有効にする

選択したカメラのデフォグ機能を有効にするには、デフォグ有効に**チェック**を入れます。**デフォグレベル**は1から4で設定します。

昼夜感度/夜昼感度

カメラの**昼から夜への感度、夜から昼への感度、IR光の明るさなどの**パラメータを調整します。**昼から夜への感度、夜から昼への感度、IR光の明るさの**デフォルト値は5です。有効値の範囲は1から9です。

デイ＆ナイト機能

ドロップダウンリストからカメラの**デイ＆ナイト機能**を選択します。
デイモードでは、画像は常にカラーです。ナイトモードでは、画像は白黒です。

WDRスイッチ

WDRスイッチをチェックしてカメラの機能を有効にします。

5. オプション：**コピー**をクリック　　現在のカメラのパラメータを他のカメラにコピーします。
6. オプション：**[適用]** をクリックして設定を保存します。

注記

パラメータは接続されたカメラに保存され、DVRには保存されません。インターフェースを終了して再度入ると、表示されるパラメータは前回設定したものです。カメラパラメータ設定は、これらの機能をサポートするカメラにのみ適用されます。

6.3.4 プライバシーマスク

プライバシーマスク領域を設定し、表示や記録を禁止することができます。

手順

1. **設定→ カメラ→ プライバシーマスク** に Go します。
2. **カメラ**を選択します。
3. **有効化を**オンにします。

図 6-14 プライバシーマスク

4. ウィンドウ上で領域をドラッグして描画します。領域の枠線は異なるカラーで表示されます。

注
最大4つのプライバシーマスク領域を設定できます。各領域のサイズは調整可能です。

5. **適用**をクリックします。

6.4 イベント設定

6.4.1 マルチ機能インテリジェンス

マルチ機能インテリジェンスモードが有効な場合、デバイスは複数のスマート機能を同時に実行できます。

開始前に

お使いのデバイスがこの機能をサポートしていることを確認してください。

手順

1. **設定に**Goして→ **イベント →マルチ機能インテリジェンス」を選択します。**

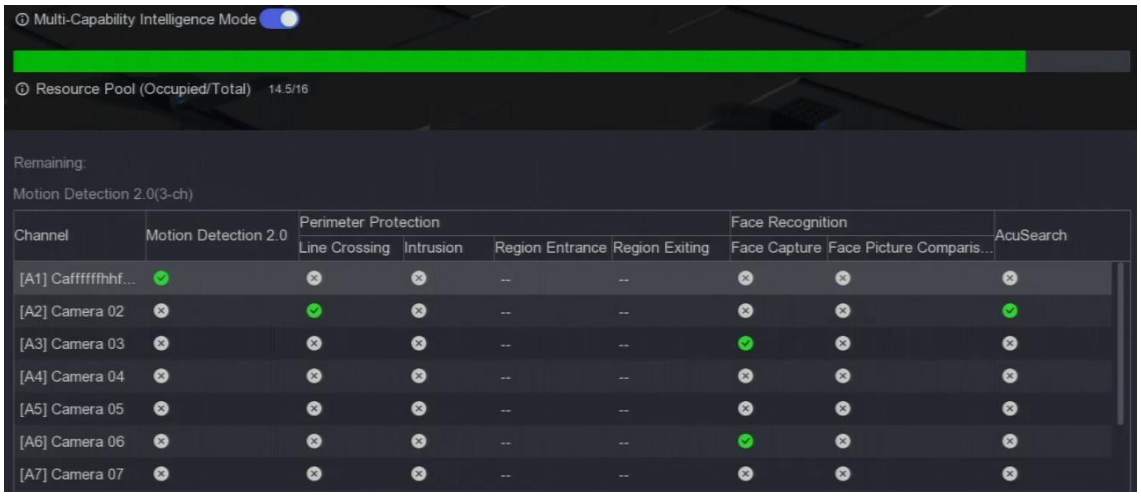


図 6-15 マルチ機能インテリジェンスの設定

2. **マルチ機能インテリジェンスモードを**有効にします。
3. オプション：リソースプールの総リソースと残リソースを表示します。プログレスバーの下にある**「リソースプール（使用中/合計）」**をクリックすると、各スマートイベントのリソース消費量を確認できます。

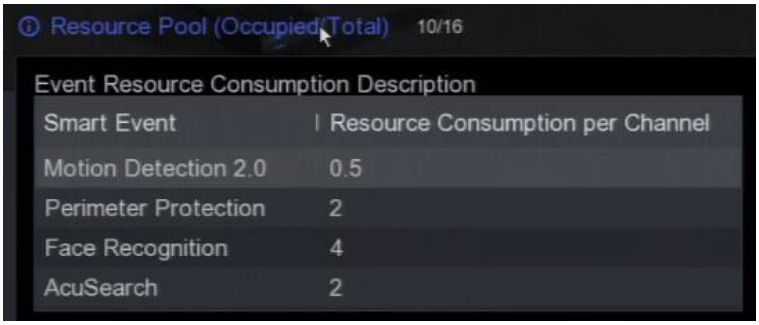


図 6-16 各スマートイベントのリソース消費量

4. テーブル上でカーソルを移動し、チャンネルとイベントタイプに応じて希望の位置を選択してください。
5. 選択したチャンネルとイベントのイベントタイプの**設定**をクリックします。

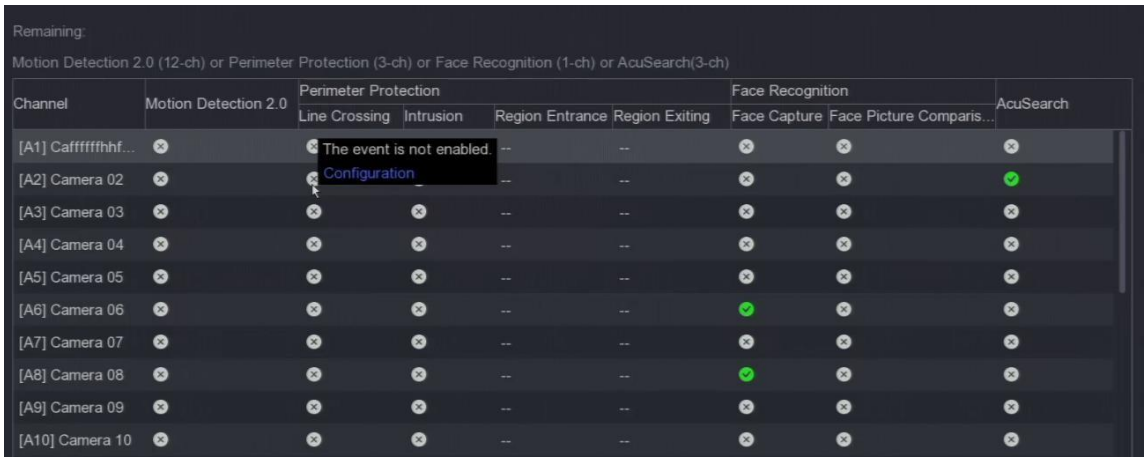


図 6-17 イベントとチャンネルの選択

6. 対応するイベントを設定します。設定の詳細については、本章の他のセクションを参照してください。

注記

リソースが不足している場合、リソースを解放するために、システムは他のイベントの一部を無効にするよう通知します。

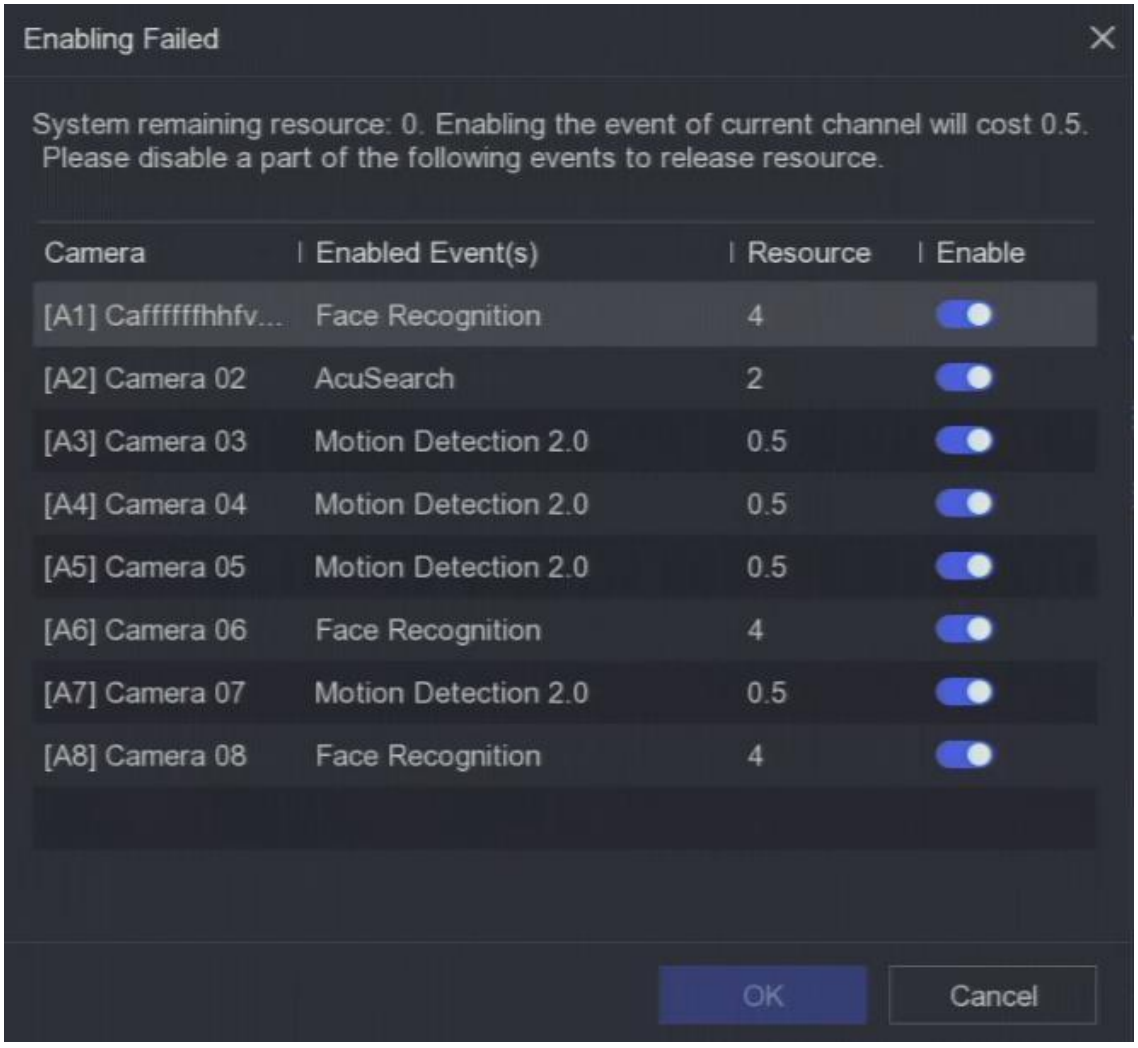


図 6-18 システムリソースの解放

6.4.2 通常イベント

動体検知

動体検知により、ビデオレコーダーは監視エリア内の移動物を検知し

アラームを発動させます。

手順

1. **設定→ カメラ→ 動体検知** に GO します。
2. カメラを選択します。
3. **「有効」**にチェック**を入れます**。
4. 動作検知エリアを設定：**エリア描画**または**クリア**をクリックしてエリアを描画またはクリアします。

注記

操作は機種によって異なる場合があります。

5. **感度**を調整します。感度を調整することで、動きがどれほど容易にアラームをトリガーするかを調整できます。値が高いほど、動きがより容易にトリガーされます。
6. 分析モードを**AI**または**PIR**に設定し

   ます。**AI**

   モーションイベントはデバイスによって分析されます。

   PIR

   動作イベントは特定のアナログPIRカメラによって分析されます。
7. オプション：**検知対象を「人」**または**「車両」**に設定し、人または車両以外によって引き起こされたアラームを排除します。
8. 武装スケジュールを設定します。詳細は*「武装スケジュールの設定」*を参照してください。
9. リンク方法のアクションを設定します。詳細は「*アラームリンク方法のアクションの設定」*を参照してください。
10. **適用**をクリックします。

ビデオ改ざん

レンズが覆われた際にアラームを発し、アラーム対応措置を講じる。

手順

1. Go **設定→ イベント→ 通常イベント→ ビデオ改ざん**

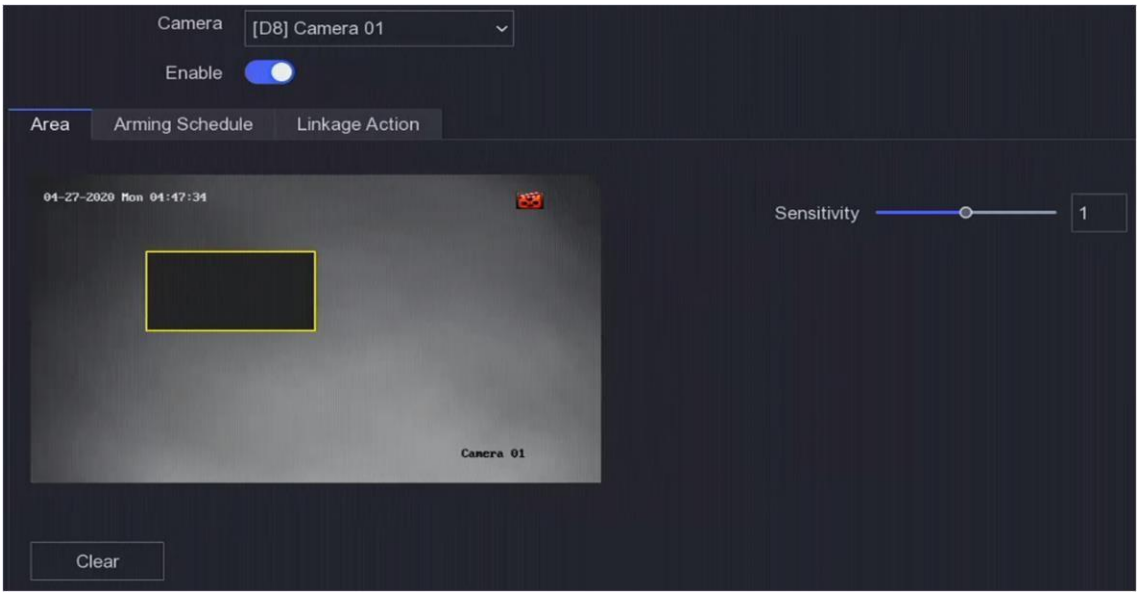


図 6-19 ビデオ改ざん

2. **カメラ**を設定します。
3. **有効化を**オンにする。
4. **感度を**好みに合わせて調整します。値が高いほど、ビデオ改ざんがトリガーされやすくなります。
5. 武装スケジュールを設定します。詳細は*「武装スケジュールの設定」*を参照してください。
6. リンク方法のアクションを設定します。詳細は「*アラームリンク方法のアクションの設定」*を参照してください。
7. **適用**をクリックします。

ビデオ喪失

カメラのビデオ消失を検知し、アラーム対応措置を講じる。

手順

1. **設定→ イベント→ 通常イベント→ ビデオ喪失** に GO します。
2. **カメラ**を設定します。
3. **有効化を**オンにする。
4. 武装スケジュールを設定します。詳細は*「武装スケジュールの設定」*を参照してください。
5. リンク方法のアクションを設定します。詳細は「*アラームリンク方法のアクションの設定」*を参照してください。
6. **適用**をクリックします。

外部センサーアラームの連動動作を設定します。詳細は「外部センサーアラームの連動動作」

外部センサーアラームのリンク方法の動作を設定します。

手順

1. **設定→ イベント→ 通常イベント→ アラーム入力** に Go します。

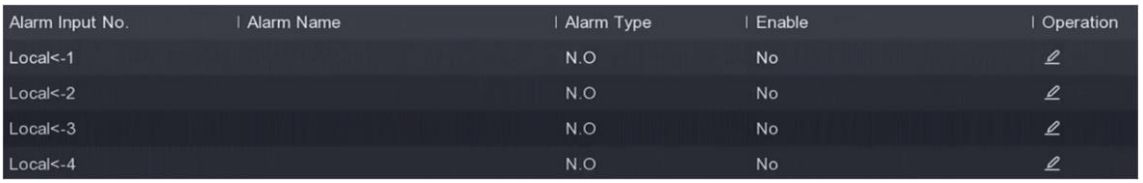


図6-20 アラーム入力

注記

ローカルアラーム入力：ローカルアラーム入力は、ビデオレコーダーの端子台に接続された外部デバイスによってトリガーされます。

2. 目的のアラーム入力の「 」 をクリックします。

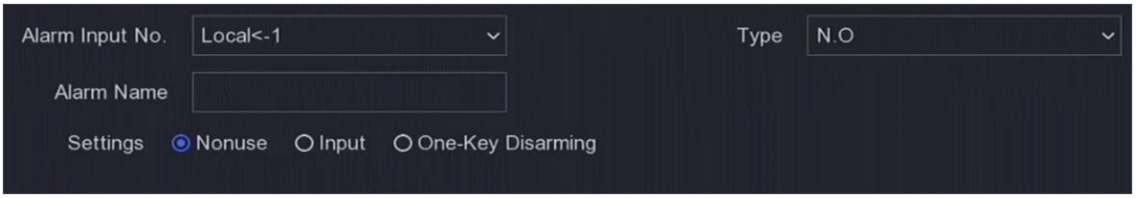


図 6-21 アラーム入力の編集

3. **アラーム名を**カスタマイズします。
4. アラームタイプを **N.O**（常時開）または **N.C**（常時閉）に設定します。
5. 機能を有効にするには、**設定を「入力」**に設定します。

注

設定を「非使用」に設定すると、アラーム入力は無効になります。**設定を「ワンキー解除」**に設定すると、アラーム入力の選択されたリンク方法が無効になります。

6. 武装スケジュールを設定します。詳細は*「武装スケジュールの設定」*を参照してください。
7. リンク方法の動作を設定します。詳細は*「アラームリンク方法の動作の設定」*を参照してください。
8. **適用**をクリックします。

アラーム出力

アラームがトリガーされたときにアラーム出力をトリガーします。

手順

1. **設定→ イベント→ 通常イベント→ アラーム出力** に Go します。

図 6-22 アラーム出力

2. 目的のアラーム出力の「 」 をクリックします。
3. **アラーム名を**カスタマイズします。
4. **ドウェル時間**を選択します。

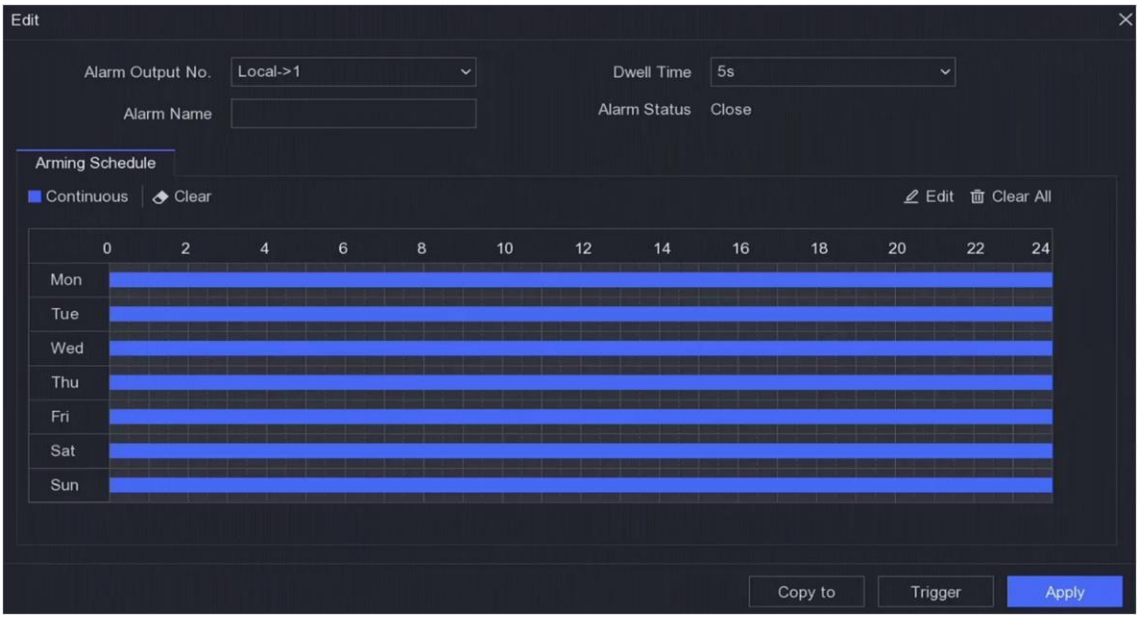


図 6-23 アラーム出力の編集

5. **設定を入力として**設定し、機能を有効にします。
6. 武装スケジュールを設定します。詳細は*「武装スケジュールの設定」*を参照してください。
7. **適用**をクリックします。

例外

例外イベントを設定すると、ライブビューウィンドウでイベントヒントを取得し、アラーム出力やリンク方法をトリガーすることができます。

手順

1. **設定→ イベント→ 通常イベント→ 例外** に GO します。
2. イベントヒントを設定します。設定したイベントが発生すると、アラームセンターでヒントを受け取ります。
   1) **イベントヒントを**有効にする。
   2) ヒント対象のイベントを選択します。以下の選択肢から選択してください：
      - クリッ **イベントヒントをクリックして**イベントを選択してください。
      - クリッ ローカルメニューの右上隅にあるをクリックしてアラームセンターに入り、イベントを選択します。
3. **例外タイプ**を選択し、そのリンク方法のアクションを設定します。

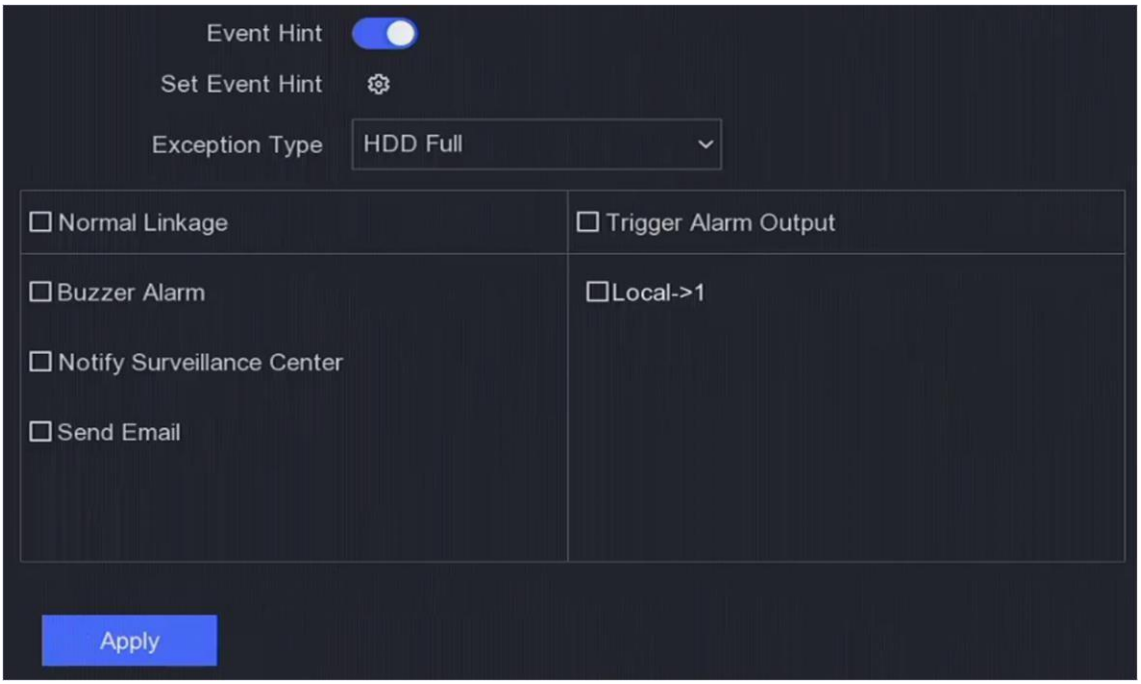


図 6-24 例外

4. リンク方法のアクションを設定します。詳細は「*アラームリンク方法のアクションの設定*」を参照してください。
5. **適用**をクリックします。

点滅ライトアラーム出力

光とオーディオアラームカメラが接続されている場合、点滅時間、点滅頻度、および点滅ライトアラームの作動スケジュールを設定できます。

開始前に

光とオーディオのアラームカメラが接続されていること。

手順

1. **設定へGo→ イベント→ 通常イベント→ 点滅ライト アラーム出力**。
2. 任意の行で「 」 をクリックします。
3. 点滅時間と**点滅頻度**を設定します。
4. 武装スケジュールを設定します。詳細は*「武装スケジュールの設定」*を参照してください。
5. **[保存] をクリックします**。

オーディオアラーム出力

光とオーディオアラームカメラが接続されている場合、オーディオアラームのパラメータと武装スケジュールを設定できます。

開始前に

光とオーディオアラームカメラが接続されている。

手順

1. **設定へGo→ イベント→ 通常イベント→ 点滅ライト アラーム出力**。
2. 任意の行の「 」 をクリックします。
3. **オーディオタイプ**を**アラーム音**、**プロンプト音**、または**カスタムオーディオ**から選択します。

注記

アラーム音を選択した場合、**アラーム**音の種類も選択する必要があります。カスタム**オーディオ**を選択した場合、カスタムオーディオのアップロード、オーディオ名の入力、**カスタムオーディオの**ドロップダウンボックスでアップロードしたオーディオの選択も必要です。

4. **アラーム時刻**と**音量**を設定します。
5. 武装スケジュールを設定します。詳細は*「武装スケジュールの設定」*を参照してください。
6. **[保存]をクリックします**。

6.4.3 境界保護

境界保護には、ラインクロス検知、侵入検知、領域入口検知、領域出口検知が含まれます。

注記

境界保護は、特定のデバイスモデルまたはカメラモデルでのみ利用可能です。

ラインクロス検知

ラインクロス検知は、設定された仮想ラインを越える人物、車両、物体を検知します。検知方向は双方向、左から右、または右から左に設定できます。

手順

1. **設定→ イベント→ 境界保護→ ラインクロス** に移動します。
2. **カメラ**を設定します。
3. **有効化を**オンにします。
4. 検知ルールと検知エリアを設定する。
   1) **武装エリア**を設定します。
   2) **方向**を**A<->B**、**A->B**、または**A<-B**

      に設定します。**A<->B**

      B側の矢印のみが表示されます。設定された線を両方向から横切る物体は
      を検知しアラームを発します。

      A-→B

      A側からB側へ設定ラインを越えるラインクロスの物体のみ検出可能。

      B->A

      設定されたラインをB側からA側へラインクロスする物体のみが検出可能です。

3) **最大サイズ**をクリックし、プレビューウィンドウで四角形を描画してターゲットの最大描画領域サイズを設定します。
4) **最低サイズ**をクリックし、プレビューウィンドウで四角形を描画して、ターゲットの最低描画領域サイズを設定します。
5) **[描画領域]** をクリックし、検出領域の四つの頂点を指定してプレビューウィンドウに四角形を描画します。

5. **感度**を調整します。感度設定により、動きがアラームをトリガーする閾値を調整できます。値を高くすると、動き検出がより敏感に反応します。
6. オプション：**検知対象を「人」**または**「車両」**に設定し、人または車両以外によって引き起こされたアラームを除外します。

注意

この機能は特定のモデルでのみ利用可能です。

7. 武装スケジュールを設定します。詳細は*「武装スケジュールの設定」*を参照してください。
8. リンク方法の動作を設定します。詳細は*「アラームリンク方法の動作の設定」*を参照してください。
9. **適用**をクリックします。

侵入検知

侵入検知機能は、事前に定義された仮想領域に侵入し、うろつく人物、車両、または物体を検知します。

手順

1. **設定→ イベント→ 境界保護→ 侵入検知を選択します**。
2. 設定する**カメラ**を選択します。
3. **有効化を**オンにします。
4. 検知ルールと検知エリアを設定します。
   1) **警戒エリア**を選択します。
   2) **時間しきい**値と**感度**を調整します。**感度**

      アラームをトリガーできる対象物のサイズ。値が高いほど、より簡単に検知アラームが作動します。その範囲は[1-100]です。

      時間閾値

      範囲 [1秒-10秒]。対象物が領域内に滞留する時間の閾値。定義された検知エリア内での対象物の滞留時間が設定時間を超えると、アラームが作動します。
   3) オプション：**検知対象を「人」**または**「車両」**に設定し、人体や車両以外のアラームを排除します。

注記

この機能は特定のモデルでのみ利用可能です。

4) **最大サイズ**をクリックし、プレビューウィンドウ内で四角形を描画して、対象物の最大描画領域サイズを設定します。
5) **最低サイズ**をクリックし、プレビューウィンドウで四角形を描画してターゲットの最低描画領域サイズを設定します。
6) **「描画領域」**をクリックし、検出領域の4つの頂点を指定してプレビューウィンドウ内に四角形を描画します。

5. 武装スケジュールを設定します。詳細は*「武装スケジュールの設定」*を参照してください。
6. リンク方法のアクションを設定します。詳細は「*アラームリンク方法のアクションの設定」*を参照してください。
7. **適用**をクリックします。

入口検知

入口検知機能は、外部から事前に定義された仮想領域に侵入する人物、車両、その他の物体を検知し、アラームが作動した際に特定のアクションを実行できます。

手順

1. 設定→ **イベント→ スマートイベント→ 入口検知**
2. **カメラ**を設定。
3. **VCAモード**を選択。

NVRによる

イベントはNVRによって分析されます。本装置は、人物や車両を含むビデオを分析できます。
車両を含む動画を分析します。選択したタイプ（人間または車両）のターゲットのみがアラームをトリガーするため、他の物体による誤作動を減らせます。

カメラによる

イベントはカメラによって分析されます。

4. オプション：自己学習機能を有効にするには**「例による学習モード」**をチェックしてください。誤アラームを減らすため、デバイスはこのイベントを再度分析します。詳細は
5. **有効化を**オンにします。
6. オプション: VCA検出でキャプチャした画像を保存するには**「VCA画像を保存」**にチェックを入れてください。
7. 検知ルールと検知エリアを設定します。
   1) **警戒エリア**を設定します。最大4つの警戒エリアを選択可能です。
   2) **感度**を調整します。**感度**：範囲［0-100］。値が高いほど、検知アラームがより容易に作動します。
   3) オプション：**検出対象を「人」**または**「車両」**に設定し、人体や車両以外によるアラームを排除します。
   4) **最大サイズ**をクリックし、プレビューウィンドウ内で四角形を描画して最大描画領域サイズを設定します。
   5) **最低サイズ**をクリックし、プレビューウィンドウで四角形を描画して最低描画領域サイズを設定します。
   6) **「描画領域」**をクリックし、検出領域の4つの頂点を指定してプレビューウィンドウに四角形を描画します。
8. 武装スケジュールを設定します。詳細は*「武装スケジュールの設定」*を参照してください。

9. リンク方法のアクションを設定します。詳細は「*アラームリンク方法のアクションの設定*」を参照してください。
10. **適用**をクリックします。

出口検知

出口検知機能は、あらかじめ定義された仮想領域から退出する人物、車両、その他の物体を検知し、アラームが作動した際に特定のアクションを実行することができます。

手順

1. Go **設定→ イベント→ スマートイベント→ 出口検知**
2. **カメラ**を設定。
3. **VCAモード**を選択。

NVRによる

イベントはNVRによって分析されます。本装置は、人物や車両を含むビデオを分析できます。
車両を含む動画を分析できます。選択したタイプ（人間または車両）のターゲットのみがアラームをトリガーするため、他の物体による誤作動を減らせます。

カメラによる

イベントはカメラによって分析されます。

4. オプション：自己学習機能を有効にするには**「例による学習モード」**をチェックしてください。誤アラームを減らすため、デバイスはこのイベントを再度分析します。詳細は
5. **有効化を**オンにします。
6. オプション：VCA検出でキャプチャした画像を保存するには**「VCA画像保存」**にチェックを入れてください。
7. 検知ルールと検知エリアを設定します。
   1) **警戒エリア**を設定します。最大4つの警戒エリアを選択可能です。
   2) **感度**を調整します。**感度**：範囲［0-100］。値が高いほど、検知アラームがより容易に作動します。
   3) オプション：**検出対象を「人」**または**「車両」**に設定し、人体や車両以外によるアラームを排除します。
   4) **最大サイズ**をクリックし、プレビューウィンドウ内で四角形を描画して最大描画領域サイズを設定します。
   5) **最低サイズ**をクリックし、プレビューウィンドウで四角形を描画して最低描画領域サイズを設定します。
   6) **「描画領域」**をクリックし、検出領域の4つの頂点を指定してプレビューウィンドウ内に四角形を描画します。
8. 武装スケジュールを設定します。詳細は*「武装スケジュールの設定」*を参照してください。
9. リンク方法のアクションを設定します。詳細は「*アラームリンク方法のアクションの設定*」を参照してください。
10. **適用**をクリックします。

6.4.4 顔認識

顔認識は、キャプチャされた顔（画像またはビデオストリーム）を顔画像ライブラリ内の顔と比較し、認識された場合にその身元情報を返す機能です。人間の顔の特徴に基づき、顔認識はまず入力に人間の顔が存在するかどうかを確認します

画像またはビデオストリーム。人間の顔がある場合、この機能は顔データ（位置、サイズ、顔の特徴など）を現在の顔画像ライブラリ内のデータと比較し、人物を識別します。

開始前に

Hik Central Professional または Hik Connect で関連パラメータを設定し、**動体**検知と**境界保護を**無効にしておく必要があります。

注記

この機能は特定のモデルでのみご利用いただけます。

顔キャプチャ

顔キャプチャは、シーンに現れる人間の顔を検出します。人間の顔が検出されると、リンク方法アクションがトリガーされます。

手順

1. **設定→ イベント→ 顔認識→ 顔キャプチャ** に GO します。

図6-25 顔キャプチャ

2. **カメラ**を選択してください。
3. **有効化を**オンにする。
4. **感度**を調整します。

感度

値が高いほど、ピントが合っていない画像でより簡単にアラームが作動します。

5. 警備スケジュールを設定します。詳細は「***警備スケジュールの設定***」を参照してください。
6. リンク方法のアクションを設定します。詳細は「***アラームリンク方法のアクションの設定***」を参照してください。
7. **適用**をクリックします。

顔画像比較

顔画像比較は、検出された顔画像を顔画像ライブラリ内の顔画像と比較します。比較が成功した場合、デバイスはアラームを発します。

開始前に

少なくとも1つの顔写真ライブラリを作成し、顔写真をライブラリに追加していることを確認してください。操作の詳細については、***顔写真ライブラリ管理***を参照してください。

手順

1. **設定→ 顔認識→ 顔写真比較** に GO します。

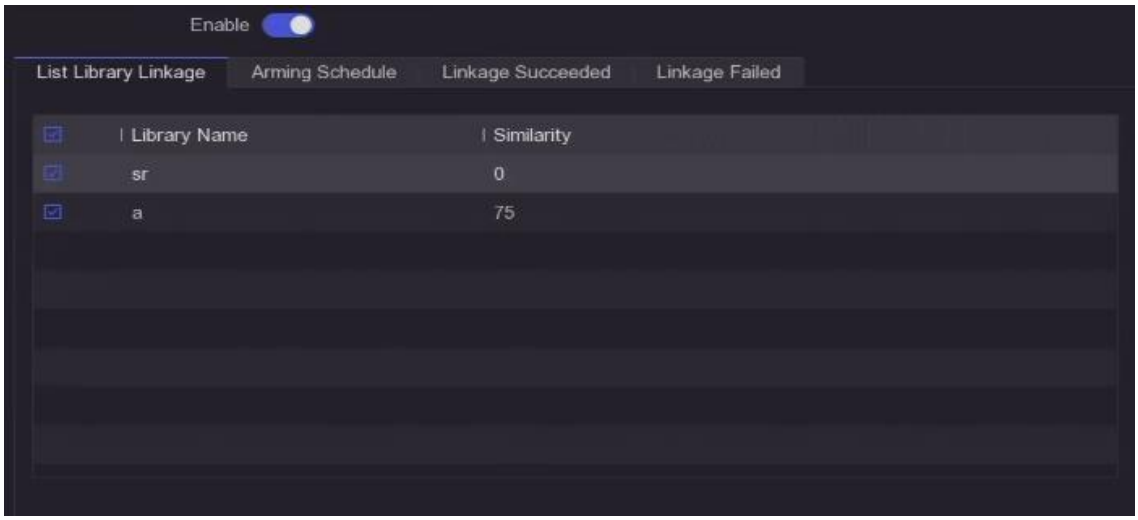


図 6-26 顔画像比較

2. カメラを選択します。
3. **有効化を**オンにします。
4. **ライブラリリンク方法一覧で**顔写真ライブラリ（複数可）を選択します。
5. 顔写真ライブラリの類似度を設定します。

   類似度

   類似度値は0から100の範囲です。デバイスは、検出された顔画像とライブラリ内の顔画像間の類似度を分析します。類似度が閾値に達した場合、顔画像の比較が成功し、顔画像が認識されます。
6. 武装スケジュールを設定します。詳細は*「武装スケジュールの設定」*を参照してください。
7. **リンク方法成功**時および**リンク方法失敗時の**リンク方法アクションを設定します。詳細は「*アラームリンク方法アクションの設定」*を参照してください。

   リンク方法成功時

   顔画像比較が成功した場合、デバイスはリンク方法アクションを実行します。

   リンク方法失敗時

   顔写真比較が失敗した場合、デバイスはリンク方法のアクションを実行します。
8. **適用**をクリックしてください。

6.4.5 武装スケジュールの設定

手順

1. **「武装スケジュール」**をクリックします。
2. 曜日を1つ選択し、時間帯を設定します。1日あたり最大8つの時間帯を設定できます。

> **注意**
> 時間帯は重複または重ならないように設定してください。

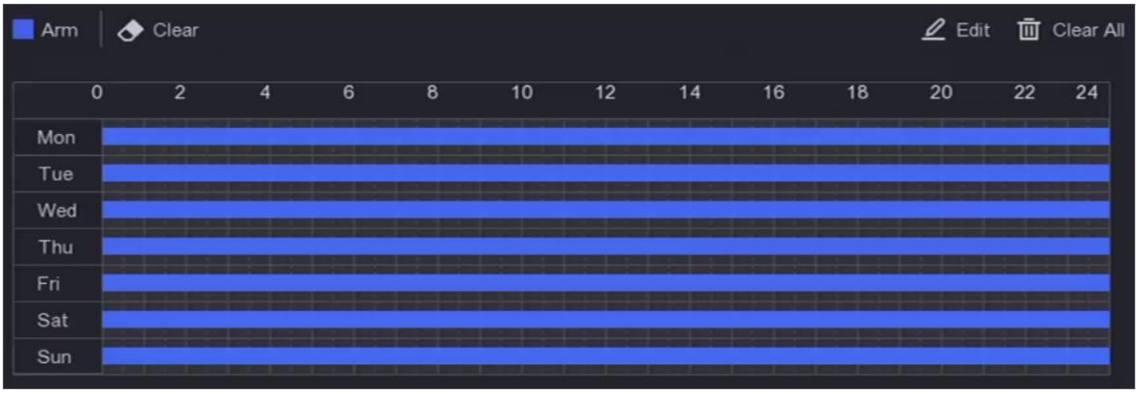


図 6-27 警備スケジュール設定

3. **適用**をクリックします。

6.4.6 アラームリンク方法アクションの設定

アラームポップアップウィンドウの設定

アラームがトリガーされると、ローカルモニターはフルスクリーン監視用に設定されたアラーム発生チャンネルのビデオ画像を全画面表示します。複数のチャンネルで同時にアラームが発生した場合、自動切り替えの待機時間を設定する必要があります。

手順

1. **設定→ システム→ ライブビュー→ 全般** に Go します。
2. イベント出力と待機時間を設定します。

アラームポップアップ出力

イベントビデオを表示する出力を選択します。

アラームポップアップ遅延

アラームイベント画像を表示する時間を秒単位で設定します。複数のチャンネルで同時にアラームが発生した場合

複数のチャンネルで同時にアラームが発生した場合、それらの全画面画像は10秒間隔（デフォルトのドウェル時間）で切り替わります。

3. アラーム検出の**リンク方法を**クリックしてください。
4. **アラームポップアップウィンドウ**のアラームリンク方法アクションを選択します。
5. トリガーチャンネル設定で、フルスクリーン監視を行いたいチャンネルを選択します。

注記

アラームが停止すると自動切り替えは終了し、ライブビューインターフェースに戻ります。

ブザーアラームの設定

オーディオ警告により、ビデオレコーダーはアラームが検出されたときに可聴ビープ音を鳴らすことができます。

手順

1. **設定→ システム→ ライブビュー→ 全般 に** Go します。
2. **オーディオを**オンにし、**音量**を設定します。
3. 警報検知の**リンク方法アクション**インターフェースに移動します。
4. **ブザーアラーム**リンク方法アクションを選択します。

監視センターへの通知

ビデオレコーダーは、イベント発生時に例外またはアラーム信号をリモートアラームホストに送信できます。アラームホストとは、クライアントソフトウェア（例：iVMS-4200、iVMS-5200）がインストールされたコンピュータを指します。

手順

1. **設定→ ネットワーク→ 全般→ 詳細設定** に Go します。
2. **アラームホストIP**と**アラームホストポート**を設定します。
3. アラーム検知のリンク方法アクションインターフェースにGoします。
4. **監視センターに通知**を選択します。

メールリンク方法を設定

ビデオレコーダーは、アラームが検出された際に、ユーザーまたは複数のユーザーにアラーム情報を含む電子メールを送信できます。

手順

1. **設定→ ネットワーク→ メール** に移動します。
2. 設定を構成します。
3. アラーム検出のリンク方法アクションインターフェースにGoします。
4. アラームリンク方法アクションとして**「メール送信」**を選択します。

アラーム出力のトリガー

アラーム出力は、通常イベントとスマートイベントによってトリガーされます。

手順

1. アラーム入力またはイベント検出の**リンク方法**アクションインターフェースにGoします。
2. **アラーム出力リンク方法を**クリックします。
3. トリガーするアラーム出力を選択してください。
4. **設定→ イベント→ 通常イベント→ アラーム出力** に Go します。
5. リストからアラーム出力項目を選択してください。詳細は*アラーム*をご参照ください。

PTZリンク方法の設定

ビデオレコーダーは、アラームイベントまたはVCA検出イベントが発生した際に、PTZ操作（プリセット呼び出し/パトロール/パターンなど）をトリガーできます。

手順

1. アラーム入力またはVCA検出の**リンク方法**アクションインターフェースにGoします。
2. **PTZリンク方法を**を選択します。
3. PTZ操作を実行するカメラを選択します。
4. アラームイベント発生時に呼び出すプリセット/パトロール/パターンNo.を選択してください。

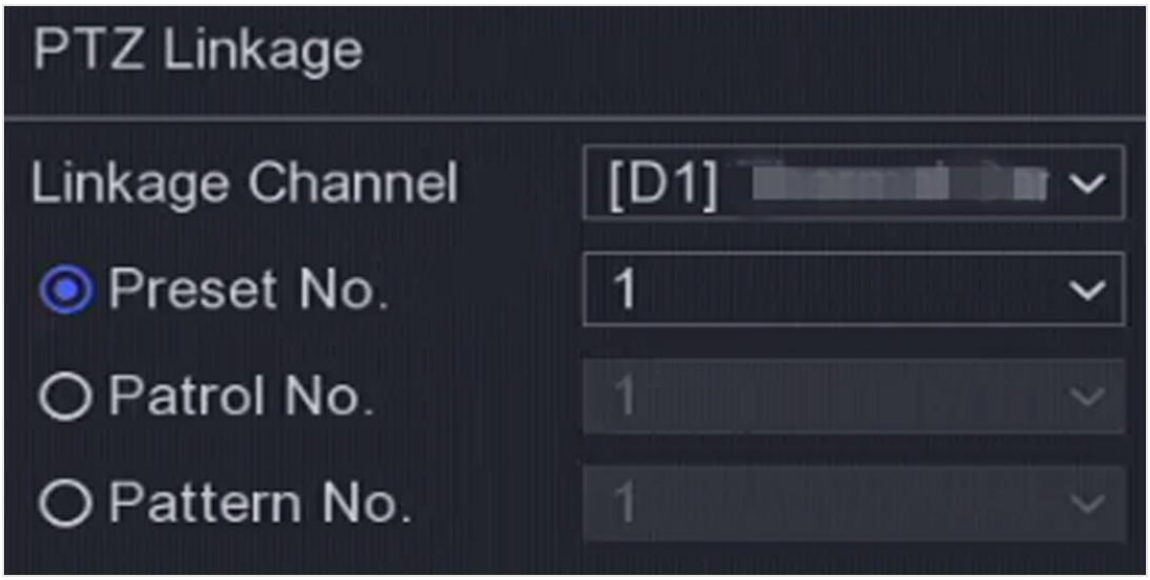


図6-28 PTZリンク方法

注記

リンク方法のアクションには、一度に 1 つの PTZ タイプのみを設定できます。

6.5 インテリジェント検索

6.5.1 AcuSearch

選択したチャンネルで AcuSearch 機能を有効にします。

手順

1. **設定→ インテリジェント検索→ Acu Search** に GO します。
2. **有効にするを**オンにします。
3. AcuSearch機能を有効にするチャンネルを選択します。
4. **適用**をクリックします。

注記

再生インターフェースでAcuSearchを実行できます。詳細は***通常再生***および***スライス再生をご参照ください***。

6.6 録画管理

6.6.1 録画スケジュールの設定

ビデオレコーダーは設定されたスケジュールに従って自動的に録画を開始/停止します。

連続録画の設定

手順

1. **設定→ 記録→ パラメータ**に移動します。
2. カメラの連続メインストリーム/サブストリーム録画パラメータを設定します。
3. **設定→ 記録→ スケジュール** に移動します。
4. 録画タイプを「**連続**」に選択します。

イベント録画を設定する

ラインクロス検出や侵入検知などによってトリガーされる録画を設定できます。

手順

1. **設定 →→ →イベント** に移動します。
2. イベント検出を設定し、イベント発生時に録画をトリガーするカメラを選択します。
3. **設定→ Record→ Parameter** に Go します。
4. カメラの連続メインストリーム/サブストリーム録画パラメータを設定します。

5. **設定→ 記録→ スケジュール** に移動します。
6. 録画タイプを「**イベント**」に選択します。

スケジュールを編集

手順

1. **設定→ 記録→ スケジュール** に移動します。

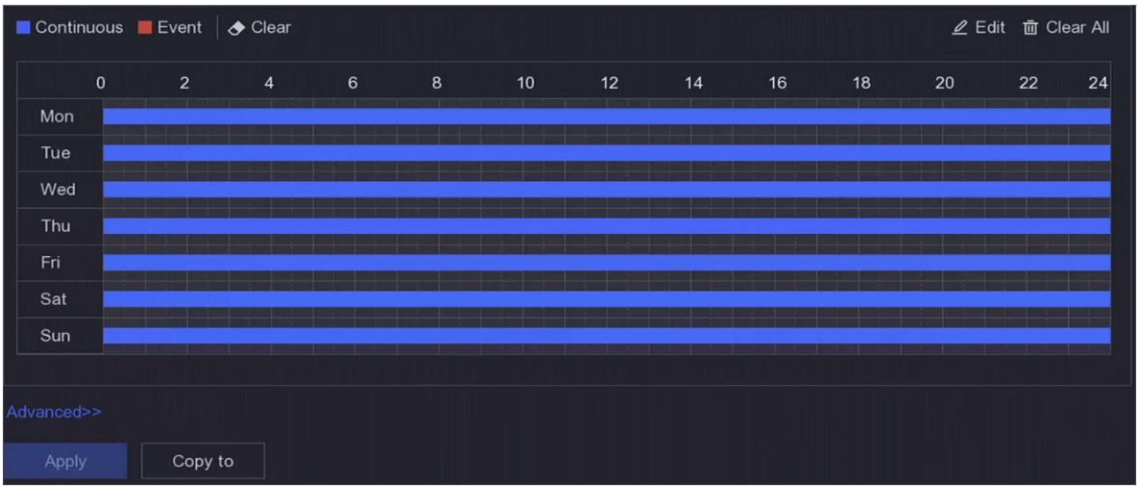


図 6-29 録画スケジュール

連続

連続録画。

イベント

すべてのイベントアラームによってトリガーされる録画。

2. **カメラNo.**でカメラを選択
3. **有効化を**オンにする。
4. 録画スケジュールを設定します。
   1) **編集**をクリック。
   2) 「**平日**」で設定する曜日を選択します。
   3) 終日録画スケジュールを設定するには、**終日をオン**にし、**スケジュールタイプを選択します**。
   4) その他のスケジュールを設定するには、「**終日**」のチェックを外し、「**開始/終了時間**」と「**スケジュールタイプ**」を設定します。

> **注記**
>
> 1日あたり最大8つの時間帯を設定できます。また、時間帯同士が重複することはできません。

   5) 設定を保存して上位レベルのメニューに戻るには「**OK**」をクリックしてください。

注意

スケジュールタイプを「**連続**」または「**イベント**」から選択し、目的の時間帯にカーソルをドラッグして色付きのバーを描画することもできます。

5. **詳細設定**をクリックして詳細パラメータを設定します。

オーディオの録音

オーディオはビデオファイルに録音されます。

事前録音

予定時間またはイベントの前に録画を開始する設定時間。例えば、アラームが10:00に録画をトリガーする場合、事前録画時間を5秒に設定すると、カメラは9:59:55に録画を開始します。

事後録画

イベントまたは予定時刻の後に録画する時間を設定します。例えば、アラームがトリガーした録画が11:00に終了する場合、事後録画時間を5秒に設定すると、11:00:05まで録画されます。

ストリームタイプ

録画にはメインストリームとサブストリームが選択可能です。サブストリームを選択すると、同じストレージ容量でより長い時間の録画が可能です。

ビデオ/画像の有効期限

録画ファイルをHDDに保存する期間です。期限が到来するとファイルは削除されます。有効期限を0に設定するとファイルは削除されません。実際の保存期間はHDDの容量によって決定されます。

6. 詳細設定を保存するには「**OK**」をクリックしてください。
7. **適用**をクリックします。

6.6.2 録画パラメータの設定

手順

1. **設定→ 記録→ パラメータ**に移動し、カメラのメインストリームおよびサブストリームのパラメータを設定します。
2. 録画パラメータを設定します。

メインストリーム

メインストリームとは、ハードディスクドライブに記録されるデータに影響を与える主要ストリームであり、ビデオ品質と画像サイズを直接決定します。サブストリームと比較して、メインストリームはより高い解像度とフレームレートで高品質なビデオを提供します。

メインストリーム（連続）は通常録画のメインストリームを指します。**メインストリーム（イベント）**
イベント録画時のメインストリームを指します。

サブストリーム

サブストリームは、メインストリームと並行して動作する第二のコーデックです。これにより、直接の録画品質を損なうことなく、送信インターネット帯域幅を削減できます。サブストリームは、ライブビデオの視聴においてスマートフォンアプリケーションで専ら使用されることが多く、インターネット速度に制限のあるユーザーがこの設定から最も恩恵を受けられます。

ストリームタイプ

録画にビデオとオーディオを含めるか、ビデオのみを含めるかを選択できます。

解像度

画像解像度は、デジタル画像が保持できる詳細度の尺度です。解像度が高いほど、詳細レベルも高くなります。解像度は、ピクセル列数（幅）×ピクセル行数（高さ）で指定できます。例：1024 × 768。

ビットレートタイプ

可変ビットレート：状況に応じてビットレートを調整するため、ネットワーク帯域幅の利用効率が向上し、ストレージ容量を節約できます。**ビデオ品質は**6レベルで設定可能です。**ビデオエンコード**形式に**H.265**を選択した場合、システムはH.265 Proエンコーディングを採用します。固定ビットレート：最大ビットレートでエンコードします。**ビデオ品質**は調整不可です。

フレームレート

フレームレートとは、1秒間にキャプチャされるフレーム数を指します。ビデオストリームに動きがある場合、フレームレートが高いほど画像の質が維持されるため有利です。

最大ビットレートモード

全般: 固定値パラメータから選択可能。**カスタム**: 最大ビットレートの値をカスタマイズ。

ビデオエンコーディング

ビデオエンコーディング形式を選択します。オプションは接続されたカメラによって決定されます。

H.265+を有効にする

H.265+モードは、低ビットレートで高ビデオ品質を保証します。帯域幅とHDDストレージ容量の必要性を効果的に削減できます。

3. **適用**をクリック。

6.6.3 ストレージデバイス

HDDを初期化

HDDを初めて使用する場合は、取り付け後に初期化してください。

始める前に

ビデオレコーダーに少なくとも1台のHDDを取り付けてください。

手順

1. **設定→ 記録→ ストレージ** に Go します。
2. HDD を選択します。
3. **初期化**をクリックします。

データベースの修復

データベースにエラーがあるHDDを修復します。専門の技術サポートの助けを借りて操作してください。

ネットワークディスクの追加

割り当てられたNASまたはIP SANディスクをビデオレコーダーに追加し、ネットワークHDDとして使用できます。

手順

1. **設定→ レコード→ ストレージ** に移動します。
2. **[追加]** をクリックします。
3. **NetHDD**を設定します。
4. **タイプを NAS** または **IP SAN** に設定します。
5. NetHDD IP アドレスを入力します。
6. 利用可能なディスクを検索するには、[ ] をクリックします。

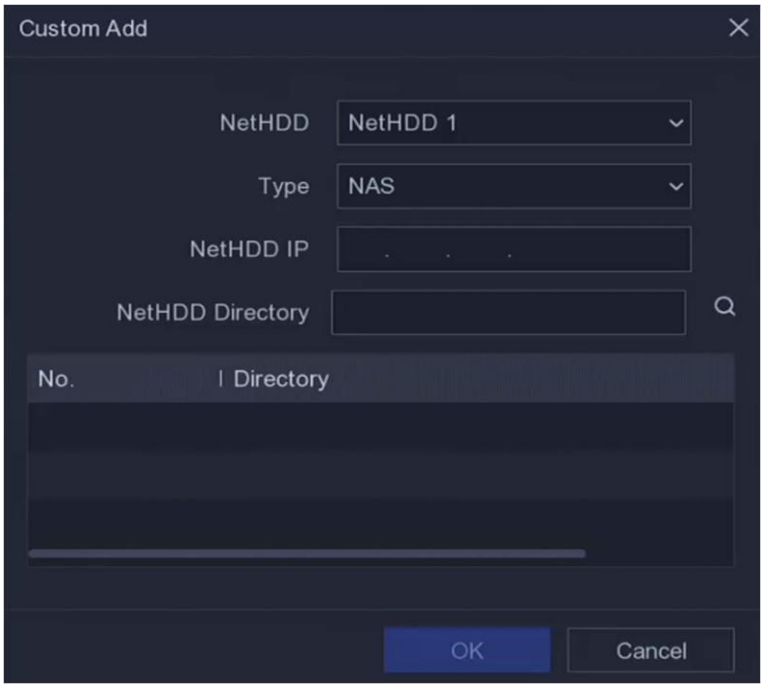


図 6-30 NetHDD の追加

7. リストからNASディスクを選択するか、**NetHDDディレクトリ**に手動でディレクトリを入力します。
8. **[OK]** をクリックします。

注

各ネットワークディスクには最大8TBのストレージ容量が許可されます。

結果

追加されたネットワークディスクは、ストレージデバイスリストに表示されます。

6.6.4 ストレージモードの設定

HDD 割当容量の設定

各カメラには、ビデオ保存用に割り当てられたクォータを設定できます。

手順

注記

この機能は特定のモデルでのみ利用可能です。

1. **設定→ 記録→ ストレージモードにGoします。**
2. **モードを「クォータ」**に設定します。
3. **カメラ**でクォータを設定するカメラを選択します。

4. **記録容量**にストレージ容量を入力してください。

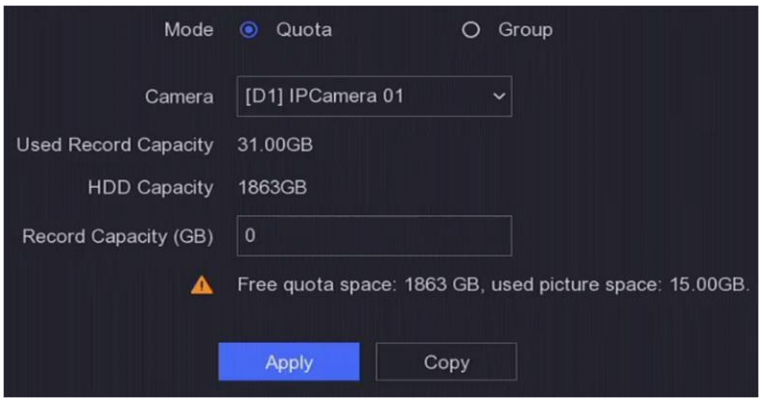


図 6-31 クォータ

注記

クォータ容量が 0 に設定されている場合、すべてのカメラは、ビデオおよび画像用に HDD の総容量を使用します。

5. **適用**をクリックします。
6. ビデオレコーダーを再起動して、新しい設定を有効にします。

HDD グループの設定

複数の HDD をグループで管理できます。HDD 設定により、指定したチャンネルのビデオを特定の HDD グループに録画することができます。

手順

注記

この機能は特定のモデルでのみ利用可能です。

1. **設定にGo→ レコード→ ストレージモード**。
2. **モードをグループ**として選択します。
3. グループ番号を選択します。
4. HDD グループに録画する IP カメラを選択します。

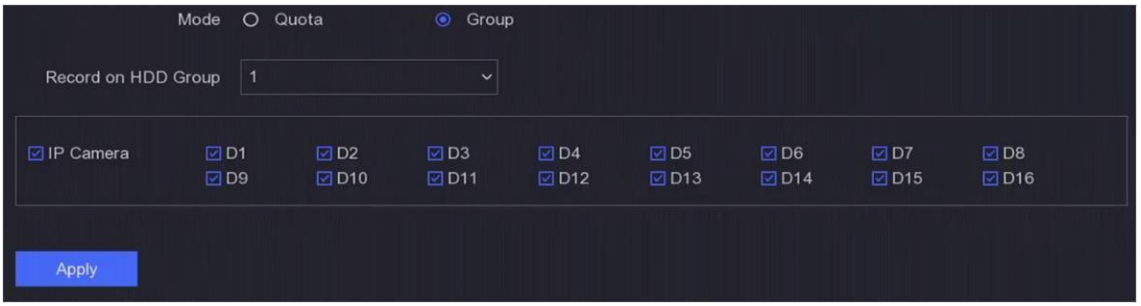


図 6-32 グループ

5. **適用**をクリックします。
6. ビデオレコーダーを再起動して、新しいストレージモード設定を有効にします。
7. 再起動後、**[Configuration] → [→] → [Record] → [→] → [Storage]** にGoします。
8. グループを設定する対象の HDD の [ ] をクリックします。
9. 現在の HDD のグループ番号を選択します。
10. **適用**をクリックします。

注記

HDDグループ番号が変更された場合、HDD用のカメラを再グループ化してください。

6.6.5 詳細設定

手順

1. **設定→ 記録→ 詳細設定** に Go します。
2. 希望のパラメータを設定します。

上書き

- 無効化: HDDが満杯になると、ビデオレコーダーは書き込みを停止します。
- 有効化: ハードドライブが満杯の場合、ビデオレコーダーは最も古いファイルを削除して新しいファイルの書き込みを継続します。

HDDスリープ

長時間動作していない HDD はスリープ状態になります。

カメラVCAデータを保存

カメラVCAデータは検索可能となるよう保存されます。

注意

カメラVCAデータの保存を無効にすると、既存のデュアルVCAおよび動体検知情報が削除され、デュアルVCAおよび動体検知情報の分析と保存が停止されます。

アラーム保存

HDD の空き容量が不足している場合は、この機能を無効にして容量を節約することができますが、デバイスは

アラーム情報の保存は停止します。

画像保存

HDDの空き容量が不足している場合、これを無効にして容量を節約できますが、デバイスは写真の保存を停止します。

6.7 顔写真ライブラリ管理

顔写真ライブラリは、主に顔写真の保存と顔写真の比較に使用されます。

注意

このセクションは特定のモデルでのみ利用可能です。

6.7.1 顔写真ライブラリの追加

顔写真ライブラリは顔写真を保存するために使用され、顔写真比較に不可欠です。

手順

1. **設定→ 顔写真ライブラリ** に Go します。
2. 認証のため管理者パスワードを入力してください。
3. **追加**をクリックしてください。
4. 顔写真ライブラリ名を入力してください。
5. **追加**をクリックします。

注記

また、**[→ Human]** に Go して、検索結果を**顔写真ライブラリに追加**することもできます。

次の操作

顔写真ライブラリを追加したら、その名前を編集したり、削除したり、顔写真をアップロードしたりすることができます。

6.7.2 ライブラリへの顔写真のアップロード

1枚の顔写真をアップロードするか、複数の顔写真をライブラリにインポートできます。

開始前に

顔写真ライブラリを作成し、顔写真比較を有効にしていることを確認してください。

手順

1. **設定→ 顔写真ライブラリ** に Go します。
2. 顔写真をアップロードする顔写真ライブラリを見つけ、「」をクリックします。
3. **[追加]**をクリックします。
4. 画像をインポートします。

ライブラリに1枚の顔写真を追加します。

ライブラリに複数の顔写真を追加します。

注意

- JPGおよびJPEG形式のみ対応しています。
- 各画像サイズは1MB未満であること。
- 画像の解像度は 80× 80 から 1920× 1080 の間でなければなりません。
- USB フラッシュドライブ内の画像のみインポートできます。

第7章 メンテナンス

7.1 デフォルトの復元

手順

1. 右上の をクリックします。
2. 復元タイプを選択します。

   簡易復元

   ネットワーク（IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、MTU、NIC 動作モード、デフォルトルート、サーバーポートなど）およびユーザーアカウントパラメータを除く、すべてのパラメータを工場出荷時のデフォルト設定に復元します。

   工場出荷時設定

   すべてのパラメータを工場出荷時のデフォルト設定に復元します。

   非アクティブ状態に戻す

   デバイスを非アクティブ状態に復元し、ユーザーアカウントの復元を除き、すべての設定を変更せずに残します。
3. **[対応]** をクリックします。デバイスは自動的に再起動します。

7.2 検索ログ

ビデオレコーダーの操作、アラーム、例外、情報はログに保存され、いつでも閲覧およびエクスポートできます。

手順

1. 右上の「 」 をクリックします。
2. **「その他」**をクリックします。
3. **「ログ情報」**をクリックします。
4. 検索条件を設定します。
5. **[検索]** をクリックします。

7.3 システムサービス

手順

1. 右上の「 」 をクリックします。
2. **[その他]** をクリックします。
3. **システムサービス**をクリックします。

4. パラメータを任意に設定してください。

RTSP

RTSP認証を設定することで、ライブビューのストリームデータを特にセキュリティすることができます。

RTSP認証

2 種類の認証タイプから選択できます。**ダイジェスト**を選択した場合、ダイジェスト認証によるリクエストのみが、IP アドレス経由で RTSP プロトコルによるビデオストリームにアクセスできます。セキュリティ上の理由から、認証タイプとして**ダイジェスト**を選択することをお勧めします。

ISAPI

ISAPI（Internet Server Application Programming Interface）はHTTPベースのオープンプロトコルであり、システムデバイス間（例：ネットワークカメラ、NVRなど）の通信を実現します。ビデオレコーダーをサーバーとして使用することで、システムはビデオレコーダーを検出し接続できます。

HTTP

管理者ユーザーアカウントは、GUIまたはウェブブラウザーからHTTPサービスを無効化できます。HTTPが無効化されると、ISAPIやONVIFを含む関連サービスもすべて終了します。

HTTP認証

HTTPサービスを有効にする必要がある場合、アクセスセキュリティを強化するためにHTTP認証を設定できます。2種類の認証タイプから選択可能です。セキュリティ上の理由から、認証タイプとして**ダイジェスト**を選択することを推奨します。

カメラ追加検出

この機能はネットワークカメラの状態を検出します。ネットワークカメラが別のビデオレコーダーによって追加された場合、**オンラインデバイス**一覧においてカメラの状態は「 」と表示されます。

5. **適用**をクリックしてください。

7.4 ブザースイッチ

アラームリンク方法または例外リンク方法でブザーを有効または無効にできます。

手順

1. 右上の「 」をクリックします。
2. **「その他」**をクリックします。
3. **「Buzzer Switch」**にGoします。
4. **「有効化」を**オンまたはオフにします。

7.5 デバイスメンテナンス

7.5.1 再起動のスケジュール設定

デバイスはスケジュールに従って自動的に再起動します。

手順

1. 右上の「 」 をクリックします。
2. **「その他」**をクリックします。
3. **「デバイスメンテナンス」**にGoします。「→ 」を選択します。**「スケジュール再起動」を有効にします**。
4. **「有効にする」**をオンにします。
5. 再起動スケジュールを設定します。
6. **適用**をクリックします。

7.5.2 デバイスステータス

選択したチャンネルをミュートできます。

手順

1. 右上の「 」 をクリックします。
2. **「その他」**をクリックします。
3. **「デバイスメンテナンス」→「→ デバイスステータス」**にGoします。
4. **「ミュートと通知を停止**」欄で、対応するチャンネルにチェックを入れます。

結果

選択したチャンネルはミュートされます。

7.5.3 時刻同期診断

時刻同期情報を表示し、時刻同期例外検出を有効にします。

手順

1. 右上の「 」 をクリックします。
2. **「その他」**をクリックします。
3. **[デバイスメンテナンス] → [→] → [時刻同期診断]** に Go し
   ます。現在の時刻同期情報を表示します。
4. **「時刻同期設定」**をクリックします。
5. **「時刻同期例外検出を有効にする**」をオンにします。

注

複数の時刻同期ソースの検出をサポートします。複数の時刻同期ソースが検出された場合、不要な時刻同期ソースを速やかに無効化してください。さもないとデバイスの時刻が変動し、録画に影響を及ぼす可能性があります。
RTC電池の検出をサポートします。RTC電池が切れた場合

切れ状態の場合、デバイスの時刻異常が発生し、ビデオの欠落や記録時刻の不正確さを引き起こす可能性があります。メインボードのボタン電池を交換し、再度時刻を同期してください。

6. **[OK]**をクリックしてください。

7.6 アップグレード

警告

アップグレード中は、シャットダウンや電源を切らないでください。

7.6.1 ローカルアップグレード

開始する前に

アップグレード用ファームウェアをバックアップデバイスに保存し、お使いのデバイスに接続してください。

手順

1. 右上の をクリックします。
2. をクリック をクリックします。
3. **ローカルアップグレード**をクリックします。
4. **デバイス名で**バックアップデバイスを選択します。
5. アップグレード用ファームウェアを選択します。
6. **アップグレード**をクリックします。デバイスは自動的に再起動します。

7.6.2 オンラインアップグレード

最新のオンラインファームウェアでデバイスをアップグレードします。

開始前に

Hik-Connectが有効化され、適切に設定されていることを確認してください。詳細は***Hik-Connect***を参照してください。

手順

1. 右上の 右上の
2. クリック をクリックします。
3. **オンラインアップグレード**へGoしてください。
4. 最新のファームウェアをダウンロードしてください。

自動ダウンロード	最新のファームウェアを自動的に確認・ダウンロードします。
テストアップグレード	**テストアップグレード**をクリックすると、手動で最新のファームウェアを確認・ダウンロードします。

5. 新しいファームウェアバージョンが利用可能な場合は、デバイスをアップグレードしてください。デバイスは自動的に再起動します。

第8章 アラーム

イベントが発生すると、アラームセンターで詳細を確認できます。

8.1 イベントヒントの設定

アラームセンターで通知するイベントを選択します。

手順

1. 右上の「 」 をクリックします。
2. ご希望のイベントタイプを選択してください。
3. をクリックし、ヒントを表示するイベントを選択します。
4. **OK**をクリックしてください。
   選択したイベントが発生すると、 （ローカルメニューの右上隅）にアラーム情報が表示されます。

8.2 アラームセンターでアラームを表示

手順

1. ローカルメニューの右上隅にある「 」 をクリックします。
2. 表示したいイベントタイプを選択します。

第9章 Web操作

9.1 はじめに

ウェブブラウザーからビデオレコーダーにアクセスできます。

以下のウェブブラウザーのいずれかをご利用いただけます：Internet Explorer 11.0、Apple Safari、Mozilla Firefox、Google Chrome。対応解像度は1024×768以上です。

一部のモデルでは、ウェブコンポーネントプラグインをダウンロードしてインストールする必要があります。そうしないと、一部の機能が利用できなくなります。ダウンロード先は ***http://hikdownload.ys7.com/web/webplugin/windows/WebComponents/standard/WebCompo nents.exe*** です。

9.2 ログイン

インターネット接続環境下での本製品のご利用には、ネットワークセキュリティリスクが伴う可能性があることをご承知おきください。ネットワーク攻撃や情報漏洩を防止するため、ご自身の保護対策を強化してください。本製品が正常に動作しない場合は、販売店または最寄りのサービスセンターまでお問い合わせください。

手順

1. ウェブブラウザーを開き、ビデオレコーダーのIPアドレスを入力して**Enterキー**を押します。

   注

   HTTPポートを変更している場合は、アドレスバーに ***「http://IPアドレス:HTTPポート」*** と入力してください。例：***http://192.168.1.64:81***

2. ログインインターフェースで**ユーザー名**と**パスワード**を入力してください。
3. **ログイン**をクリックしてください。

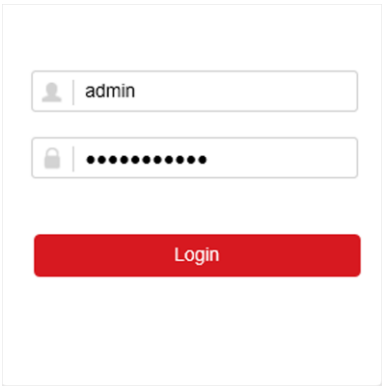


図9-1 ログイン

4. インストールプロンプトに従ってプラグインをインストールします。

注記

プラグインのインストールを完了するには、ウェブブラウザーを閉じる必要がある場合があります。

9.3 ライブビュー

ログイン後、ライブビューインターフェースが表示されます。

図 9-2 ライブビュー

9.4 再生

再生をクリックすると、再生インターフェースに入ります。

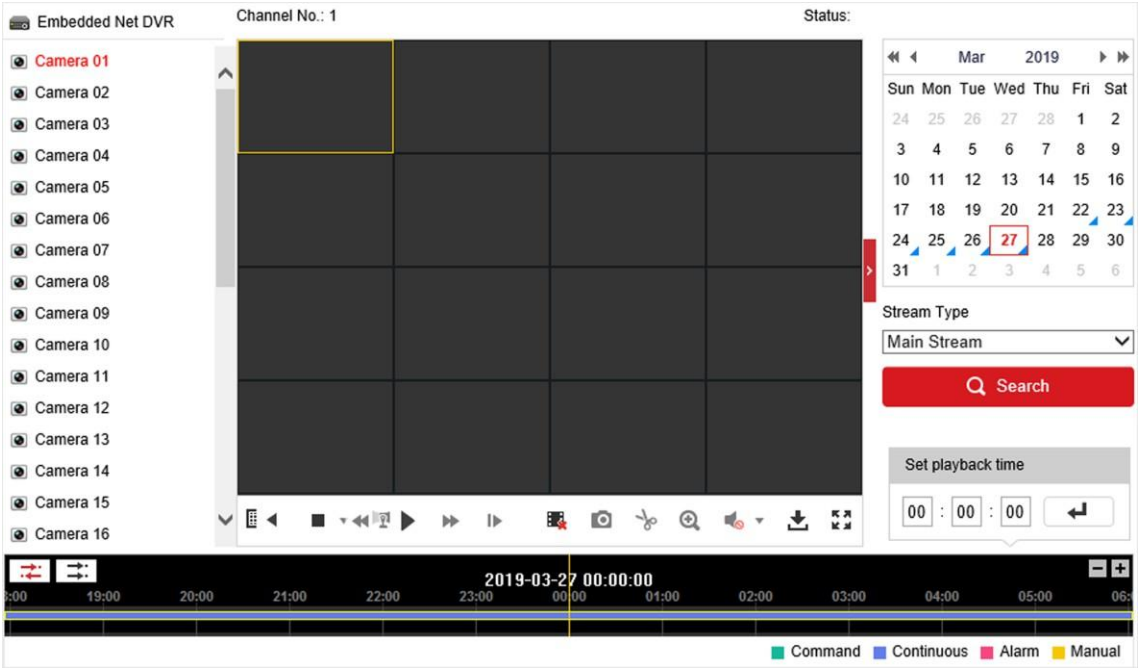


図 9-3 再生

9.5 設定

設定をクリックすると設定インターフェースに入ります。

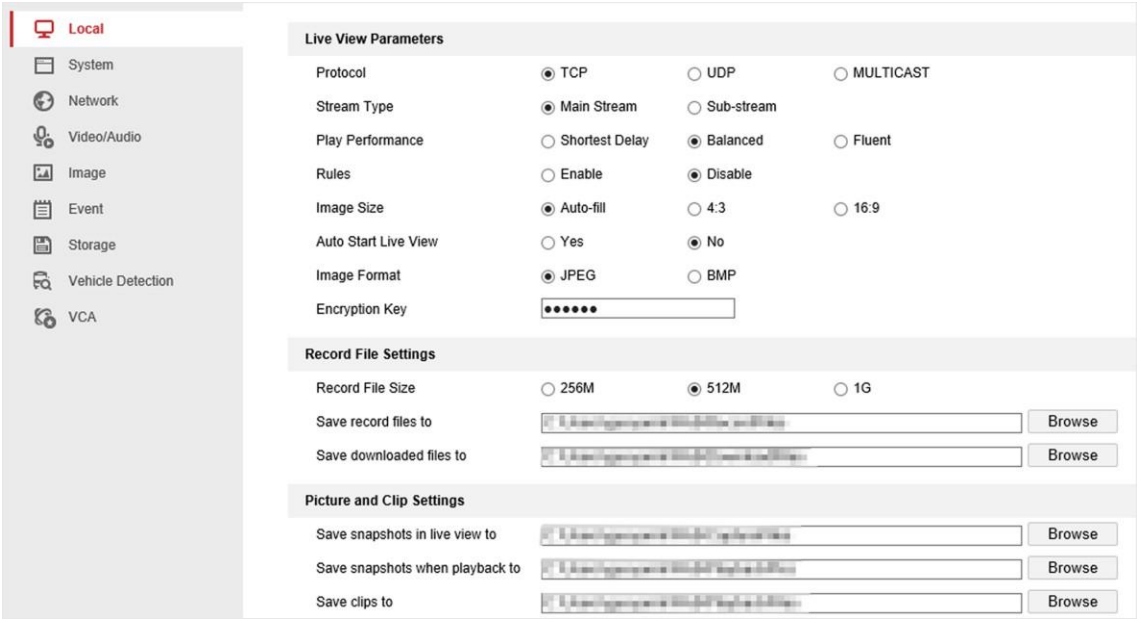


図 9-4 設定

9.6 ログ

手順

1. Go **メンテナンス→ システム→ メンテナンス→ ログ**
2. 検索条件を設定します。
3. **検索**をクリックします。

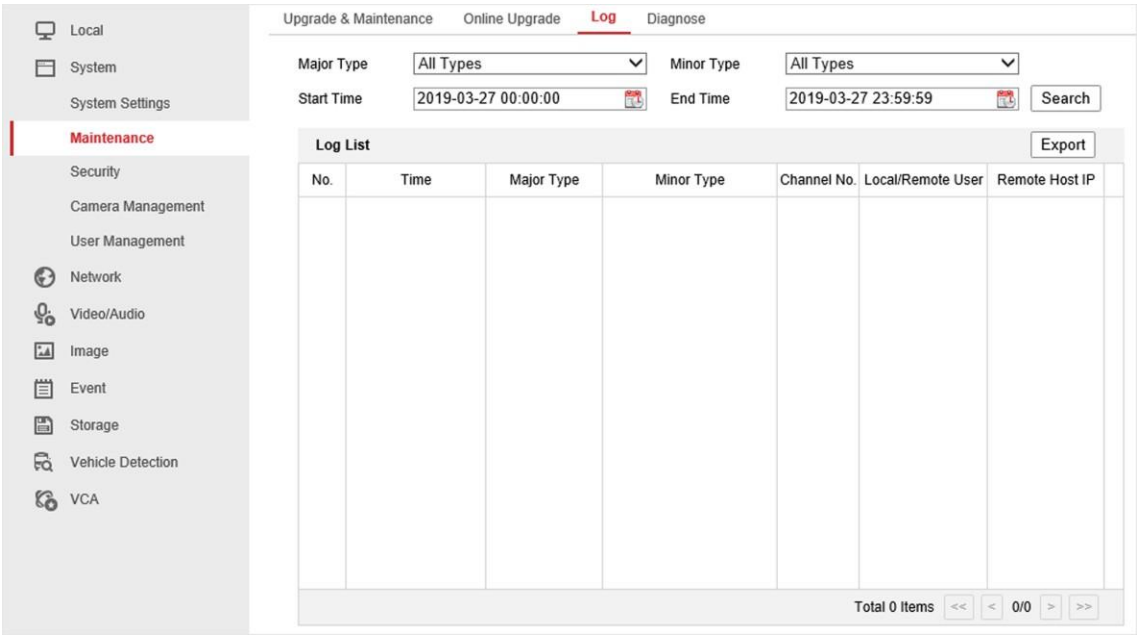

Local
System
System Settings
Maintenance
Security
Camera Management
User Management
Network
Video/Audio
Image
Event
Storage
Vehicle Detection
VCA
Upgrade & Maintenance
Online Upgrade
Log
Diagnose
Major Type
All Types
Minor Type
All Types
Start Time
2019-03-27 00:00:00
End Time
2019-03-27 23:59:59
Search
Log List
Export
No.
Time
Major Type
Minor Type
Channel No.
Local/Remote User
Remote Host IP
Total 0 Items
0/0

図 9-5 ログ

第10章 付録

10.1 用語集

デュアルストリーム

デュアルストリームは、高解像度ビデオをローカルに記録しながら、低解像度のストリームをネットワーク経由で送信するために使用される技術です。2 つのストリームは DVR によって生成され、メインストリームの最大解像度は 1080P、サブストリームの最大解像度は CIF です。

DVR

デジタルビデオレコーダーの略称。アナログカメラからの映像信号を受信し、信号を圧縮して内蔵ハードドライブに保存する装置。

HDD

ハードディスクドライブの略称。磁気表面を持つプラッター上にデジタル符号化されたデータを保存する記憶媒体。

DHCP

ダイナミックホスト構成プロトコル（DHCP）は、デバイス（DHCPクライアント）がインターネットプロトコルネットワークで動作するための構成情報を取得するために使用するネットワークアプリケーションプロトコルである。

HTTP

ハイパーテキスト転送プロトコルの略称。ネットワークを介してサーバーとブラウザ間でハイパーテキストのリクエストや情報を転送するためのプロトコル。

PPPoE

PPPoE（Point-to-Point Protocol over Ethernet）は、イーサネットフレーム内にポイントツーポイントプロトコル（PPP）フレームをカプセル化するためのネットワークプロトコルです。主に、個々のユーザーがイーサネット経由でADSLトランシーバー（モデム）に接続するADSLサービスや、プレーンなメトロイーサネットネットワークで使用されます。

DDNS

ダイナミック DNS は、インターネットプロトコルスイートを使用するルーターやコンピュータシステムなどのネットワークデバイスが、ドメインネームサーバーに通知して、DNS に保存されている設定済みホスト名、アドレス、その他の情報のアクティブな DNS 構成をリアルタイム（アドホック）に変更する機能を提供する、方法、プロトコル、またはネットワークサービスです。

ハイブリッドDVR

ハイブリッド DVR は、DVR と NVR を組み合わせたものです。

NTP

ネットワーク時間プロトコル（Network Time Protocol）の略称。ネットワーク上のコンピュータの時計を同期させるために設計されたプロトコル。

NTSC

全米テレビジョンシステム委員会の略称。NTSCは米国や日本などで使用されるアナログテレビ規格である。NTSC信号の各フレームは60Hzで525本の走査線を含む。

NVR

ネットワークビデオレコーダーの略称。NVRは、IPカメラ、IPドーム型カメラ、その他のDVRの集中管理と保存に使用されるPCベースまたは組み込みシステムである。

PAL

位相交替ライン（Phase Alternating Line）の略称。PALもまた、世界の大部分の地域で放送テレビシステムに使用されている別のビデオ規格である。PAL信号は50Hzで625走査線を含む。

PTZ

パン・チルト・ズームの略称。PTZカメラは電動式システムであり、カメラを左右にパン（水平移動）、上下にチルト（垂直移動）、ズームイン・ズームアウトさせることが可能である。

USB

ユニバーサル・シリアル・バスの略称。USBは、デバイスをホストコンピュータにインターフェースするためのプラグアンドプレイ対応シリアルバス規格である。

遠くを見据え、さらにGo
する